

スノーボード競技規則
THE INTERNATIONAL SNOWBOARD
COMPETITION RULES (ICR)
2016 年 9 月版

—スノーボード—

公益財団法人 全日本スキー連盟
Ski Association of Japan

凡例

OWG: Olympic Winter Games

WSC: FIS World Ski Championships

WJC: FIS World Junior Ski Championships

WC: FIS World Cups

COC: FIS Continental Cups

FIS Races: International FIS Competitions

※ 2016 月 6 月改正概要 (2016/6 FIS 理事会重要決定事項反映)

2001.2.1 ワールドカップにおけるジャッジ数に関する規定の改正

2006.7.1 ジャッジ数に関する規定の改正

2006.9 ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエア種目におけるジャッジスタンドに関する規定の改正

2006.10、2006.11 ジャッジ全般に関する規定の追加

2011.2、2011.3、2011.5 年齢制限に関する規定の改正

2011.6 参加できる年齢に関する規定の改正

2025.2 ファインシュラインとマーキングに関する規定の改正

2604.3.1 HP 種目の予選に関する規定の改正

2604.3.2 HP 種目で準決勝を行わない場合の規定の改正

2604.7.3 HP 種目で準決勝を行う場合の規定の改正

2604.7.4 HP 種目で準決勝、決勝進出選手に関する規定の改正

2705.1.4.2 SBX 種目の予選に関する規定の改正

2706.7～2706.7.14 SBX 種目の総当り戦方式に関する規定の追加

2708 SBX 種目での接触行為に関する規定の改正

2709.2 SBX 種目での失格や制裁に関する規定の改正

2804.3.4 BA 種目の決勝人数に関する規定の改正

2811.4 ジャッジ基準に関する規定の追加

3007.6 SS 種目のジャッジに関する規定の改正

3007.7 SS 種目でのジャッジの減点に関する規定の追加

公益財団法人 全日本スキー連盟

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内

電話 03-3481-2315

FAX 03-3481-2318

スノーボード部技術運営委員会

※ 原文と和文の間で差異がある場合、原文を優先する。

目次

第1部

200	全種目共通規則	8
201	競技会の分類及び種類	8
202	FIS カレンダー	10
203	FIS レース参加のためのライセンス	11
204	選手の参加資格	13
205	選手の義務と権利	14
206	広告とスポンサーシップ	15
207	競技用品とコマーシャルマーケティング	16
208	電子メディア権利の利用	18
209	映画権	22
210	競技会の開催	22
211	組織	22
212	保険	22
213	プログラム	23
214	案内	23
215	エントリー	24
216	チームキャプテンミーティング	24
217	ドロー	24
218	リザルトの公表	25
219	賞	26
220	サービススタッフ、サプライヤー、企業代表者	27
221	医事サービス、健康診断、ドーピング	27
222	競技用品	28
223	制裁	29
224	手続きガイドライン	31
225	上訴委員会 (Appeals Commission)	33
226	制裁の違反	34

第2部

	スノーボード共通規則	35
2000	組織	35
2001	組織委員会とジュリー	35
2002	インフォメーションと組織委員会の開催義務	39
2003	組織委員会の基本費用	39
2004	ジュリー	39
2005	技術代表	44
2006	ジャッジ	49
2007	コースセッター	56
2008	受入れの権限と職務	58
2009	前走者	59

2010	選手の責任	59
2011	年齢制限	60
2020	スタート、フィニッシュ、計時、計算	61
2021	スタート役員、フィニッシュ役員	64
2022	スタート	65
2023	場内放送システム	67
2024	コース及び競技	67
2025	フィニッシュ	69
2026	スタートエリア及びフィニッシュエリアにおけるマイク	69
2027	リザルトの計算及び発表	70
2028	表彰式	71
2030	スタート順	71
2031	スタート順とシード	72
2032	スタートインターバル	73
2033	仮の再走	73
2034	競技またはトレーニングの中断	74
2035	競技の中止	75
2036	上訴	75
2037	スタートが許可されない場合／制裁	75
2038	ペナルティー／制裁	75
2039	失格／制裁	76
2040	上訴委員会	76
2050	抗議	76
2051	抗議の種類	76
2052	抗議の提出	77
2053	抗議の締切時間	77
2054	抗議の形式	78
2055	資格	78
2056	ジュリーによる抗議の処理	78
2057	上訴権	79
2058	公認	79
2070	旗門判定	80
2071	旗門審判員	81
2072	選手に対する責任	81
2073	制裁および失格となる反則の即時通知	82
2074	各ラン終了後の旗門審判員の職務	82
2075	競技終了後の旗門審判員の職務	82
2076	旗門審判員の補足的業務	82
2077	旗門審判員の位置	83
2078	旗門審判員の人数	83
2079	旗門審判員へのサポート	84
2080	ビデオコントロール	84
2085	ゲートフラッグ	85
2089	回転ポール	85
2090	選手の用具	86

第3部

2100 回転	87
2101 テクニカルデータ.....	87
2102 コース.....	87
2103 コースセッティング.....	88
2104 コースインスペクション.....	89
2105 スタート.....	89
2106 回転競技の実施.....	90
2107 競技衣(ウェア).....	90
2200 大回転	91
2201 テクニカルデータ.....	91
2202 コース.....	91
2203 コースセッティング.....	92
2204 コースインスペクション.....	92
2205 スタート.....	92
2206 大回転競技の実施.....	93
2207 競技衣(ウェア).....	93
2400 トリプルスラローム競技(TSL)	94
2401 定義.....	94
2402 テクニカルデータ.....	94
2403 コースの選定及び整備.....	94
2404 コース.....	95
2405 スタート.....	95
2406 フィニッシュ.....	96
2407 コースセッティング.....	96
2408 計時.....	96
2409 トリプルスラローム競技の実施.....	96
2410 レースのコントロール.....	99
2411 失格/制裁.....	99
2412 最終順位.....	99
2413 競技衣(ウェア).....	99
2500 パラレル競技	100
2501 定義.....	100
2502 テクニカルデータ.....	100
2503 コースの選定及び整備.....	102
2504 コース.....	102
2505 スタート.....	102
2506 フィニッシュ.....	103
2507 コースセッティング.....	103
2508 計時とデータ.....	104
2509 パラレル競技の実施.....	105
2510 レースのコントロール.....	110
2511 失格/制裁.....	110
2512 ペナルティータイム.....	110
2513 競技衣(ウェア).....	111
2514 パラレルチーム競技.....	111
2515 テクニカルデータ.....	111
2516 コース.....	111

2517	コースセッティング	111
2518	インスペクション	111
2519	パラレルチーム競技の実施	111
2520	スタート	113
2521	プロセツト	113
2522	パラレルの決勝における棄権(DNS)	113
2523	コースインスペクション	113
2524	レースのコントロール	113
2525	失格/制裁	114
2526	パラレル種目ランキング 2509.2 によるファイナルランキング	114
2600	ハーフパイプ	115
2601	テクニカルデータ	115
2602	ハーフパイプコース	116
2603	トレーニング	116
2604	競技方式	116
2605	ハーフパイプの実施	120
2606	シード	120
2607	選手の用具	120
2608	場内放送システム	121
2609	スタート及びフィニッシュ担当の役員	121
2610	スタート	121
2611	フィニッシュ	122
2612	スノーボードハーフパイプの採点システム	122
2613	ジャッジ基準	123
2700	スノーボードクロス	126
2701	テクニカルデータ	126
2702	コース	127
2703	コースセッティング	127
2704	インスペクション/トレーニング	128
2705	スノーボードクロス(SBX)の実施	128
2706	スノーボードクロスにおける決勝の組み合わせ	132
2707	スタート	137
2708	接触行為	138
2709	抗議	139
2710	最終順位	139
2711	スノーボードクロスチーム(SBX チーム)	140
2712	テクニカルデータ	140
2713	コース	140
2714	コースセッティング	140
2715	インスペクション/トレーニング	140
2716	SBX チームの実施	140
2717	スタート	142
2718	コンタクト	142
2719	プロテスト	142
2720	ファイナルランキング	142
2800	ビッグエア	144
2801	テクニカルデータ	144
2802	ビッグエアコース	145
2803	トレーニング	145

2804	競技方式	145
2805	ビッグエアの実施	153
2806	選手の用具	153
2807	場内放送システム	154
2809	ビッグエアのジャッジング	154
2810	ビッグエアの採点システム	154
2811	ジャッジ基準	155

第 4 部

特別ルール	158
2900 人工照明下の競技	158
3000 スノーボードスロープスタイル	159
3001 スロープスタイル	159
3002 テクニカルデータ	159
3003 選手の用具	160
3004 スロープスタイルの実施	161
3005 場内放送システム	162
3006 ビデオジャッジ	163
3007 スロープスタイルのジャッジング	163
3008 スロープスタイルの採点システム	166

第 1 部

200 全競技種別共通規則

- 200.1 FIS カレンダー大会はすべて、関連する FIS ルールの下に開催する。
- 200.2 組織と運営
各種競技会の組織と運営に関する規則や指示は、それぞれの規則を参照する。
- 200.3 参加
FIS カレンダーに掲載されている競技会には、所属国スキー連盟が適切に許可し、且つ、最新のクォータに従いエントリーされた選手が参加できる。
- 200.4 特別規則
FIS 理事会は、異なる参加資格基準がある国内または国際競技会を開催するために、各国スキー連盟に規則や規程を採用する権限を与えることができる。ただし、現行規則の範囲内であることを条件とする。
- 200.5 コントロール
FIS カレンダーに掲載されている全競技会は、FIS 技術代表(以下「TD」)が監督しなければならない。
- 200.6 選手、オフィシャル、コーチについて科され、公表されたあらゆる法的制裁は、FIS 及び各国スキー連盟に承認される。

201 競技会の分類及び種類

- 201.1 特別ルール／参加制限のある競技会
FIS 加盟の各国スキー連盟、またはこれらの各国スキー連盟に所属し連盟の承認を得たクラブは、近隣国スキー連盟またはそのクラブを、自らの開催する競技会に招待することができる。ただし、これらの競技会を国際競技会として公表、告知してはならない。また、告知の際に、その参加制限を明確にしなければならない。
- 201.1.1 特別規則及び／または参加制限のある競技会や、FIS 非加盟連盟を含む競技会を、FIS 理事会の承認する特別競技規則の下で開催することができる。そのような規則は、その告知の中で、公表されなければならない。
- 201.2 FIS 非加盟組織との競技会
FIS 理事会は、FIS 加盟国スキー連盟が、競技会に FIS 非加盟組織(軍隊など)を招待することや、そのような組織からの招待を受理することを認めることができる。

- 201.3 競技会の分類
 - 201.3.1 オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権、FIS ジュニア世界選手権
 - 201.3.2 FIS ワールドカップ
 - 201.3.3 FIS コンチネンタルカップ
 - 201.3.4 国際 FIS 競技会 (FIS レース)
 - 201.3.5 特別参加及び／または資格基準のある競技会
 - 201.3.6 FIS 非加盟組織の参加する競技会
- 201.4 FIS 競技種別 (FIS Disciplines)
競技とはスポーツの1つの分野であり、また、1つまたは複数の種目を含む。例えば、クロスカントリースキーは FIS 競技であり、クロスカントリースプリントは種目である。
 - 201.4.1 FIS 競技の承認
新しい競技が、1つまたは複数の種目からなり、少なくとも 25 ヶ国と3大陸で広く行われている場合、FIS プログラムとして含むことができる。
 - 201.4.2 FIS 競技からの除外
競技が少なくとも2つの大陸の 12 の各国スキー連盟で行われない場合、FIS 総会で FIS プログラムからその競技を除外することができる。
- 201.5 FIS イベント
イベントは、スポーツの競技会、またはその競技の内の1つである。それは、順位 (ランキング) をつけられ、メダル及び／またはディプロマが与えられる。
- 201.6 競技会のタイプ
国際競技会は、次からなる：
 - 201.6.1 ノルディック大会
クロスカントリー、ローラースキー、スキージャンプ、スキーフライング、ノルディックコンバインド、ノルディックコンバインド団体戦、ローラースキーまたはインラインを用いたノルディックコンバインド、スキージャンプ団体、プラスチックジャンプ台でのスキージャンプ、ポピュラークロスカントリーレース
 - 201.6.2 アルペン大会
滑降、回転、大回転、スーパー大回転、パラレル、複合、KO、団体
 - 201.6.3 フリースタイル大会
モーグル、デュアルモーグル、エアリアル、スキークロス、ハーフパイプ、スロープスタイル、団体
 - 201.6.4 スノーボード大会
スラローム、パラレルスラローム、大回転、パラレル大回転、スーパーG、ハーフパイプ、スノーボードクロス、ビッグエア、スロープスタイル、団体

- 201.6.5 テレマーク大会
- 201.6.6 フィルングライテン
- 201.6.7 スピードスキー大会
- 201.6.8 グラススキー大会
- 201.6.9 他のスポーツとの複合大会
- 201.6.10 チルドレン、マスターズ、障害者大会等
- 201.7 FIS 世界選手権大会プログラム
- 201.7.1 FIS 世界選手権のプログラムに含まれるためには、種目は、数と地理的に認められた国際的立場があり、また、世界選手権大会プログラムに含まれることが考慮される前に、少なくとも2年間ワールドカップに含まれていなければならない。
- 201.7.2 世界選手権大会の遅くとも3年前までには、種目は、(世界選手権プログラムに含まれることを)認められる。
- 201.7.3 単一の種目は、個人ランキングとチームランキングの両方を同時にもたらすことはできない。
- 201.7.4 FIS 世界選手権大会及び FIS ジュニア世界選手権大会のすべての競技(アルペン、ノルディック、スノーボード、フリースタイル、グラススキー、ローラースキー、テレマークスキー、スピードスキー)で、団体及び個人種目にそれぞれ8ヶ国以上の参加があった場合のみに、メダルは授与される。

202 FIS カレンダー

- 202.1 立候補と告知
- 202.1.1 各国スキー連盟は、「世界選手権大会開催規則」に従い、FIS 世界選手権大会の開催立候補を表明する権利を持つ。
- 202.1.2 その他すべての競技会については、FIS の発行する FIS カレンダー・カンファレンス規則に従い、各国スキー連盟が、国際スキーカレンダーに掲載するための登録を FIS にしなければならない。
- 202.1.2.1 各国スキー連盟は 8 月 31 日までに、FIS カレンダープログラム (<ftp://ftp.fissski.ch/Software/Programs/>) を使い FIS に申請を提出しなければならない。(南半球の大会は 5 月 31 日まで)
- 202.1.2.2 競技会の割り当て
各国スキー連盟への競技会の割り当ては、FIS と各国スキー連盟の間での電子通信を通じて行う。FIS ワールドカップ競技会の場合、カレンダーは、それぞれの技術委員会の提案に基づき、理事会の承認を条件とする。

- 202.1.2.3 コース公認
FIS カレンダーに掲載されている競技会は、FIS 公認を受けた競技コースまたはジャンプ台でのみ開催することができる。大会の申し込みをする際に、コース公認証番号が記載されていないといけない。
- 202.1.2.4 FIS カレンダーの公表
FIS カレンダーは、FIS により FIS ウェブサイト(www.fis-ski.com)で公表される。FIS が、キャンセル、延期、その他の変更を絶えず反映させ、アップデートする。
- 202.1.2.5 延期
FIS カレンダーに掲載されている競技会が延期となる場合、FIS に速やかに連絡し、各国スキー連盟に新しいインビテーションを送付しなければならない。さもなければ、その競技会は FIS ポイント対象とならない。
- 202.1.2.6 カレンダーフィー
年会費に加え、カレンダーフィーが FIS 総会で決められ、FIS カレンダー上の各大会分を毎年支払うものである。競技日の 30 日前に提出された申請については、通常のカレンダーフィーに加え、50%の追加料金を支払う。代替となった大会についてのカレンダーフィーは、全額の支払い責任が元の開催国スキー連盟にある。シーズン初めに、各国スキー連盟に前シーズンの実績の70%の請求書が送られる。この請求額は FIS アカウントから引き落とされる。シーズン終了後、各国スキー連盟は、そのシーズンのすべての競技会の詳細な請求書を受取る。その後、差額が当該国の FIS アカウントから引き落とされる、もしくは入金される。
- 202.1.3 レース開催者の任命
各国スキー連盟が、加盟しているスキークラブなどをレース開催者に任命する場合、「国内スキー連盟と開催者の登録用紙」または同様の同意書を利用して任命する。各国スキー連盟による国際スキーカレンダーへの大会申請は、大会開催について必要な同意が確立されたものとみなす。
- 202.2 他国でのレース開催
他国のスキー連盟により開催される競技会は、開催地となる国のスキー連盟が承認したときのみ、FIS カレンダーに掲載される。
- 203 FIS レース参加のためのライセンス
FIS レースに参加するためのライセンスは、FIS に各競技(複数可)において選手登録をし、参加基準を満たす選手に、各国スキー連盟により発行される。
- 203.1 FIS ライセンスイヤーは、7 月 1 日から始まり、翌年 6 月 30 日に終了する。

- 203.2 FIS大会への参加資格を得るには、選手は所属国スキー連盟が発行したライセンスを所持しなければならない。このライセンスは、当該ライセンスイヤー期間中のみ、北半球及び南半球で有効である。
ライセンスは特定の1ヶ国または特定の複数大会での参加に限って有効である。
- 203.2.1 FISレースに参加するためにFISライセンスを登録した選手全員が、FIS規則を承諾していることを、各国スキー連盟は保証しなくてはならない。特にドーピング事例における上訴裁判所としてのスポーツ仲裁裁判所(CAS)の独占的権限に触れている条項を承諾していることを保証しなければならない。
- 203.3 選手がパスポートのコピーを提出することでその国政と有資格を証明し、FIS理事会が承認した書式の選手宣誓書に署名し、それを所属のスキー連盟に返送した場合にのみ、各国スキー連盟は、FISライセンスを発行することができる。未成年の申請者から提出されるすべての書類には、保護者(法的後見人)の署名が必要である。パスポートのコピーと署名された選手宣誓書は、要望に応じて、FISに提出できるようにしてはならない。
- 203.4 FISライセンスイヤー(7月1日から翌年6月30日)の期間中、選手は1ヶ国のスキー連盟が発行するFISライセンスを持って、国際FIS競技会に参加することができる。
- 203.5 FISライセンス登録の変更申請
一国のスキー連盟から他国のスキー連盟へのライセンス登録の変更申請は、春のFIS理事会で検討される。原則として、選手が、新しい国への関連を証明しない場合、ライセンス登録の変更申請は認められない。ライセンス登録の変更申請を提出する前に、選手は競技をする国の市民権及びパスポートを所持していなければならない。加えて、新しい国/スキー連盟への登録の変更を要望する日から遡り、2年間以上、その選手はその国の主たる法的に有効な居住地がなければならない。選手が、新たに登録する国で生まれている場合、また、父または母がその国の国民である場合、2年間の居住規則への例外が撤回される。また、選手は、個人の状況についての詳細な説明と、ライセンス登録の変更申請の理由を、申請と共に提出する必要がある。
親が新しい国のパスポートを取得したが、その居住者でなく、及び/または、その国に祖先がいない場合、申請は認められない。
- 203.5.1 選手が、各国スキー連盟を代表してFISカレンダー大会に既に参加している場合、新しく所属するスキー連盟が登録変更の要望をFISに送る前に、203.5条に記載の市民権・パスポート・居住地に関する必要事項に加えて、前所属のスキー連盟から書面での同意が必要である。
このような書面の同意がない場合、選手は、前所属のスキー連盟を代表して参加したシーズンの終わってから12ヶ月間FISカレンダー大会に参加できなく、また、新しく所属するスキー連盟よりFISレースに参加するためのライセンスの発行を受けることもできない。これらのルールは、選手が複数の国籍を持ち、ライセンス登録国の変更を希望するときにも有効である。

- 203.5.2 規則のスピリットに反していて、国際スキー連盟の利益と考えられる場合、FIS 理事会は、前述の条件が満たされるにも関わらず、ライセンスの付与または、付与、変更を断る権利を完全なる裁量権で保持する。(例:加盟国スキー連盟が選手を輸入しようとする場合、ライセンス登録の変更を拒否する。)
- 203.5.3 ライセンス登録国の変更申請に必要な条件を満たさない場合、例外的な状況があり、その変更を許諾することが国際スキー連盟の利益である旨を、書面にて、FIS 理事会が納得するように説明する義務は、選手にある。
- 203.5.4 選手が所属国スキー連盟を変更する場合、前の所属スキー連盟がその選手の移籍を許諾する条件で、それまでの FIS ポイントを保持する。
- 203.5.5 各国スキー連盟が提出したライセンス登録の変更申請書類(前の所属スキー連盟からの同意書面、パスポート、居住地に関する手紙)が虚偽と分かった場合、FIS 理事会は、その選手と新しく所属するスキー連盟に罰則を科す。

204 選手の参加資格

- 204.1 各国スキー連盟は、次に該当する選手をその組織の中で、サポートまたは登録してはならず、並びに FIS または国内レースに参加をするためのライセンスを発行してはならない。
- 204.1.1 不品行またはスポーツマンらしくならぬ行為を犯したことがある、もしくは FIS 医事規定やアンチドーピング規定を尊重しなかったことがある。
- 204.1.2 直接もしくは間接的に、競技会への出場に対する金銭報酬を受ける、または受けたことがある。
- 204.1.3 219 条に定められたよりも高価な賞を受ける、または受けたことがある。
- 204.1.4 所属国スキー連盟または担当プールが当事者となってスポンサー、用品、広告に関する契約を結んでいる場合を除き、自分の氏名、肩書き、個人写真が広告に使用されることを許可する、または許可したことがある。
- 204.1.5 FIS 規則による出場資格を持たない選手と故意に対戦する、または対戦したことがある。ただし、次の場合を除く。
- 204.1.5.1 その競技会を FIS 理事会が承認し、FIS または各国スキー連盟が直接コントロールし、かつその競技会が“オープン”競技会として告知されている。
- 204.1.6 選手宣誓書に署名していない。
- 204.1.7 出場停止処分中である。

204.2 FIS レースに参加をするためのライセンス発行及びエントリーをもって、各国スキー連盟は、トレーニング及び競技会に対する十分かつ有効な傷害保険がその選手にかけられていることを確認し、全責任を負う。

205 選手の義務と権利

205.1 選手には FIS 規則を熟知する義務があり、またジュリーからの追加の指示にも従わなければならない。また、選手は、FIS 規則と規定に従わなければならない。

205.2 選手はドーピングを使用してはならない。(FIS アンチドーピング規則&手続きガイドラインを参照。)

205.3 選手宣誓書に書かれてあるように、選手は、トレーニングコース・競技コースの安全性の懸念についてジュリーに報告する権利がある。更なる詳細は、対応する競技規則に記載されている。

205.4 表彰式に理由なく欠席した選手は、賞金を含むすべての賞に対する請求権を失う。例外的な状況においては、所属チームのメンバーが代理出席することもできるが、この代理人が表彰台に立つことはできない。

205.5 選手は、組織委員会委員、ボランティア、役員、一般の人々に対し、礼儀正しくかつスポーツマンらしくふるまわなければならない。

205.6 選手へのサポート

205.6.1 FIS レースに参加するために、所属のスキー連盟を通して FIS に登録をする選手は、次を受ける可能性がある。

205.6.2 トレーニング及び競技会場への旅費の完全な補償

205.6.3 トレーニング及び競技期間中の宿泊費全額払い戻し

205.6.4 ポケットマネー

205.6.5 各国スキー連盟の決定に従い、所得喪失に対する補償

205.6.6 トレーニングや競技会のための保険を含む社会保障

205.6.7 奨学金

205.7 各国スキー連盟は、選手が引退した後の将来の職業や教育を保証するために、資金を積み立てることができる。

各国スキー連盟の判断に従ってのみ分配されるこれらの資金に対し、選手は請求権を持たない。

205. 8 競技のギャンブル
選手、コーチ、チーム役員、競技役員は、自身が関係する競技会の結果への賭博行為を禁止されている。
- 206 広告とスポンサーシップ**
この国際競技規則の文脈では、“広告”とは、会場での標識の掲示やその他の表示と見なされ、一般の人々に会社や組織の認知度を上げるために、商品名やサービス名を伝え、及び、そのブランド名、活動、商品、サービスを伝えている。一方で、スポンサーシップは、会社に、競技会や大会のシリーズ(seriesofevents)と直接の関わりを持つ機会を提供する。(2014.6 改正)
- 206.1 オリンピック冬季競技大会と FIS 世界選手権大会
オリンピック冬季競技大会と FIS 世界選手権大会のすべての広告とスポンサーシップの権利は、それぞれ IOC と FIS に属し、別の契約の取り決めに従う。(2014.6 改正)
- 206.2 FIS 大会
すべての FIS 大会では、FIS 広告規則が競技エリアでの広告の機会を定義している。そして、FIS 理事会の承認を必要とする。FIS ワールドカップ大会の場合、FIS 広告規則は各国スキー連盟と開催地との FIS 開催地契約書の不可欠な部分を形成する。(2014.6 改正)
- 206.3 加盟国スキー連盟
FIS カレンダーに掲載される大会を、自国で開催する各国スキー連盟は、大会の広告権利保持者として、売買契約する権限がある。
FIS ワールドカップ競技会の場合、これらの権利は FIS 理事会の承認に基づき、各国スキー連盟の責任を考慮に入れている開催地契約書に定義される。
各国スキー連盟が、自国の外で大会を開催する場合、これらの広告規則が同様に適用される。(2014.6 改正)
- 206.4 タイトルスポンサーとプレゼンティングスポンサーの権利
FIS シリーズが FIS 理事会で承認された場合、FIS は、タイトル/プレゼンティングスポンサー(代わりの名称も可能)パッケージの権利をマーケティングする。
FIS ワールドカップシリーズの場合、これらの権利は、当該競技種別のイメージと価値を促進する適切なスポンサーに売られる。
タイトル/プレゼンティングスポンサーの権利の売却から生まれる収入は、プロフェッショナルの運営を提供するために FIS により使われる。(2014.6 改正)
- 206.5 マーキングの仕様とサポート
全ての広告とコマーシャルマーケティングそして用いられるサポートは、適切な FIS 広告規則で説明される技術的な規格に準ずる。(2014.6 改正)

- 206.6 広告パッケージ
広告の場所・数・サイズ・形は、各競技種別の FIS 広告規則に明記される。
グラフィックのイラストを含む詳細な情報は、FIS ウェブサイトで公開されている各競技種別のマーケティングガイドに書かれている。マーケティングガイドは、必要に応じて FIS 広告委員会によって見直され、更新されそして FIS 理事会で承認後、公開される。
- 206.7 商業賭け企業 (commercial betting companies) によるスポンサーシップ
- 206.7.1 FIS は、タイトル／プレゼンティングスポンサーの権利を商業賭け企業 (commercial betting companies) に与えない。(2014.6 改正)
- 206.7.2 商業賭け企業 (commercial betting companies) による大会のスポンサーシップは、条項 206.7.3 を条件として認められる。(2014.6 改正)
- 206.7.3 選手を使った、または選手に付ける商業賭け企業 (commercial betting companies) の広告 (ヘッドスポンサー、競技スーツ、スタートビブ) は禁止される。(2014.6 改正)
- 206.8 各国スキー連盟またはそのプールは、資金提供や用品・商品の供給について、オフィシャルサプライヤーまたはスポンサーとして各国スキー連盟に認められている企業や組織と契約することができる。FIS や IOC の出場資格規則によって資格を持たないスポーツマンと一緒に、FIS 選手の写真、肖像または氏名を使用した広告を禁止する。
タバコ、アルコール製品、ドラッグ (麻薬) を選手で宣伝すること、または選手を (使い宣伝することを禁止する。
- 206.9 そのような契約におけるすべての対価は、各国スキー連盟またはスキープールへ支払われなければならない。各国スキー連盟やスキープールは、各国スキー連盟の規程に従って対価を受ける。
205.6 条に定められた場合を除き、選手がそのような対価を例え一部であれ直接受け取ることはできない。FIS は契約書のコピーをいつでも請求することができる。
- 206.10 ナショナルチームに供給され、使用されている用品のマーキングやトレードマークについては、207 条の規格に従わなければならない。
- 207 競技用品とコマーシャルマーキング (2014.6 改正)**
- 207.1 FIS 大会における競技用品
FIS ワールドカップ及び FIS 世界選手権大会においては、広告に関する FIS 規則に準じ、各国スキー連盟が提供し、かつ承認したコマーシャルマーキングのついた競技用品のみ身につけることができる。ウェア、用品へのわいせつな名前及びまた記号は禁止されている。

- 207.1.1 FIS 世界選手権大会、FIS ワールドカップ及びすべての FIS カレンダー大会において、国歌演奏および／または国旗掲揚を含む公式セレモニーに、選手が用品(スキー／ボード、ポール、スキーブーツ、ヘルメット、眼鏡類)を持ち込むことはできない。しかしながら、全セレモニー(トロフィー及びメダルの授与、国歌演奏)が終了した後、プレス写真や撮影等のために、表彰台の上で用品を持つことは認められる。
- 207.1.2 表彰式(Winners Presentation)／表彰台での用品
FIS 世界選手権大会及び全ての FIS カレンダーの種目では、選手は以下の用品を表彰台に持ち込むことが許されている。
- スキー／ スノーボード
 - 履物: 選手はブーツを足に履くことができる。しかし、それ以外の場所(例: 選手的首周り等)に付けることは許されない。選手が足に履く場合を除き、他のシューズをプレゼンテーション中に表彰台に持ち込むことはできない。
 - ポール: スキーの周囲に持ったり、取り付けてはならない。普通はもう一方の手に持つこと。
 - ゴーグル: 着用するか、または首の周りの何れかとする。
 - ヘルメット: もし着用する場合、頭に着用するのみ。他の用品の上に乗せるなどの行為は認めない。例: スキーまたはポール。
 - スキーストラップ: スキーの製造メーカー名が付いたものを 2 本まで使用できる。内、1 本はワックスメーカーのために使用できる。
 - ノルディックコンバインド、クロスカントリーのスキーポールクリップ: クリップは、2つのポールを束ねるために使用できる。そのクリップの幅は2つのポールの幅が認められるが、4cm 以内とする。その長さ(高さ)は、10cm が認められる。そのクリップの長い辺(サイド)は、ポールに対して平行でなければならない。そのポールメーカーのコマーシャルマーキングは、そのクリップの表面全体を覆うことができる。
 - その他全てのアクセサリを禁止する。: ベルト付ウエストバック、ネックバンドに付いた電話、ボトル、リュックサック／バックパックなど。
- 207.1.3 優勝者の非公式プレゼンテーション(フラワーセレモニー)、および大会終了直後の大会エリアでの国歌演奏を伴う優勝セレモニーは、抗議時間終了前であっても、開催者自らの責任において開催が認められる。スタートビブを見えるように着用することは義務である。
- 207.1.4 制限された通路(リーダーボード及び TV インタビューエリアを含む)での、大会のスタートビブまたは各国スキー連盟のアウターウェアの着用は、義務である。
- 207.2 コマーシャルマーキング
用品とウェア上のコマーシャルマーキングのサイズ、形状、数に関する規格は、コマーシャルマーキング及び広告に関する細則と同様に、広告委員会により検討され、毎年 FIS 理事会が次のシーズンに向けて承認し、FIS から公表される。(2014.6 改正)
- 207.2.1 競技用品規格／コマーシャルマーキングで公表されている関連する細則と同様に、用品とウェア上のコマーシャルマーキングと広告を管理する規則は遵守されなければならない。(2014.6 改正)
- 207.2.2 これらの広告規則に違反した選手は、条項 223.1.1 に規定されているように制裁に科せられる。制裁が適用され、ペナルティが科せられる違反行為は、競技規則違反または不遵守の行為として、定義される。(2014,6 改正)
- 207.2.3 国内スキー連盟が自国の選手に対しこれらの規則を施行できない場合、または何らか

の理由でその件を FIS に差し戻す場合、FIS は選手のライセンスの即時停止処置をとることができる。当該選手や当該国スキー連盟は、最終決定が下される前に、抗議する権利を持つ。(2014.6 改正)

- 207.2.4 広告主が、選手の氏名、肩書、個人写真を、商品の広告、推薦、販売に関連付けて、選手の承諾を得ずに無断で使用した場合、選手は所属国スキー連盟または FIS に対して「委任状」を渡すことができる。この委任状により、必要な場合は所属国スキー連盟または FIS が、問題の企業に対し法的手段に出ることができる。選手が委任状を提出しない場合、FIS はその選手が当該企業に許可を与えたものと判断する。
- 207.2.5 選手の参加資格、スポンサーシップ、広告、選手へのサポートに関して FIS 理事会はこれらの規則の違反や不履行について報告を受け、問題についての対策を検討する。

208 電子メディア権利の利用

- 208.1 原則
 - 208.1.1 オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会
オリンピック冬季競技大会及び世界選手権大会のすべてのメディアの権利は、それぞれ IOC、FIS に属し、別の契約に基づかれる。
 - 208.1.2 各国スキー連盟が持つ権利
FIS カレンダーに掲載されている大会を自国開催する FIS 加盟国スキー連盟は、電子メディア権利の所有者として、それらの大会の電子メディア権利の販売契約を締結する権限がある。各国スキー連盟が自国以外で大会を開催する際、これらの規則が適用されるが、大会が開催される国のスキー連盟との2国間協定に従うものとする。
 - 208.1.3 プロモーション
スキーとスノーボードスポーツの広いプロモーションと露出の目的で、各国スキー連盟の利益を考慮し、契約は、FIS と協議して、準備される。
 - 208.1.4 大会へのアクセス
全ての競技会において、メディアエリアへの人と器材の入場は、必要なアクレディテーションとアクセスパスを持つ人物に限られる。アクセスの優先権は、権利保持者に与えられる。アクレディテーションシステムとアクセスコントロールは、非権利保持者によるあらゆる不正を避けなければならない。
 - 208.1.5 FIS 理事会によるコントロール
FIS 理事会は、各国スキー連盟及びすべての開催者によるこの規則の原則への順守をコントロールする。それについての契約や条項が FIS、各国スキー連盟、大会開催者の利益の利害衝突をもたらす場合、FIS 理事会により検討される。適切な解決方法を見つけるため、全ての情報が提供される。

208.2

定義

この規則の中では、次の定義が適用される。:

電子メディア権利は、テレビ、ラジオ、インターネット、モバイル機器の権利を意味する。テレビの権利は、地上波、衛星、ケーブル、電線の方法による、テレビスクリーンでの公と私的な視聴を目的とした、映像と音からなる、アナログとデジタルの両方での、TV 映像の配信を意味する。番組有料視聴制、定期視聴、インタラクティブ TV、ビデオ・オン・ダイヤモンド・サービス、IPTV、または同様のテクノロジーは、この定義に含まれる。ラジオの権利は、無線、有線、ケーブルで、固定とポータブルの機器への、アナログとデジタルのラジオプログラムの配信と受信を意味する。インターネットは、相互接続されたコンピュータネットワークを通じての映像と音へのアクセスを意味する。モバイル及びポータブル機器は、テレフォンオペレーターを通じた、携帯電話やその他の固定されていない機器(例: パーソナル・デジタル・アシスタント)での受信可能な映像と音の提供を意味する。

208.3

テレビ

208.3.1

製作の基準及び競技会のプロモーション

ホスト放送局のテレビ会社または代理店との製作に関する契約について、FIS カレンダーに掲載されているスキー/スノーボード大会、特に FIS ワールドカップ競技会のテレビ放送の質が考慮されなければならない。放送に影響を及ぼす国内法令と規則を考慮に入れた上で、次の点が特に重要である:

- a) スポーツを中心とした、最高品質かつ最適なテレビ信号(ライブまたはディレイは、その大会による)の制作。
- b) 会場の広告とイベントスポンサーの適切な配慮と露出。
- c) FIS テレビ製作ガイドラインに沿った製作基準とその競技の現行マーケットの状況と FIS 競技会シリーズのレベルに対して適切な製作基準。このことは、表彰式のライブ放送を含む、大会全体のライブ放送を意味する(事情により、ライブ放送が提供されない限り)。放送は特定の選手や国に集中されず、自然な形で製作され、全選手が映される。
- d) ホスト放送局のライブ国際信号は、適切な英語のグラフィック、特に FIS オフィシャルロゴ、タイミング & データインフォメーション、リザルト、及び国際音声が含まれていなければならない。
- e) 個別のテレビマーケットの必要に応じて、大会開催国と関心が高い国では、ライブテレビ放送が行われるべきである。

208.3.2

制作コスト及び技術コスト

各国スキー連盟と代理店／権利を管理する会社との間で合意している場合を除き、様々な権利の使用の目的でのテレビ信号の製作コストは、放送局や製作会社により負担される。その放送局は、競技会が行われる国で権利を獲得した放送局であり、製作会社は権利を持っている会社から信号製作を依頼された製作会社である。開催者や各国スキー連盟が、これらの費用を負担するケースもある。この規則の基に得られた様々な権利に関して、技術費用は、権利を得て、テレビ信号へ（解説抜きのオリジナルの画と音）のアクセスを求めている会社より支払われ、技術費用は、必要に応じて、制作会社または代理店／権利を管理する会社との間で合意されなくてはならない。このことは、また、その他の制作コストに適用される。

208.3.3

短い抜粋

非権利保持者のためにニュースアクセスを可能にする短い抜粋は、次の規則にそって、テレビ会社に提供される。多くの国の国内法が、ニュースプログラム内の短い抜粋を放送することを法律に定めていることに注意する。

- a) スポーツ大会へのニュースアクセスに関する法律がある国では、FIS 大会の報道について、その法律が常に優先される。
- b) 競合するネットワークによるニュースアクセスに関する法律がない国では、権利を管理する会社と主要権利保持者 (Primary right holder) の契約が優先される条件で、権利を保持しているネットワークが競技会を放送してから4時間後に、放送権を管理する代理店／会社により、最大 90 秒のニュースアクセスが競合ネットワークに与えられる。この素材の使用は、競技会終了後 48 時間以内で止める。
権利を保持しているネットワークが競技会の終了から 72 時間以上遅れて放送する場合、競合するネットワークは、最大 45 秒の短い抜粋を、大会終了後の 48 時間後から 72 時間後まで放送できる。短い抜粋を使用する要望は、代理店／権利を管理する会社に伝えられ、放送局に短い抜粋へのアクセスが与えられる。但し、素材を受取りに発生する技術費用に関する合意に基づかれる。
- c) テレビ会社が放映権を購入していない国では、すべてのテレビ会社が、素材が手に入り次第、45 秒間の短い抜粋を放送できる。但し、素材の受取りに発生する技術費用に関する合意に基づかれる。この素材の使用許可は、48 時間後に終了する。
- d) 208.3.2 が考慮されながら、短い抜粋は、ホスト放送局や代理店／権利を管理する会社により製作、配信される。

208.4

ラジオ

関心がある各国の主要ラジオ局にア krediyteeshyon を与えることで、ラジオ プログラムを通じた FIS の大会のプロモーションが促される。会場へのアクセスは、権利保持者から必要な契約上の認可を得たラジオ会社に限り認められ、ラジオ (オーディオ) プログラムの製作の目的のみである。国内の慣例により受け入れられ、認可が得られている場合、これらのプログラムをラジオ局のインターネットサイトで配信することもできる。

208.5

インターネット

FIS の大会にかかる電子メディア権利の販売契約で別段の合意がない限り、インターネットの権利も得た各テレビ権利保持者は、その会社のウェブサイトから配信される短い抜粋以外のビデオストリームが、自身のテリトリー外からのアクセスに対してブロックされることを保証する。FIS の大会の素材が含まれる、定期的な予定されているニュースブリテンは、権利を持つ放送局のウェブサイトで配信することができる。ただし、オリジナルのプログラムで配信されたブリテンを変更しないことが条件である。ア krediyteeshyon、チケット、その他の許可なしで、アクセスが得られる公共のエリアにおいて製作された映像と音声素材は、レース場面を含んではならない。新しい技術が、一般人が不許可でビデオ撮影をし、ウェブサイトに掲載することを可能にさせることを認識する。ビデオ素材の許可されていない製作や使用が禁止され、法的手続きが取られる旨を伝える適切な情報が全ての入場口に掲げられ、入場チケットに印刷される。各国スキー連盟と権利保持者/代理店は、短い抜粋が FIS ウェブサイトに、非営利目的で掲載されることを許可する。但し、以下を条件とする:

- a) インターネット配信向けに短い抜粋が確保できないとき、FIS 競技会からのニュース素材の最長時間は、各競技/各セクション 30 秒とし、競技会の終了後 48 時間以内の間、FIS ウェブでアクセス可能である。この素材の提供に関する金銭面の条件は、FIS と権利保持者の間で同意される。
- b) ニュース素材は、権利保持者やホスト放送局からできるだけ早く提供され、競技会終了後、遅くとも6時間以内に提供される。

208.6

モバイル&ポータブル機器

モバイル及びポータブル機器により配信権が与えられている場合、権利の購入者/行使する者は、テレビの信号から、消費者の要望を最も良く満たすコンテンツを自由に製作できる。これらの機器を使い国内ベースでライブ配信しているテレビプログラムは、その他の配信チャネルを通じて利用可能なコンテンツより変更されない。モバイル配信権が売られていない国では、行使する者が関連する技術コストを代理店/権利を管理する会社に支払う条件で、素材が製作されたとき、48 時間の間、短い抜粋や最大 20 秒間のクリップが、行使する者に提供される。

- 208.7 今後の開発
この 208.5 条に含まれる原則は、今後の FIS の大会への電子メディア権の利用の基準となる。各国スキー連盟、関連する委員会と専門家の推奨により、FIS 理事会は、新しい開発に適切と考えられる条件を作る。
- 209 映画権**
FIS 競技会の映画製作に関するすべての契約は、映画製作者と各国スキー連盟または関連する権利を管理する会社の間にある。その他のメディア権利の利用に関するすべての契約上の合意が尊重される。
- 210 競技会の開催**
- 211 組織**
- 211.1 開催者
- 211.1.1 FIS 競技会の開催者は、必要な準備を行い、開催地で競技運営を直接実行する人物またはそのグループである。
- 211.1.2 国内スキー連盟自体が競技会開催者ではない場合、その加盟クラブを開催者として任命することができる。
- 211.1.3 開催者は、アクレディテーションを受けた人が、競技規則及びジュリー決定に関する規定を受け入れることを保証しなければならない。またワールドカップレースの場合、この趣旨の徹底のため、有効な FIS シーズンアクレディテーションを持っていない人全員の署名を集める義務が開催者にある。
- 211.2 組織委員会**
組織委員会は、開催者及び FIS から委任されたメンバー(実際のまたは法の)により構成される。組織委員会には、開催者の権利、任務、義務が伴う。
- 211.3 203-204 条の資格を満たさない選手を含む競技会の開催者は、国際競技規則(ICR)に違反したことになり、FIS 理事会はこの開催者に対し措置を講じる。
- 212 保険**
- 212.1 開催者は、組織委員会メンバー全員に損害賠償保険をかけなければならない。組織委員会のメンバーではない FIS 職員及び FIS 任命の役員(用品コントローラー、メディカルスーパーバイザー等)が、FIS に代わって働く場合、FIS が彼らに損害賠償保険をかける。
- 212.2 最初のトレーニングまたは競技の前に、開催者は公認保険会社が発行した保険承諾書(保険証書)あるいはカバーノート(保険引受証)を取得し、それを TD に提示しなければならない。組織委員会は、最低 100 万スイスフランを補償する損害賠償保険に加入することを要求している。推奨される賠償総額は最低 300 万スイスフランであり、この金額は FIS 理事会の決定(ワールドカップ等)に従って増額することがある。さらに、保険証書は、アクレディテーションを受けた選手を含む参加者による、役員、コース作業員、コーチ等を含む(がこれに限定されない)他の参加者に対する損害賠償保険請求権が明白に含まれていなければならない。

212.3 開催者が必要な保険書類を準備できていない場合、開催者または開催国スキー連盟は、FIS 保険仲介業者に当該競技会の保険加入手配を依頼することができる(費用は開催者負担)。

212.4 FIS 大会に参加する選手は全員、レースリスクを含む事故、輸送、レスキュー費用を保証するのに十分な額の傷害保険に加入していなければならない。各国連盟は、自らが派遣と登録を行った全選手の適切な保険適用について責任を負う。各国スキー連盟またはその所属選手は、FIS、FIS 代表、組織委員会からの要請に基づき、保険加入を証明するものをいつでも提示できなければならない。

213 プログラム

FIS カレンダーに掲載されている各競技会の開催者は、次の事項を含んだプログラムを公表しなければならない。

213.1 競技名称、競技日程、開催地。また、競技会場に関する情報と、現地までの最善のアクセス方法。

213.2 各競技のテクニカルデータと参加条件

213.3 主要オフィシャルの氏名

213.4 第 1 回チームキャプテンミーティング及びドローの時間と会場

213.5 公式トレーニング開始とスタート時間のタイムテーブル

213.6 公式掲示板の設置場所

213.7 表彰(商品授与)の時間と場所

213.8 エントリー締切日とエントリー用の住所。電話、ファックス、電子メールアドレスを含む。

214 案内

214.1 組織委員会は、大会案内を発表しなければならない。この案内には 213 条に定める情報が含まれていなければならない。

214.2 開催者は、エントリー数の制限について、FIS ルール及び決定に従わなければならない。201.1 条によりエントリー数を減らすことも可能であるが、案内にそのことを明確にすることを条件とする。

214.3 競技会の延期や中止、またプログラムの変更については、電話、電子メール、またはファックスで、FIS、招待した国またはエントリーのあった国の国内スキー連盟、及び任命された TD へ直ちに連絡しなければならない。競技会の日程を早める場合、FIS の承認を得なければならない。

215 エントリー

215.1 すべてのエントリーは、組織委員会がエントリー締切日までに受け取れるように送付しなければならない。開催者は最初のドロウの 24 時間前までに、最終的かつ完全なリストを持っていなければならない。

215.2 各国スキー連盟は、同一日程に開催される複数の競技会に、同一選手をエントリーしてはならない。

215.3 各国スキー連盟にのみ、国際競技会へのエントリーを行う資格が与えられる。いずれのエントリーも、次の事項を含むものとする。

215.3.1 コードナンバー、氏名、誕生日、所属国スキー連盟

215.3.2 エントリーする種目の正確な記載

215.4 FIS 世界選手権へのエントリーについては、FIS 世界選手権開催ルールを参照すること。

215.5 各国スキー連盟による選手のレースエントリーは、当該選手と開催者の間にのみ契約を成立させ、また選手宣誓書によって管理される。

216 チームキャプテンミーティング

216.1 第 1 回チームキャプテンミーティング及びドロウの時間と会場は、プログラムに記載されなければならない。その他すべてのミーティングに関する案内は、第 1 回ミーティングの時にチームキャプテンに連絡されなければならない。緊急のミーティングは、余裕をもって連絡しなければならない。

216.2 チームキャプテンミーティングでの議論の際、他国の代理人による出席は認められない。

216.3 チームキャプテンとコーチは、クォータに従い、開催者からアクレディテーションを受けなければならない。

216.4 チームキャプテンとトレーナーは、ICR やジュリー決定に従わなければならない。また、礼儀正しくかつスポーツマンらしくふるまわなければならない。

217 ドロウ

217.1 各大会及び各種目の選手のスタート順は、ドロウかポイント順による特定の方式に従い

決定する。

- 217.2 書面によるエントリーが締切日までに開催者に届いている場合のみ、各国スキー連盟からエントリーされた選手のドローを行う。
- 217.3 ドローの時、チームキャプテンかトレーナーの出席がない選手について、ミーティング開始までに、エントリーした選手の出場が電話、電報、電子メールまたはファックスで確認された場合のみ、ドローが行われる。
- 217.4 ドローされた選手が競技に欠場した場合、TD はその選手名と可能であれば欠場理由を TD レポートに記載しなければならない。
- 217.5 全参加国の代表をドローに招かなければならない。
- 217.6 競技を 1 日以上延期しなければならない場合、ドローもやり直さなければならない。

218 リザルトの公表

- 218.1 非公式及び公式リザルトは、大会別ルールに従って公表する。
- 218.1.1 リザルトの送信
すべての国際大会では、スタートとフィニッシュの間は、ダイレクトコミュニケーションがなければならない。冬季オリンピックでは、コミュニケーションは、固定配線で確保されなくてはならない。ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会の際、データサービスエリアでは、インターネット(少なくとも ADSL スピード)への接続が要求される。
- 218.2 全ての FIS 競技会から発生するデータとタイミングは、FIS、開催者国内スキー連盟、及び参加者が、ウェブサイトを含む自身の出版物の中で自由に使うことができる。ウェブサイト上のデータ及び計時利用は、FIS インターネットポリシーに定める条件に従う。
- 218.3 FIS インターネットポリシーと FIS 競技会関連データの取り扱い
- 218.3.1 概要
スキーとスノーボードのプロモーションの一環として、FIS は各国スキー連盟に対し、メッセージや情報を会員やファンに提供することを奨励し、またそのような努力に感謝する。このような情報提供に関しては、ますます重要となっている媒体はインターネットである。次のポリシーは、FIS 競技会データの提供を通じて、各国スキー連盟を支援するために、またそれらデータの公開と利用に関する条件を明確にするために定められたものである。
- 218.3.2 FIS カレンダーデータ
専用 FIS カレンダープログラムが開発されており、各国スキー連盟や第三者が無料で利用できる。カレンダー情報の変更等を含む Fiscal.zip ファイルは毎週利用可能であり、ftp サイト(<ftp://ftp.fisski.ch>)からダウンロードすることができる。この Fiscal.zip ファイルを FIS カレンダープログラムにアップロードして利用する。
その後、事業計画等の目的で必要な場合には、各国スキー連盟の独自ソフトウェアに、このカレンダーデータをエクスポートすることもできる。ただし、このデータを第三者・組

織に商業目的で譲渡することはできない

218.3.3

リザルトとスタンディング

FIS 事務局が FIS ポイントの確認をし、承認した後、各国スキー連盟は、オ フィシャルリザルトを入手できる。このデータ入手を希望する場合は、FIS の IT マネージャーにリクエストする。利用方法、手順といった必要な情報は、IT マネージャーから個々に提供する。FIS ワールドカップリザルトは、リザルトサービスプロバイダのクレジットを含むものとする。各種カップシリーズのスタンディングについては、ワールドカップの場合はリザルトサービスプロバイダから受け取り後、提供可能である。その他のカップシリーズの場合は、マニュアルでのインプット後、提供可能である。

1. FIS 競技会のリザルトとデータは、各国スキー連盟、開催者、参加者のウェブサイトでのみ利用可能とし、第三者・組織に商業目的で譲渡することはできない。各国スキー連盟は、成績評価等の目的に、このデータを独自ソフトでの利用のためにダウンロードすることができる。
2. 各国スキー連盟のウェブサイトでリザルトを掲載する意向があるが、未加工データをアップロードできるデータベース構造がない場合は、FIS ウェブサイトの関連ページにリンクを貼ることができる。正確なアドレスは FIS の IT マネージャーから入手可能である。
3. FIS ウェブサイトから、独自のウェブサイトを持つ全ての加盟国スキー連盟、スキー産業、関連メディアウェブサイト、に、リクエストに応じてリンクを設定する。またそれらのサイトから FIS ウェブサイトへの相互リンクも設定すべきである。

218.3.4

開催者によるリザルトへのアクセス

FIS ワールドカップ開催者は、当該レースのオフィシャルリザルトが、リザルトデータベースの FIS ポイント確認手続で承認された後、これを入手することができる。これはワールドカップ用のコンピュータによる自動処理で、レース終了後直ちに行われる。

リザルトとスタンディングを含む PDF ファイルは、www.fis-ski.com や <ftp://ftp.fis-ski.ch/> からダウンロードすることができる。ファイルは、次の種目別コードと会場名で分類：

AL (Alpine)、CC (Cross-Country)、JP (Ski Jumping)、NK (Nordic Combined)、SB (Snowboarding)、FS (Freestyle) 個々の競技は、www.fis-ski.com のカレンダーセクションに表示されているコーデックスによって識別可能である。

219

賞

219.1

賞の授与に関する詳細ルールは、FIS が発表する。賞は、記念品、ディプロマ、小切手または現金からなる。記録に対する賞を禁止する。賞金の最低額と最高額については、競技シーズン約 1 年半前の秋季に FIS 理事会が決定する。開催者は、賞金額を 10 月 15 日までに FIS へ連絡しなければならない。

219.2

複数の選手が同タイムでフィニッシュした場合、または同ポイントを獲得した場合、同位となる。これらの選手には同じ賞、タイトル、またはディプロマが授与される。タイトルまたは賞の割り当てを、くじ引きや他の競技によって行うことは認められない。

- 219.3 すべての賞は、その競技または大会シリーズの最終日まで授与される。
- 220 サービススタッフ、サプライヤー、企業代表者**
原則として、これらの規定は全種目に適用され、特別ルールが考慮される。
- 220.1 組織委員会は、アクレディテーションを受けたサプライヤー及び用品サービススタッフのリストを TD に渡さなければならない。
- 220.2 サプライヤー及び職務中の人物が、制限エリア内で広告活動を行ったり、はっきりと認識できる 207 条違反のコマーシャルマーキングのついたウェアや用品を身に付けることを禁止する。
- 220.3 チームオフィシャル、アクレディテーションを受けたサービススタッフ及びサプライヤーは、FIS から公式 FIS アクレディテーションを受け取り、特定の職務を遂行しなければならない。個々の開催者は、それ以外の企業代表者やその他の主要人物に対し、自由にアクレディテーションを発行することができる。
- 220.4 公式 FIS アクレディテーション、または開催者発行のコースやジャンプ台への特別アクレディテーションを所持したすべての認定サービススタッフ、サプライヤー及びその他の人物は、コースやジャンプ台に出入りすることができる(競技別規則に従う)。
- 220.5 種類の異なるアクレディテーション
- 220.5.1 はっきりと見えるアクレディテーションを付けた TD、ジュリー、220.3 条に述べた人物は、コースやジャンプ台に出入りすることができる。
- 220.5.2 チーム付きサービスマンは、スタートエリア及びフィニッシュのサービスエリアへ入ることができるが、コースやジャンプ台に入ることはできない。
- 220.5.3 開催者の裁量でアクレディテーションを受けた企業代表者でも、FIS アクレディテーションを持っていない人物は、コース及び制限サービスエリアに入ることはできない。
- 221 医事サービス、健康診断、ドーピング**
- 221.1 各国スキー連盟は、レースに出場する自国選手の健康状態に責任を持つ。男女とも選手は皆、自身の健康状態について精密な検査を受ける必要がある。この診断は選手の自国で実施する。
- 221.2 FIS 医事委員会またはその代表者から要請があった場合、選手は競技前または後に健康診断を受けなければならない。
- 221.3 ドーピングを禁止する。FIS アンチドーピング規程におけるあらゆる違反は、FIS アンチドーピング規程の規定の下に罰せられる。
- 221.4 あらゆる FIS 競技会において、ドーピングコントロールが実施される可能性がある(競技外も同様)。規則と手順は、FIS アンチドーピング規程及び FIS 手続きガイドラインに記載される。

- 221.5 選手の性別
選手の性別について疑問や異議申し立てが生じた場合、当該選手の性別判断に必要な手段を講じるのは、FIS の責任とする。
- 221.6 開催者に要求される医事サービス
FIS 競技会に関わるすべての人の健康と安全は、すべての開催者 にとって最大の関心事である。これは、選手、ボランティア、コース作業員、観客を含む。医事サポートシステムの具体的な構成は、次の要因に左右される。
- ・開催される大会のサイズ、レベル、タイプ(世界選手権、ワールドカップ、コンチネンタルカップ、FIS レベル等)、地域のメディカルケアの基準、地理的な位置、状況
 - ・予想される選手数、補助員数、観客数
 - ・また、大会医事組織の責任範囲(選手、補助員、観客)は、決められるべきである。開催者/医事、レスキューサービス長は、オフィシャルトレーニングや競技のスタート前に、必要なレスキュー設備が配置されていることをレースディレクターまたは TD に確認しておくてはならない。事件や、本来のメディカルプランの使用が妨げられる問題が起きた際、オフィシャルトレーニングや競技会が始まる前までに、バックアッププランが準備されていなければならない。施設、資源、人員及びチームドクターに関する具体的な必要事項は、各競技の規則と FIS メディカルガイドに書かれてある。

222 競技用品

- 222.1 選手は FIS 規程に適合した用品を使用する場合のみ FIS 競技に出場することができる。選手は自分が使用する用品(スキー、スノーボード、ビンディング、スキーブーツ、スーツ等)に関して責任を持つ。自分の使用する用品が FIS 規格及び一般的な安全基準に適合すること、また正しく機能していることをチェックするのは、選手の義務である。
- 222.2 競技用品という用語は、選手が競技で使用する用品の全アイテムを含む。これには専門機能を持つ器具と同様にウェアも含まれる。競技用品全体でひとつの機能単位となる。
- 222.3 競技用品分野におけるすべての新開発は、原則として FIS の承認を得なければならない。新しい技術開発の承認に対し FIS は如何なる責任も負わない。そして、その新しい技術開発は、導入時には健康に対する未知の危険を含み、事故のリスクを高める原因になることもあり得る。
- 222.4 新開発は、遅くともシーズン前の 5 月 1 日までに提出しなければならない。1 年目の新開発は、最初のシーズンに向けて暫定的に承認されるのみで、その次のシーズン前に最終承認を得なければならない。

222.5 競技用品委員会は、FIS 理事会の承認を得て、用品の細則を発表する(認可された用品の定義や説明)。原則として、選手のパフォーマンスを修正したり、失敗したパフォーマンスになりやすい選手の体の傾向を技術的に正す不自然な、または人工的な補助器具は除外する。また、選手の健康に影響を与えたり、事故の危険性を高めるような競技用品も同様に除外する。

222.6 コントロール
競技シーズン前及び期間中、または競技会における TD への抗議の提出時に、競技用品委員会またはオフィシャル FIS 用品コントローラーは、各種コントロールを実施することができる。十分根拠のある規程違反疑惑がある場合、証人の立会いの下で、コントローラーまたは TD が直ちに用品を没収、封印して FIS に送り、FIS から最終的なコントロールのため公式認定機関へ提出する。競技用品のアイテムに対する抗議の場合、敗訴した側が調査費用を負担する。
コントロールが規則に基づいて行われていなかったと説明されない限り、FIS テクニカルエキスパートがコントロールを行ったレースで、独立した検査機関での用品または用具の検査は要求できない。

222.6.1 公式の FIS 測定手段を使用する FIS 用品測定エキスパートが任命された全ての FIS の大会では、過去の測定に関係なく、その時に実施された測定結果が有効かつ最終である。

223 制裁

223.1 一般条件

223.1.1 制裁の対象となり、ペナルティを課される可能性のある違反行為を、次の通り定める：
- 競技規則違反または不順守
- ジュリーまたは 224.2 条による個々のジュリメンバーからの指示への不従順
- スポーツマンらしく振る舞い

223.1.2 次の行為も違反とみなす。
- 違反を犯そうと企てる
- 他者に違反を犯させる原因となる、または他者が犯すよう助長する
- 他者が違反を犯すことに助言する

223.1.3 ある行為が違反にあたるかどうかの判断には、次を考慮すべきである。
- その行為が故意によるものかどうか
- その行為が緊急事態に起因するものかどうか

223.1.4 全ての FIS 加盟連盟は、アクレディテーション登録されている会員も含め、FIS 規約及び国際競技規則による上訴する権利を条件に、これらの規則及び科された制裁措置を受け入れ、認める。

- 223.2 適用
- 223.2.1 人物
これらの制裁は次に対し適用する。
- FIS または FIS カレンダーに掲載されている大会の開催者からアクレディテーションを受け、競技エリア及び競技に関連するあらゆる場所の内外にいる人物全員。
- アクレディテーションを受けていないが、競技エリア内にいる人物全員。
- 223.3 ペナルティ
- 223.3.1 違反行為により、次のペナルティが科される可能性がある。
- 戒告- 書面または口頭
- アクレディテーションの取り消し
- アクレディテーションの拒否
- 100,000 スイスフラン以下の罰金
- タイムペナルティー
- 223.3.1.1 FIS 加盟連盟は FIS に対し、連盟が手配しアクレディテーション登録をした人に科された罰金及び生じた総経費の支払に責任を負う。
- 223.3.1.2 223.3.1.1 条に該当しない人物もまた、FIS に対し、罰金及び生じた総経費の支払に責任を負う。そのような人物が罰金を支払わない場合、FIS 大会アクレディテーション申請への許可を 1 年間、取り消しに科す。
- 223.3.1.3 罰金の支払期限は、支払命令から 8 日以内である。
- 223.3.2 大会に出場する全選手は、さらに次のペナルティが課される可能性がある：
- 失格
- スタートポジションの後退
- 賞及び収益の没収 開催者を受益者とする
- FIS 大会への出場停止
- 223.3.3 規則に特に記載されている場合を除き、選手のミスが、競技の最終リザルトに有利に働く場合のみ、選手は失格になる。
- 223.4 ジュリーは、223.3.1 条及び 223.3.2 条に定められたペナルティを科することができるが、5,000 スイスフランを超える罰金処分や、違反の起きた FIS 大会を過ぎての出場停止処分を選手に科すことはできない。
- 223.5 次のペナルティ決定は、口頭で下すことができる。
- 戒告
- 所属の各国スキー連盟経由で大会開催者に登録していない人物からの当該大会アクレディテーションの取り消し
- FIS のアクレディテーションを受けた人物の当該大会アクレディテーションの取り消し
- 競技エリアまたは競技に関連するあらゆる会場内にいる人物の当該大会アクレディテーションの拒否

- 223.6 次のペナルティ決定は、書面とする。
- 罰金
 - 失格
 - スタートポジションの後退
 - 競技出場停止
 - 所属の各国スキー連盟経由で登録した人物のアクレディテーションの取り消し
 - FIS のアクレディテーションを受けた人物のアクレディテーションの取り消し
- 223.7 書面によるペナルティ決定は、違反者(選手でない場合)、その違反者の所属する各国スキー連盟及び FIS 事務局長に送らなければならない。
- 223.8 失格は全て、主審及び／または TD レポートに記録する。
- 223.9 ペナルティは全て、TD レポートに記録する。
- 224 手続きガイドライン**
- 224.1 ジュリーの権限
大会におけるジュリーには、前述ルールに従い、多数決をもって、制裁を科す権利がある。賛否同数の場合は、ジュリー長の決定投票とする。
- 224.2 会場内、特にトレーニング及び競技時間内において、投票権を持つ各ジュリーメンバーは、口頭戒告を発し、当該大会のために発行されたアクレディテーションを取り消す権限が与えられる。
- 224.3 集団違反
複数の人物が同時かつ同一条件の下で同じ違反を犯した場合、ひとりの違反者に対するジュリー決定を、違反者全員に拘束力をもつものとみなすことができる。決定文書には違反者全員の氏名が記載され、ペナルティの範囲は個々に査定する。決定内容は各違反者に通知される。
- 224.4 制限
違反者に対し、制裁発動手続きが違反後 72 時間以内に始まらなかった場合、その人物は制裁を受けない。
- 224.5 違反の疑いのある行為を目撃した人物は、ジュリーの召集するヒアリングで証言しなければならない。またジュリーは、全ての関連証拠を考慮に入れなければならない。
- 224.6 用品ガイドライン違反に使用された疑いのある物を、ジュリーは没収することができる。
- 224.7 ペナルティを課す前に(223.5 条及び 224.2 条による戒告及びアクレディテーションの取り消しのケースを除く)、違反に問われている人物には、ヒアリングで口頭または書面により抗弁する機会が与えられる。

- 224.8 ジュリー決定は全て書面で記録し、次を含むものとする：
 - 224.8.1 犯した疑いのある違反行為
 - 224.8.2 違反の証拠
 - 224.8.3 違反したルールまたはジュリー指示
 - 224.8.4 科されたペナルティ
- 224.9 ペナルティは違反に対し妥当なものとする。ジュリーが課す制裁範囲は、あらゆる軽減及び加重事由を考慮したものでなければならない。
- 224.10 救済策
 - 224.10.1 224.11 条に規定された以外は、国際競技規則に従い、ジュリーのペナルティ決定を上訴することができる。
 - 224.10.2 国際競技規則の定める期限内に上訴しない場合、ジュリーのペナルティ決定は確定的となる。
- 224.11 次のジュリー決定については、上訴できない：
 - 224.11.1 223.5 条及び 224.2 条による口頭ペナルティ
 - 224.11.2 単一の違反に対して CHF1,000 未満の罰金。そして、同一人物による繰返しの違反に対して、追加の CHF2,500 の罰金
- 224.12 その他全てのケースについて、国際競技規則に従い、上訴委員会へ上訴できる。
- 224.13 ジュリーは上訴委員会に対し、5,000 スイスフランを超える罰金処分や、違反の起きた大会を過ぎての出場停止処分について(223.4 条)、勧告を提出する権利を持つ。
- 224.14 FIS 理事会は上訴委員会に対し、ジュリーによるペナルティ決定書に関するコメントを提出する権利を持つ。
- 224.15 手続きの費用
旅費を含む費用及び現金経費は、TD に支払われる費用と同等に計算し、違反者が支払うものとする。ジュリー決定の全てまたは一部破棄の場合、全ての費用を FIS が負担する。
- 224.16 罰金刑の執行
 - 224.16.1 FIS が罰金刑の執行と手続費用について監督する。執行費用は手続費用とみなす。
 - 224.16.2 違反者に課された罰金の未払いについては、違反者の所属国連盟の債務とみなす。

- 224.17 振興基金
罰金は全額、FIS ユース振興基金に払い込むものとする。
- 224.18 FIS ドーピング規則違反には、これらは適用されない。

225 上訴委員会

225.1 任命

225.1.1 FIS 理事会は、各種別のルール小委員会(ルール小委員会がない場合は、各競技の委員会)から、上訴委員会の委員長と副委員長を任命する。委員長ができない場合、または偏見や先入観のため不適格な場合、副委員長が議長を務める。

225.1.2 委員長は、上訴またはヒアリングのために提出された各ケースのため、各競技のルール小委員会、または各競技の委員会から、3 名の上訴委員会委員を任命する。この 3 名のなかに委員長自身を含めることも可能である。決定は多数決とする。

225.1.3 偏見や先入観を避けるため、またはそれらが現れるのを避けるため、上訴委員会に任命される委員は、上訴中の違反者と同じ国の連盟に所属する者であってはならない。さらに、上訴委員会に任命された委員は、違反者に対し良くまたは悪く抱いている偏見や先入観を委員長に自発的に報告しなければならない。偏見や先入観をいっている人は、委員長により上訴委員会の委員として不適任とされる。委員長は、副委員長により不適任とされる。

225.2 責任

225.2.1 上訴委員会は、競技ジュリー決定に対する、違反者または FIS 理事会による上訴に関してのみヒアリングを開く。もしくは、競技ジュリーが制裁の規則に規定された以上のペナルティを勧告し、上訴委員会に問い合わせた事柄に関してのみ、ヒアリングを開く。

225.3 手続き

225.3.1 上訴の当事者全員が、ヒアリング期間の延長に書面で同意しない限り、上訴は、委員長が上訴を受領した後 72 時間以内に結審しなければならない。

225.3.2 上訴及び返答は全て、書面で提出しなければならない。これには、当事者が上訴を支持または返答する際に、提供するつもり証拠も含まれる。

225.3.3 上訴の場所と形式については、上訴委員会が決定する。(電話会議、当事者、E メール交換)

上訴委員会委員は、その判決が公になるまで上訴の守秘義務を尊重することを要求され、審議中、他の委員のみと相談することが要求される。上訴委員会委員長は、不相当な方法とならない限り、当事者から追加の証拠を要求することができる。

- 225.3.4 上訴委員会は、224.15 条に従い、上訴費用の配分を行う。
- 225.3.5 上訴委員会の判決は、審議やヒアリングの終了時に口頭で言い渡すことができる。判決と判決理由は書面で FIS に提出し、FIS が、それらを、当事者とその所属国連盟、決定を上訴されたジュリーメンバー全員に送る。また、審議書は FIS 事務局で入手可能である。
- 225.4 控訴
- 225.4.1 上訴委員会の判決について、定款 52.1 条、52.2 条に従って、FIS 裁判所に控訴することができる。
- 225.4.2 FIS 裁判所への控訴は、上訴委員会判決の公表日から定款 52.1 条、52.2 条に規定する期日に従い、FIS 事務局長へ書面で提出する。
- 225.4.3 上訴委員会または FIS 裁判所への上訴により、競技ジュリー、上訴委員会、または理事会のペナルティ決定の執行が遅れることはない。

226 制裁の違反

223 条または FIS アンチドーピング規程に基づき下された制裁に違反した場合、理事会は妥当と考えるさらなる制裁を科すことができる。このような場合、次の制裁のいくつかまたは全てを適用することができる。

- 226.1 関与した個人に対する制裁
- 文書戒告;
および/または
 - 100,000 スイスフラン以下の罰金;
および/または
 - 一段階上の競技出場停止処分一例:ドーピング違反に対して 3 ヶ月間の出場停止処分が科された場合、この停止処分に違反すると、2 年間の出場停止処分の原因となる。ドーピング違反に対して 2 年間の出場停止処分が科された場合、この出場停止処分に違反すると、生涯出場停止となる;
および/または
 - 関与した個人のアクレディテーションの取り消し。
- 226.2 各国スキー連盟に対する制裁:
- 各国スキー連盟への FIS からの財政支援の取り消し;
および/または
 - 当該国内の今後の FIS 大会のキャンセル;
および/または
 - FIS 加盟国の権利の全てまたは一部取り消し。FIS カレンダー競技会への参加、FIS 総会での投票権、FIS 委員会における委員資格を含む。

第 2 部

スノーボード共通競技規則

冬季オリンピック及び FIS 世界選手権(スノーボード競技)におけるテクニカル関連の組織については、国際競技規則に別途規定がない限り、FIS スノーボードワールドカップ規則が適用される。

2000

組織

詳細は 211 条を参照。

2001

組織委員会とジュリー

2001.1

構成

組織委員会は、主催者及び国際スキー連盟から委任されたメンバー(個人または法人)により構成される。組織委員会には、主催者としての責務や権限、義務がある。

2001.2

FIS による任命

FIS はすべての競技会と次についての技術代表とヘッドジャッジ(ハーフパイプ、スロープスタイルとビックエア)を任命する。

2001.2.1

ワールドカップ大会

- 主審(またはレースディレクター)
- ヘッドジャッジとジャッジ(6-競技法式によっては最大 12 人)
ハーフパイプ、スロープスタイルとビックエアにおいて

2001.2.2

コンチネンタル大会

- ヘッドジャッジとジャッジ(3-6 人)
ハーフパイプ、スロープスタイルとビックエアにおいて

2001.2.3

冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及び FIS ジュニア世界選手権

- すべてのジュリーメンバーおよびジャッジ

2001.2.4

その他のすべてのレースで技術代表は、次について任命できる。

- 主審

2001.3

主催者による任命

技術代表とヘッドジャッジを除くすべての組織委員会を主催者は任命できる。議長あるいは委員長が委員会の代表となり会議を開き、すべての問題について決議する。それは決してそれ以外の人やグループによって決議されるものではなく、会議中および競技の終了に先立って FIS と綿密に話し合い、公式に定めるべきである。また、競技に持ち越されるその他必然的な全ての問題について職務を持つ。

2001.3.1

競技委員長

競技委員長は、役員全員の活動を監督したり、テクニカルな問題を検討するために競技委員会の会議を招集したりする。また、技術代表と相談した後でチームキャプテンミーティングの議長を務めることが多い。

- 2001.3.2 コース係長
コース係長は、ジュリーの指示や決定に従って、コースを整備する責任がある。コース係長は、競技に関連する地域の雪の状態に精通していなければならない。
- 2001.3.3 スタート審判
スタート審判は、公式インスペクションが始まる時からトレーニング及び競技の終了まで、終始スタート地点にいなければならない。また、スタート地点及びスタート体制に関する規則が適正に遵守されていることを確認しなければならない。
- スタートの規則とスタート体制が適正に遵守されていることを確認する。
- 遅延スタート及び不正スタートの判断を行う。
- いつでもジュリーと即座に連絡が取れなければならない。
- 棄権した選手、不正スタートまたは遅延スタートをした選手または他の違反をした選手全員の氏名を報告する。
- 2001.3.4 フィニッシュ審判
フィニッシュ審判は、公式インスペクションが始まる時からトレーニング及び競技の終了まで、終始フィニッシュ地点にいなければならない。また、フィニッシュ地点及びフィニッシュ体制に関する規則が適正に遵守されていることを確認しなければならない。フィニッシュ地点の体制やフィニッシュのインランやアウトランに関する規則がすべて適正に遵守されていることを確認しなければならない。
- フィニッシュコントローラー、掲示及びフィニッシュエリアの観客管理を監督する。
- いつでもジュリーと即座に連絡が取れなければならない。
- 棄権した選手または他の違反をした選手全員の氏名を報告する。
- 2001.3.5 フィニッシュ係長(スノーボードクロスのみ)
フィニッシュ係長は、フィニッシュラインジャッジの編成と監督に責任を負う。フィニッシュ係長は、フィニッシュエリアでの抗議を受理する。フィニッシュ係長は、他のジュリーメンバーにあらゆる抗議を直ちに報告しなければならない。
- 2001.3.6 パイプ/スロープスタイル係長
パイプ/スロープスタイル係長は、競技前及び競技中に、FISによるハーフパイプ/スロープスタイル競技場仕様に従って、ハーフパイプ競技場を設営したり、整備したりする責任がある。パイプ/スロープスタイル係長は、現地の雪の状態に精通して、競技会開催地の出身でいなければならない。
さらにパイプ/スロープスタイル係長は、
- 組織委員会の一員でなければならない
- ジュリー及び FIS レースディレクターの指揮下にある
- トレーニング及び協議中、ハーフパイプ/スロープスタイルのコースを常に FIS ハーフパイプ/スロープスタイル仕様に適合させる義務がある。
- ジャッジスタンドの設置を監督する
- ジャッジスタンドに必要なもの(机、いす、パーテーション、暖房器具など)を支給する
- ヘッドジャッジや技術代表がいけない場合は、ハーフパイプ/スロープスタイルの公式トレーニングを管理する。
- ハーフパイプ/スロープスタイルのチームキャプテンミーティングにはすべて出席する
- ヘッドジャッジの要請に応じて、ジャッジに十分な飲食物を支給する。
- ハーフパイプ/スロープスタイルのコース設営と維持に関して、経験があるものとする。
FIS は、ハーフパイプ/スロープスタイルのコース整備と維持を目的にテクニカルアドバイザーを要請し、任命することがある。

- 2001.3.7 計時計算係長
計時計算係長は、計時や計算、ジャッジのスコアなどについて、スタートとフィニッシュの役員を調整する責任がある。アルペン競技では、計時計算係長がジュリーに属する特別アシスタントがスタートインターバルを決定する。次の役員は、計時計算係長の指揮下にある。
- スターター
 - アシスタントスターター
 - スタート記録員
 - 計時係長
 - 副計時係長
 - フィニッシュコントローラー
 - 計算係長及びそのアシスタント
- 2001.3.8 旗門審判係長
旗門審判係長は、旗門審判員の仕事を組織化し、監督する。また、各旗門を担当する審判員を指定し、配置する。1本目の滑走の終了時及び競技終了時には、主審に渡すために旗門審判員の旗門記録表を集める。さらに、旗門審判係長は、必要な物(旗門記録票、鉛筆、スタートリスト等)を適切なきに各旗門員に配布する。また、観客をコースに入れないようにしたり、コースを維持したりするための手伝いができるように準備しておく必要がある。さらに、旗門審判係長は、要求されている時間内に旗門のナンバー付けやマーキングが確実に終了するようにしなければならない。
- 2001.3.9 旗門審判員
各旗門審判員は、単独または複数の旗門を監督する責任を負う。旗門審判員は、自分が監視するエリアを選手が正当に通過したかどうかを正確に監視しなければならない。また、旗門審判員には、これ以外にも実行しなければならない重要な職務が数多くある。こうした職務の詳細は、条項 2071 に記載されている。
- 2001.3.10 セクレタリー
セクレタリーは、競技のテクニカル面、とりわけドローの準備に関する事務全体に責任がある。また、条項 2027.3 で要求されている情報が必ず公式リザルトに含まれるようにしなければならない。セクレタリーは、競技委員会の会議やジュリー及びチームキャプテンのミーティングの議事録に関しても責任がある。また、スタート、フィニッシュ、計時、計算及び旗門ジャッジングに関わるすべての書式がきちんと用意され、関係役員に順序良く適切なタイミングで手渡されるようにする責任がある。さらに、公式抗議を受理し、それを関係者に渡すことや、適切な準備によってリザルト計算を容易にし、それらが競技終了後できるだけ迅速に複写され公表されるようにすることもセクレタリーの職務である。
- 2001.3.11 会場係長
会場係長は、観客が入れないようにコースを立入禁止にするために必要な手段を講じるものとする。詳細な計画に従って十分な人員を動員する必要がある。大勢の観客がくると予想される場所には、ロープやフェンスをあらかじめ設定しておく必要がある。観客が自由に移動できるように、フェンスの後ろに十分なスペースが確保されるように配慮する。

- 2001.3.12 医療救助係長
医療救助係長は、公式トレーニング中及び競技中に、適切な救急処置及び医療処置体制を組織する責任がある。コース全体のどこでも、電話か無線で連絡がとれる状況になくしてはならない。さらに、公式トレーニングが始まる前に、競技委員長と計画を打ち合わせておく必要がある。
また、負傷した選手を収容し、治療するための適切な施設を手配しなければならない。競技ドクターは、公式トレーニングが始まる前に、チームドクターと計画を打ち合わせておく。競技ドクターは、公式トレーニング中及び競技中、電話か無線でアシスタントと連絡がとれる状況になくしてはならない。万一の場合に備えて、スキーまたはスノーボードを得意とするドクター1名をスタート地点で待機させる必要がある。このドクターはジュリーや他の救助隊メンバーと常に連絡をとることができるようになる。こうした業務はチームドクターに委任することもできる。メディカルサポート条件の詳細は FIS メディカルガイドのチャプター1にて作成される。(メディアールールとガイドに含まれる)
- 2001.3.12.1 救急処置とメディカルサービス
救急処置とメディカルサービスは、すべてのトレーニング中完全に機能する状態でなければならない。メディカルサポート条件の詳細は、メディアールールとガイドに含まれる FIS メディカルガイドのチャプター1にて作成される。
- 2001.3.13 資材係長
コースの整備と維持、競技の進行及び情報の提供に必要なすべての備品と道具の提供については、これらの職務が他の役員に特に割り当てられない限り、資材係長が責任を負う。
- 2001.3.14 報道係長
報道係長は、組織委員会の支持に従い、ジャーナリスト、カメラマン、テレビ及びラジオのレポーター向けの簡略報告や情報のすべてに対して責任を負う。
- 2001.3.15 通信音響係長
通信音響係長は、通信に関するあらゆる事柄とアナウンスについて、手配したり調整したりする責任がある。通信音響係長は、無線、音響設備、音楽の選択及びアナウンサーへの要点説明にも責任がある。

- 2001.3.16 組織委員会に含まれるその他の係(記述記載に関する書記職)
-財務係長(会計係長)
-宿泊・食事係長
-プロトコル係長
組織委員会に含まれるその他のオフィシャルは主催者が承認する。

2002 インフォメーションと組織委員会の開催義務

- 2002.1 組織委員会は、競技会関係者に適切な情報をすべて(条項 212, 213, 214 を参照のこと)提供する責任がある。宿泊施設や交通手段の詳細に関する情報は、少なくとも競技会の2か月前までに提供する必要がある。
- 2002.2 ナショナルチャンピオンシップと FIS レベルのイベントでは、組織委員会はルール 213.8 条に則り、最初の公式トレーニング日もしくは競技日 14 日前以前に設定されるエントリー締め切り日をイベントプログラムに明記し、FIS ウェブサイトに表示しなければならない。コンチネンタルカップ、ワールドカップ、世界選手権及びオリンピック冬季大会の締め切り日は、それぞれの競技会レベルにおける特定のルールブックにおいて定義される。

2003 組織委員会の基本費用

- 2003.1 組織委員会は、FIS カレンダーの規定に従い、競技会の認可費を支払わなければならない。
- 2003.2 組織委員会は、FIS の現行の方針に従い、ジャッジに報酬を支払わなければならない。
- 2003.3 組織委員会は、FIS の現行の方針に従い、FIS 技術代表に報酬を支払わなければならない。
- 2003.4 組織委員会は、FIS の現行の方針に従い、宿泊施設を提供しなければならない。
- 2003.5 組織委員会は、FIS の現行の方針に従い、トレーニング及び競技で使用するリフトのチケットを支給しなければならない。FIS レース(レベル 3 と 4)の 1 日のリフトチケット代は、最大で 20Euro とする。(スイスでの競技会の場合、30CHF)開催国の通貨に基づかれる。COC のイベント(レベル 2)は COC CUP のルールを参照のこと。

2004 ジュリー

- 2004.1 組織委員会のメンバーである次のジュリーメンバーは、囲われた競技エリアにおけるテクニカルな事柄に責任を負う。(例外について、WC・CoC ルールを参照のこと)

- 2004.1.1 アルペン種目(PGS, PSL, SL, GS)
 -技術代表
 -主審
 -競技委員長
- 2004.1.2 スノーボードクロス
 -技術代表
 -フィニッシュ係長
 -競技委員長
- 2004.1.3 ハーフパイプ、スロープスタイル、ビックエア及び他の採点種目
 -技術代表
 -ヘッドジャッジ
 -競技委員長またはパイプ/スロープスタイル係長
- 2004.1.4 冬季オリンピック、FIS 世界選手権大会の全てのイベントにジュリーメン
 バーを加えること。
 -スタート審判
 -フィニッシュ審判
 ジュリーによるすべての決定について、FIS の専門家(FIS レースディレクター)がアドバイザーとなる場合がある。(WC&CoC ルールも参照のこと)
- 2004.2 冬季オリンピック、FIS 世界選手権大会のジュリーの任命**
- 2004.2.1 次にについて FIS 理事会が任命する
 - 技術代表
 - 主審
 - ヘッドジャッジ
 - ジャッジ
 - スタート審判
 - フィニッシュ審判
 - ビデオコントロール
- 2004.2.2 スノーボード委員会から指命されたジュリーメンバーとしての TD は、スノーボード TD
 ワーキンググループにて推薦され、FIS 理事会にて承認される。推薦された TD は FIS
 技術代表として有効なライセンスを持っていなければ承認されない。
- 2004.2.2.1 スノーボード委員会から指命されたヘッドジャッジとジャッジは、スノーボードジャッジワー
 キンググループにて推薦され、FIS 理事会にて承認される。推薦されたヘッドジャッジま
 たはジャッジは有効な FIS ライセンスと FIS が要求するその他のすべての資格を持って
 いなければ承認されない。
- 2004.2.3 組織委員会の競技委員長は、開催国スキー連盟から推薦され理事会の承認をえる。
- 2004.2.4 ジュリーメンバーは、全員が同一の FIS 公式用語を用いて互いに理解しあう必要がある。

2004.2.5 各国スキー連盟でスキーチームの責任を負っている人は、ジュリーメンバーになることができない。

2004.2.6 冬季オリンピック、FIS 世界選手権(スノーボード競技)において、FIS 理事会にて承認された人だけがジュリーとして任命される。(TD は含まれる)

2004.3 国際大会でのジュリーの任命(WC と CoC ルールも同様)

2004.3.1 FIS が TD とジャッジ(ヘッドジャッジ含む)を任命する。

2004.3.2 TD が次を任命する。
-主審
-不可抗力の場合の換わりのジュリーメンバー

2004.3.3 可能な場合、女子の国際競技会のジュリーには女性を加える。

2004.3.4 スノーボードクロスにおいて、競技委員長とフィニッシュ審判は主催連盟に所属していなければならない。

2004.3.5 選手はジュリーメンバーになれない。

2004.4 ジュリーの職務期間

2004.4.1 任命されたジュリーメンバーは、第 1 回目の会議を開くために最初のチームキャプテンミーティングが始まるまでに集合する。

2004.4.2 ジュリーの実務は、第 1 回目の会議から始まり、抗議が提出されなかった場合は、抗議締切時間終了時に終わり、提出された場合は、提出された抗議すべてを処理した後に終わる。

2004.5 投票と選挙権(WC と CoC ルールも参照)

2004.5.1 技術代表はジュリーの議長である。技術代表が会議の指揮をとる。

2004.5.2 ジュリーのうち次の各役員が 1 票を有する。
- 技術代表 全競技
- 競技委員長 全競技
- フィニッシュ係長 スノーボードクロス競技
- ヘッドジャッジ ハーフパイプ、スロープスタイル、ビックエア競技
- 主審 アルペン全競技
- FIS レースディレクター スノーボードクロス競技

2004.5.2.1 冬季オリンピック、FIS 世界選手権大会
- 全てのジュリーメンバー

2004.5.3 決定は出席メンバーの単純多数決投票により下される。(条項 2056.3 は例外)。
投票が同数で分けた場合、技術代表が決定票を有する。(WC ルール同様)

2004.5.4 条項 2001.3.10 に従い、すべてのジュリーミーティング及びジュリー決定について議事録を作成し、各ジュリーメンバーの署名を添える。議事録には、決定に際して各メンバーがどちらに投票したかも記録する。

2004.5.5 議事録は少なくとも1つの FIS 公用語（英語、フランス語、ドイツ語）で記載されていないなければならない。

2004.5.6 直ちに判断を下す必要があるにもかかわらず、ジュリー全員を招集できない場合、各ジュリーメンバーは、競技前または競技中に、ジュリー全体に委ねられるべき決定を規則に従って単独で下す権限を有する。ただし、この決定は暫定的なものであり、できるだけ早くジュリーの総意としての追認を受ける必要がある。

2004.6 ジュリーの職務

2004.6.1 ジュリーは、公式トレーニングも含めた競技会全体を通じて、規則が遵守されているかどうかを監視する。

2004.6.2 技術面では、特に次の業務を遂行する。

- 競技コースとセットコースをチェックする。
- 雪の状態とコースの周りをチェックする。
- コース整備をチェックする。
- 雪面硬化剤及びその他の化学製品の使用を承認する。
- 観客の管理体制をチェックする。
- スタート、フィニッシュエリア及びフィニッシュからの出口をチェックする。
- 応急処置の体制をチェックする。
- コースセッターを任命する。
- コースセッティングの時間を決定する。
- コースセッター及びスノーボードクロスのコースビルダー／デザイナーの作業を監督する。
- 旗門フラグをチェックする。
- テクニカル面での準備状況や天候を考慮して、競技コースをトレーニング用に開放したり、閉鎖したりする。
- コースインスペクションの方法を決定する。
- 競技の前にコースをインスペクションする。（同様に公式ウォームアップエリアも）
- 各ランの前走者の数を決め、前走者のスタート順を決定する
- 前走者の報告を受ける。
- コースコンディションや特殊な事情を考慮して、スタート順を変更する
- スタートインターバルを変更する。
- 旗門審判員に指示を与えたり、旗門審判員から情報を収集したりする
- ジャッジスタンドやジャッジの作業環境をチェックする。

2004.6.3 運営面では、特に次の業務を遂行する

- ドロー用に選手の順番を決める。
- 決定された特定の基準に従って、ポイントを持ってない選手をグループ分けする。
- 再レースを許可する。
- レースを中止する。（下記について早い時点で）

雪不足やコースの雪面状況が良くなかったり、均等に準備ができていない場合、危険箇所の保護が不十分であると思われる場合、応急処置や救護体制が不十分であったり不足している場合、観客の混雑をコントロールできていない場合。

- 雪や天候の状況に応じてコースを短縮する。
- 競技を中断する。(条項 2033 を参照のこと)
- 競技を終了する。(条項 2034 を参照のこと)

2004.6.4 規律面では、特に次の業務を遂行する

- 身体的能力や技術的能力に欠けるという理由を根拠に選手を競技から除外するという技術代表の提案について、判断を下す。
- 競技エリアにおける用具や衣服上の広告に関する規定に基づいてチェックを実施する。
- 競技コースへの入場を許可する役員や技術者、医療関係者の人数を制限する。
- 競技会への参加が認められているチームキャプテンやトレーナー、コースセッター、サービスマン、企業代表者が犯した反則に対する決定を下す。
- 失格と制裁及び懲戒措置を公表する。
- 制裁を科す。
- 抗議に対する決定を下す。
- 競技会全体を通して、特別な指示を出す。

2004.7 規則で網羅されていない問題

一般的に、国際競技規則で明確にされていない問題についてはすべてジュリーが決定を行う。

2004.8 無線

国際 FIS カレンダーに記載されているすべての競技会において、ジュリーメンバーは無線を携帯しなければならない。この無線は単一の専用周波数で機能し、電波障害のないものでなければならない。スノーボードクロスでは、コースジャッジも無線を携帯する必要がある。

2004.9 主審の職務と権利

国際競技会において、主審は、技術代表及び競技委員長とは異なる国籍でなければならない。

2004.9.1 主審の職務と権限

- スタート順のドローを行う
- コースセッティング終了後直ちに、単独またはジュリーメンバーおよび指名された係員とともにコースインスペクションを行う。
- 旗門を取り除いたり、追加したりして、コースを変更する。主審が単独でコースインスペクションを行った場合は、主審の決定が最終決定となる。
- 変更を決定したコースインスペクションにコースセッターやジュリー全員が参加しなかった場合は、欠席したコースセッターやジュリーにコースの変更を伝えなければならない。
- 1 本目の終了後と競技終了時に、ルール違反や旗門の不正通過について、スタート審判、フィニッシュ審判及び競技役員から報告を受ける。
- 各ランの終了後直ちに、主審決定報告書をチェックし、署名した上で公式掲示板に

掲示する。また、フィニッシュハウスには、失格した選手の氏名や不正通過が発生した旗門ナンバー、失格の原因となった不正通過を記録した旗門審判員の氏名及び正確な失格掲示時間を記したリストを掲示する。

- 特殊な場合、例えば、ジュリーメンバーの間で意見の食い違いが起きた場合や、参加選手が重傷を負った場合は、FIS に報告書を送る。

2004.9.2 技術代表との協力
主審及び副審は技術代表と緊密に連携して業務を進めなければならない。

2004.10 **テクニカルアドバイザー**
ジュリーをサポートするため、FIS は全カテゴリーの競技についてテクニカルアドバイザーを任命できる。
テクニカルアドバイザーは、投票権はないが、ジュリー内で自分の意見を述べる権限がある。

2004.11 FIS はジュリーや個々のジュリーメンバーへ制裁を科すことができる。

2005 技術代表

2005.1 定義

2005.1.1 技術代表の主な職務
-FIS の規則及び指示が守られていることを確認する
-競技が円滑に実行されるように監督する
-職務の範囲内で主催者に助言する
-FIS の公式代表者となる

2005.1.2 身分保証
技術代表の組織は、スノーボード委員会の責任下にある。スノーボード技術代表に関する技術代表ワーキンググループがこの権限を行使する。

2005.1.3 技術代表は、有効な技術代表ライセンスを持っていなければならない。(例外: 条項 2005.3 を参照)

2005.1.4 技術代表資格の取得
各国スキー連盟は、技術代表 (TD) の職務能力を備えた人物を技術代表 (TD) 志願者として FIS 事務局へ任命する権利を有する
技術代表 (TD) 資格取得までの道のりは次の通りである
- 各国スキー連盟の管理下で開催される競技会において、技術代表 (TD) に必要とされる重要な技術や知識が備わった実務を含む、各国スキー連盟によって提供される資格取得活動と基礎訓練を行う
- 各国スキー連盟によって FIS へ任命された志願者である
- 公式な FIS の技術代表 (TD) クリニックに参加する

- FISの資格を持った技術代表 (TD) とともに雪上における実地アシスタント (実習) とテストを最低3回行う (単種目の特別ライセンスの場合は2回)
- 2回目の公式なFISの技術代表 (TD) クリニックに参加し、最終筆記テストと面接試験を受ける

- 2005.1.4.3 アシスタント(実習)における費用は技術代表(TD)志願者自身が負担しなければならない。技術代表(TD)志願者は、彼らがアシスタント(実習)やテストを行っている期間の費用の払い戻しを大会組織委員会やFISから受ける権限はない。
- 2005.1.4.4 訓練
- 2005.1.5.1 FIS への推薦より前に、志願者への準備段階の訓練を行う責任は、各国スキー連盟にある。FIS の技術代表(TD)クリニックで基礎的な訓練を受けるに十分な経験と技術を持った志願者を出席させる責任は各国スキー連盟にある。そのうえで、監督している技術代表(TD)による合格の評価をもらったうえで、実地アシスタント(実習)を行い、その後最終試験を受ける。
- 2005.1.4.5 試験は英語で実施される。
志願者は推薦後2年以内にFISの競技会、複合競技会において、彼らが資格を取得したい各種目で2回の実地アシスタント(実習)をうまく遂行しなければならない。(スノーボード全種目の資格には全部で3回必要)アシスタント(実習)は二つの異なるレベルの競技会で行うべきである。全ての実地アシスタント(実習)において、承認されたフォーマットを使用した完全な技術代表(TD)報告書の提出を含んだ通常技術代表(TD)によって引き受けられるすべての仕事を引き受けことが志願者に要求される。異なる監督下での競技会では技術代表(TD)は、アシスタント(実習)ごとに推薦される。
- 2005.1.4.6 どの競技会においても、一人の技術代表(TD)志願者のみが試験評価を受ける。
監督する事を指名された技術代表(TD)による実地アシスタント(実習)の手配計画と大会組織委員会での事前合意があった場合、FISスノーボード技術代表(TD)ワーキンググループは例外を認める。
- 2005.1.4.7 技術代表(TD)志願者の実地アシスタント(実習)は、その競技に関する事について公式に任命された FIS の資格を持った技術代表(TD)により監督される。技術代表は、技術代表(TD)志願者の技術的な能力について、FIS に適応した書式で作成すべきである。
- 2005.1.4.8 技術代表(TD)志願者の全ての技術代表(TD)報告書と担当した技術代表(TD)による査定書は、FIS事務局及び志願者の国のスキー連盟の責任者へ提出し送付されなければならない。
- 2005.1.4.9 実技と筆記テストが終了し、技術代表(TD)アドバイザーグループの承認が確認された

後、技術代表 (TD) 志願者は、技術代表ナンバーが付記された個別の技術代表 (TD) ライセンスを交付される。

2005.1.4.10 ライセンス
ライセンスは、ナンバーが付記された2年間で有効の身分証明書である。すべての FIS 技術代表 (TD) にとって義務として、ライセンスを2年毎に更新しなければならない。

2005.1.4.11 ライセンスの継続と失効
ライセンスを持つすべての技術代表 (TD) は、FIS が開催するスノーボードTDクリニックに毎年参加すべきである。正当な理由なく2年間連続でアップデートプログラムに欠席する、もしくは技術代表 (TD) の職務を怠ったりした場合、その技術代表 (TD) はライセンスを失う。

2005.2 選任

2005.2.1 冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及び FIS ジュニア世界選手権においては、スノーボード委員会からの推薦を受け FIS 理事会にて任命される。

2005.2.2 すべての国際競技会について、技術代表の選任は FIS スノーボード TD ワーキンググループが行う。

2005.2.3 主催連盟のメンバーは、技術代表になれない。例外として、FIS は主催国に所属する技術代表を任命できる。ただし、この場合、主催クラブ、または地元スキー連盟のメンバーを技術代表として任命することはできない。

2005.3 代理技術代表

2005.3.1 技術代表が冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及び FIS ジュニア世界選手権をつとめることができなくなった場合は、所属するスキー連盟および FIS 理事会へ通知しなければならない。FIS 理事会はただちに他の技術代表の任命を行うものとする。

2005.3.2 技術代表が所属するスキー連盟は、その他のすべてのイベントにおいて、代理技術代表をただちに任命する責任を持ち、当該組織委員会と FIS へただちに報告しなければならない。

2005.3.3 思いがけない理由で、冬季オリンピックあるいは FIS 世界選手権に到着することができない場合、あるいは遅刻して部分的もしくは全ての競技会において彼の職務が遂行できない場合は、FIS 理事会によりその競技会会場にいるジュリーのメンバーの中から代理の技術代表が指名される。

2005.3.4 全ての国際競技会において、競技会を欠席する技術代表の代理となる人物を、チームキャプテンミーティング前に指名する必要がある。代理となる技術代表も、他の技術代表と同様に、条項 2005.1.3 の条件を満たしていなければならない。
緊急の場合は、これらの条件を満たしていない人物を技術代表に指名できるが、競技の実施(継続)を保証できるだけの能力がなければならない。この人物の選択には厳しい基準を適用しなければならない。

2005.3.5 代理技術代表は、最初に選任されていた技術代表と同様の権限と義務を有する。

2005.4 主催者の任務

- 2005.4.1 主催者は、時間的に十分な余裕を持って技術代表との連絡を開始しなければならない。
- 2005.4.2 競技会の中止や延期は、適用される締切期限を考慮に入れ、技術代表及び FIS に直ちに伝えなければならない。
- 2005.4.3 すべての国際競技会について、技術代表は遅くとも競技または公式トレーニングの開始 24 時間前には競技会会場に到着しなければならない。

2005.5 すべての競技の技術代表の職務

- 2005.5.1 レース開始前
技術代表は、
- 競技会開催承認関連の書類に目を通し、特別認可の有無について主催者に尋ねる。
 - 技術代表が開催承認が下りていないと判断した場合、ジュリーは競技会を中止しなければならない。
 - 当該開催地で過去に実施された競技会に関する技術代表報告書を読み、これらの報告書で提案された改善が実行されているかどうかをチェックする。
 - 条項 212 で要求されている損害保険証書を点検し、必要な場合は FIS に報告する。
 - 競技コース及びトレーニングコースのインスペクションを行う
 - 公式トレーニングを監督し、旗門フラグを管理する
 - 運営面及びテクニカル面での準備に協力する
 - FIS ポイントなど、公式エントリーリストをチェックする。
 - 選手の FIS ライセンスの正当性と年齢制限をチェックする
 - ジュリーメンバー全員に渡るだけの十分な数の無線機があることを確認する。
 - 競技参加認定及びコース入場許可をチェックする
 - 整備やマーキング、観客管理及びスタートエリアとフィニッシュエリアのレイアウトに関して、競技コースをチェックする。
 - ジュリーとともにコースセッティングを監督する
 - スノーボードクロス、スロープスタイル、ビッグエアでは、競技ジュリーとともにコース造成を監督する。
 - テレビ塔の位置をチェックし、適切に保護されていることを確認する。
 - コース沿いにある救護施設の位置及び医療体制をチェックする
 - 掲示、手動掲示、通信、人の輸送、ジャッジスタンド等、テクニカルな設備装置をすべてチェックする。

- すべてのトレーニング中、競技エリアにいる。
- すべてのジュリーミーティング及びチームキャプテンミーティングに参加する。
- 組織委員会の役員及び FIS テクニカルアドバイザーと協力して業務を遂行する。
- ジュリーの議長を務め、投票が同数で割れた場合は、決定票を有する。
- 必要があれば、ジュリーメンバーを任命する。
- 回転、大回転、またはパラレル競技が「不可抗力」により公認コースで実施できない場合、主催者が提案する「代替コース」に競技会場を移動させる権限がある。ただし、必要な公認基準が満たされていることが絶対条件である。

2005.5.2

競技中

技術代表は、

- コースエリアにいなければならない
- ジュリー、チームキャプテン及びコーチと協力して業務を遂行する。
- 衣服や競技用品につけられている広告などに関して有効な規則や指示が遵守されていることを確認する。
- テクニカル面や運営面から競技会の実施を監督する。
- FIS 規則や指示の遵守に関して、主催組織に助言する。

2005.5.3

レース終了後

技術代表は

- 主審による失格報告書の作成を手伝う
- 正当な抗議であれば、最終決定を求めるため、これをジュリーに提出する。
- レースセクレタリーが作成した公式リザルトに署名し、表彰式の開催を許可する。
- 追加報告も含めた技術代表報告書を作成する。続いて 3 日以内にその報告書を FIS 及びその他関係各所に発送する責任がある
- 当該競技会における実際の経験を下に競技規則の変更に関する適切な提案を FIS に提出する
- すべての競技の中断や中止について、全ての詳細(条項.2034)を記載した TD 報告書を FIS と主催国連盟へ提出する。その報告書には、競技の中止についての可能性や勧告について及び FIS ポイントが付くか否かの考慮を記載する。

2005.5.4

一般に

技術代表は、

- FIS 規則で網羅されていない問題や、十分にカバーされていない問題について、これらがジュリーによって解決されておらず、かつ他の関係部署の権限範囲に属さない場合に判断を下す。
- 主審及び副審とごく緊密に協力して業務を遂行する
- 条項 2033 の必要条件が該当する場合には競技の中断を指示し、条項 2034 の必要条件が該当する場合には競技を中止させる権限がある。
- 選手を競技から除外することをジュリーに提案する権限がある
- 職務遂行に必要なすべての事柄について組織委員会及びその管轄下にある全役員から支援を受ける権限がある

- 例外的かつ特別な状況では、技術代表の決定が最終的決定となり、拘束力を持つ。このような場合、技術代表は決定とその理由を文書にして、直ちに FIS 事務局に提出しなければならない。

2005.6

経費計算

技術代表は、最高で600スイスフラン¹⁾までの払い戻しを受ける権限と、職務遂行中に無料で宿泊施設と食事の提供を受ける権限がある。この規則はインスペクションや競技会場への移動にも適用される(列車の場合はファーストクラス、飛行機の場合はツーリストクラス、自動車の場合は1km当たり0.70スイスフラン、または相当額)。さらに、往復の移動日についても、職務についている日と同様に、固定日当100スイスフランが加算される。この日当には報告書の郵送費などを含む。費用の二重請求(競技会最終日の帰宅費用など)は認められない。業務上必要な往復の旅程で一泊する必要がある場合、この宿泊については正当な理由づけが行われた上で、別途清算されるものとする。

¹⁾ 最高 600 スイスフランの払い戻しは、ワールドカップとコンチネンタルカップを除くすべての競技会に適用される。

*この規則は、冬季オリンピックと FIS 世界選手権大会にて全てのジュリーメンバーに適用される

2005.7

制裁措置

技術代表および認可された参加者やオフィシャルに対して、制裁措置が科せられることがある。

2006

ジャッジ

2006.1

定義

2006.1.1

競技ジャッジは、各競技会レベルのライセンス(FIS スノーボードジャッジワーキンググループの公認)を有する公式に認められた役員のグループである。彼らは最新のルールとジャッジ基準に基づいてジャッジしなければならない。(FIS スノーボードジャッジマニュアルも参照)

2006.1.2

身分保証

ジャッジの組織は、スノーボード委員会の責任下にある。スノーボードジャッジに関するジャッジワーキンググループがこの権限を行使する。

2006.1.3

必要条件

ジャッジおよびヘッドジャッジは、競技会レベルごとに異なる有効なライセンスを持っていないなければならない。(FIS スノーボードジャッジマニュアルも参照)

- 2006.1.4 ジャッジ資格の取得
- 2006.1.4.1 ジャッジ資格取得までの段階は次の通りである：
- 志願者
- 筆記テスト(ジャッジクリニック)
- 候補者
- ジャッジ実施テスト
- C レベルライセンスから A レベルライセンス
- 2006.4.1.2 各国スキー連盟は、ジャッジとして FIS 用の訓練を受けた人物を推薦できる。スノーボードジャッジワーキンググループがその受け入れについて最終決定する。
- 2006.1.5 訓練
- 2006.1.5.1 志願者に最初の訓練を施す責任は、各国スキー連盟にある。
- 2006.1.5.2 志願者は、国際ジャッジクリニックに参加して、筆記試験に合格することで、FIS スノーボードジャッジワーキンググループから承認される。この試験は FIS の公用語の一つで行われる。
- 2006.1.6 ライセンス
- 2006.1.6.1 各国のスキー連盟は C レベルライセンスのみ発行できる。A, A-prov, B, B-prov レベルライセンスは FIS スノーボードジャッジワーキンググループのみにより発行される。(FIS スノーボードジャッジマニュアルを参照)
- 2006.2 選任**
- 2006.2.1 冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及び FIS ジュニア世界選手権においては、スノーボード委員会からの推薦を受け FIS 理事会にて全ジャッジ員団について任命される。
- 2006.2.2 すべての国際競技会について、全ジャッジ員団の選任は FIS が行う。(スノーボードジャッジワーキンググループ)
- 2006.2.3 自分の家族が参加しているイベント(競技会)には、ジャッジとして任命されることは許されない。
(祖父母、両親、子供、兄弟、姉妹、夫、妻)
- 2006.3 代理ジャッジ**
- 2006.3.1 ジャッジが冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及び FIS ジュニア世界選手権をつとめることができなくなった場合は、所属するスキー連盟および FIS 理事会へ通知しなければならない。FIS 理事会は他のジャッジをただちに任命しなければならない。
- 2006.3.2 ジャッジが所属するスキー連盟と FIS が一緒となり、その他のすべてのイベントにおいて、代理ジャッジをただちに任命する責任を持ち、当該組織委員会と FIS へただちに報告しなければならない。

2006.3.3 思いがけない理由で、冬季オリンピックあるいは FIS 世界選手権に到着することができない場合、あるいは遅刻して部分的もしくは全ての競技会において彼の職務が遂行できない場合は、アシスタントヘッドジャッジが代理となる。

2006.4 主催者の任務

2006.4.1 主催者は、時間的に十分な余裕を持ってジャッジと特にヘッドジャッジとは常に連絡を開始しなければならない。

2006.4.2 競技会の中止や延期は、適用される締切期限を考慮に入れ、ジャッジ及び FIS に直ちに伝えなければならない。

2006.4.3 冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及びジュニア世界選手権及びワールドカップにおけるジャッジの推薦については、スノーボードジャッジワーキンググループへ次の期間までに行うことができる。

冬季オリンピック:

国からの推薦はその大会の約 1 年半前の毎年の秋の会議まで

FIS 世界選手権:

国からの推薦はその大会の約 1 年前の毎年の春の会議まで

FIS ジュニア世界選手権:

国からの推薦は各シーズンの毎年の秋の会議まで

ワールドカップ:

国からの推薦は各シーズンの毎年の秋の会議まで

2006.5 ヘッドジャッジの権限と職務

- ヘッドジャッジはその競技会のレベルにおいて有効なライセンスを持っていないといけない
- ヘッドジャッジはジュリーメンバーとなる(投票権を持つ)
- ヘッドジャッジは、もしできればジャッジ員団とは別となり採点をせずに、ジャッジの採点の正確さおよび計算係長とともにリザルトをチェックし、TD と共にジャッジエリア/スタンドを管理することに責任をもつ。
- ヘッドジャッジは、ジャッジが緊急の場合には代理ジャッジを務めることができる。
- ジャッジが 6 人いた場合、ヘッドジャッジは採点する必要はない。
- ヘッドジャッジはすべてのジャッジが FIS スノーボードジャッジ基準にしたがっているか確認する責任がある
- すべてのジュリーミーティングとキャプテンミーティングへ出席しなければならない。競技会の前の最後のミーティングへジャッジ員団を参加させなければならない。
- ヘッドジャッジは、各ジャッジに対する移動手段、宿泊施設及び費用等のすべての手配が整っていることを確認しなければならない。ヘッドジャッジは、連絡関係全般やスケジュール、タイムテーブル、用品、医療施設、出席状況に関する責任を負う。したがって、ジャッジが担当する競技関連業務においていかなる異例の事態が発生しても、ヘッドジャッジはこの事態に対する全責任を負うことを受け入れなければならない。

2006.6

ジャッジング手順—ハーフパイプ、スロープスタイルとビッグエア

各ジャッジは、ジャッジ名、選手名及びビブナンバーをメモリーボード／スコアカードに記録する。すべてのメモリーボード／スコアカードに各カテゴリーのスコアが記録され、最終スコアの決定に用いられる(非公開採点システム)。

2006.6.1

すべての競技会においてジャッジは FIS ジャッジ基準に従う

2006.6.2

各ジャッジは、常に採点を絶え間なく書き続けて記録(メモリーボードとスコアカード)していなければならない。

2006.6.3

得点は、ヘッドジャッジおよび TD にて確認および承認されるまでは、公式として発表されない。

2006.6.4

ジャッジスタンドにおける各ジャッジ間の距離は、最低 1.5m とする。
選手の得点についてジャッジ間で話し合うことは最小限にする。(ヘッドジャッジによるコメントは除く)

2006.6.5

競技中、選手または観客がジャッジエリアに近づいて、ジャッジに話しかけることは禁止されている。

2006.6.6

ジャッジまたはジャッジングから派生する問題または討論はすべて、ジュリーが処理する。
ジュリーは、解決できない問題については FIS に問い合わせることができる。

2006.6.7

ジャッジは、費用の払い戻しを受ける権利がある。(条項 2006.8 を参照)

2006.7

ジャッジの人数—ハーフパイプ、スロープスタイルとビッグエア

2006.7.1

冬季オリンピックと FIS 世界選手権においては最低 8 人のジャッジが必要となる。

ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエアにおいて

- 6 採点ジャッジ

-1 アシスタントジャッジ

- 1 ヘッドジャッジ

スロープスタイルにおいて、セクション別にジャッジする場合は、最低 8 人の採点ジャッジと 1 人のヘッドジャッジで行わなければならない。

2006.7.2

FIS ワールドカップと FIS ジュニア世界選手権とすべての他の国際競技においては最低 6 人のジャッジが必要となる。

- 最低 5 人の得点ジャッジ

- 1 ヘッドジャッジ

国際競技(COC とそれ以下の FIS レベル)における特別な場合として、

1 ヘッドジャッジ + 3 または 4 得点ジャッジが許される。

(例外については、FIS によって許可される)

2006.8

経費計算

ジャッジは、最高で 600 スイスフラン¹⁾までの払い戻しを受ける権限と、職務遂行中に無料で宿泊施設と食事の提供を受ける権限がある。この規則はインスペクションや競技会場への移動にも適用される(列車の場合はファーストクラス、飛行機の場合はツーリストクラス、自動車の場合は 1 km 当たり 0.70 スイスフラン、または相当額)。さらに、往復の移動日についても、職務についている日と同様に、固定日当 100 スイスフランが加算される*。この日当には報告書の郵送費などを含む。費用の二重請求(競技会最終日の帰宅費用など)は認められない。業務上必要な往復の旅程で一泊する必要がある場合、この宿泊については正当な理由づけが行われた上で、別途清算されるものとする。

¹⁾ 最高 600 スイスフランの払い戻しは、冬季オリンピック、世界選手権大会、ワールドカップとコンチネンタルカップを除くすべての競技会に適用される。

*この規則は、冬季オリンピックと FIS 世界選手権大会にて全てのジュリーメンバーに適用される

2006.9

ハーフパイプ、スロープスタイル、ビッグエアにおけるジャッジスタンド

ジャッジスタンドは 5m×6m 以上にすべきである。

ジャッジが選手の滑走を見る場所は、適正な人数の役員を収容でき、ジャッジが滑走を見られるだけの広さがあり、競技運営に必要な適切な快適さが確保されるように作らなければならない。

ハーフパイプにおいて：ジャッジスタンドは、ハーフパイプの下部に設置しなければならない。ビデオジャッジを採用する場合には、ジャッジスタンドはどこに設置しても良い。

スロープスタイルにおいて：ビデオジャッジを採用する場合は、ジャッジスタンドはどこに設置しても良い。ビデオジャッジを採用しない場合は、ジャッジスタンドをスロープスタイルの全コースが一番良く見える場所まで移動する必要がある。もし全コースが見えないのであれば、2番目のジャッジスタンドを設置すべきであり、それに伴い全コースを見るためにジャッジメンバーも増やす必要がある。

ビッグエアにおいて：ビデオジャッジを採用する場合は、ジャッジスタンドはどこに設置しても良い。ビデオジャッジを採用しない場合は、ジャッジスタンドは、ジャンプに対して真横か45度の角度で、アプローチ、テイクオフ、そして着地までが良く見える場所に設置すべきである。

ジャッジエリアはフェンスで囲み、選手や観客が侵入できないようにしなければならない。

2006.10 **ジャッジ(各競技会レベル)**

2006.10.1 **レベル 3～4 の競技会(FIS 大会とNC大会)**

他国からのジャッジが 1 名いなければならない。

レベル 2 の競技会(コンチネンタルカップ)

他国からのジャッジが 1 名いなければならない。また、ヘッドジャッジは他国の人であるべきである。

レベル1の競技会(WC、WJC、WJC and OWG)

ジャッジは全員異なる国の人でなければならない(ただしヘッドジャッジとジャッジ 1 名が同じ国籍でも構わない)

(FIS スノーボード・ジャッジ・マニュアルも参照のこと)

スロープスタイルと7人以上のジャッジで行う場合は2人以上の採点ジャッジが同じ国になっても構わない。

WSC と OWG では同じ国からの採点ジャッジは二人しか認められない。

2006.10.2 レベル2, 3, 4の競技会において、不可抗力やその他の問題が起こった場合については、ジュリーと FIS が統一した例外を認めることができる。
レベル1の競技会については、FIS のみが例外を認めることができる。

2006.11 **ジャッジ全般**

2006.11.1 それぞれの競技会において、ヘッドジャッジと国際ジャッジは、準備を含むすべての競技期間中、町議に立ち会わなければならない。

2006.11.2 ジャッジは、競技中、FIS のジャッジ基準に従って、選手を採点しなければならない。

2006.11.3 ジャッジが選手の得点を記録するためにスコアカードを使用する場合は、ビブナンバー別に記載すべきである。そしてジャッジもまた、選手の演技に関する特記事項(トリック、転倒、スコア等)を記載したメモリ・ボードを保存する。

2006.11.4 ヘッドジャッジが話し合いを始めた場合を除いて、選手の得点に関する話し合いは最小限でなければならない。

2006.11.5 選手やチームの代表者または観客が競技中、ジャッジスタンドに近づいたり、ジャッジに話しかける事は許されない。

2006.11.6 ジャッジングから生じる抗議または問題は、すべてヘッドジャッジ及び競技ジュリーが処理する。

2006.11.7 自分の家族(子供、兄弟、姉妹、夫、妻)が参加している競技会に、ジャッジとして任命されることは許されない。

2006.11.8 3-12 人のジャッジは、ジャッジ基準に基づいて、選手の演技を個々に評価しなければならない。得点ジャッジが 6 人いる場合は、一番上と一番下の得点は破棄され、残りの得点が平均化される。得点ジャッジが 3-5 人の場合は、全ての得点がカウントされる。

2006.12 ジャッジ／ヘッドジャッジの責任と職務

2006.12.1 ジャッジの責任と職務

2006.12.2 ジャッジは、偏見を持たず、過去の印象にとらわれずに、選手の国籍や人種、皮膚の色や宗教に関係なく、すべての選手を公平に審判し、順位をつけなければならない。前者の印象を気にせず、競合する国や選手、色や信条を考慮せずに、偏りなく全てを公平にランク付けする。

2006.12.3 任命を受ける前に、利害の衝突が存在する可能性がある場合、ジャッジはそうした衝突をすべて明確にヘッドジャッジに伝えなければならない。

2006.12.4 ジャッジは、ジャッジとしての職務に就いている間は、競技期間の前後及び競技期間中を通して、チームキャプテンや選手及び観客に対してジャッジングに対する個人的見解を述べてはならない。

2006.12.5 ジャッジは、すべての話し合いにおいて、思慮深く、道理をわかまえるものとする。

2006.12.6 ジャッジは、結果を事前に予測して言明してはならない。

2006.12.7 ジャッジは、穏やかに批判を受け入れ、あらゆる状況において平静を保たなくてはならない。

2006.12.8 ジャッジは、どのような方法であれ、誹謗するようなやり方で他のジャッジの行為を伝えてはならない。ジャッジの業務や行動に対する批判は、当該競技のヘッドジャッジに申し立てるものとする。

2006.12.9 すべてのジャッジは、選手が演じる様々な技を見分けられるだけの熟練を積んでいる必要がある。

2006.12.10 ジャッジは、すべてのジャッジ要点説明会や競技終了後の会議及びチームキャプテンミーティングに出席し、常にヘッドジャッジからの連絡に応じられるようにする。

2006.12.11 すべてのジャッジは、効率的でタイムリーにジャッジする能力を備えている必要がある。

2006.12.13 ジャッジは、あらゆる点で FIS のジャッジング基準に従うものとする。

2006.13 ヘッドジャッジの責任と職務

2006.13.1 ジャッジの宿泊や日当、移動の手配を支援する。

2006.13.2 試合の前日にチームキャプテンミーティングを主催し、さらにジャッジ要点説明会及び競技会終了後のジャッジとの分析会議を主催する。

2006.13.3 技術代表、コース係長及び参加できるチームキャプテンと共に、必要なコースインスペクションのすべてに参加する。

2006.13.4 ジャッジセクレタリーに要点を説明し、ジャッジに必要なもの(文房具、スコアカード、快適さを保つために必要なもの)を用意する。

2006.13.5 適正に提出された抗議はすべて受理する。

2006.13.6 競技中いつでもジャッジに適切な行動をとらせる。

2006.13.7 ジャッジングのすり合わせをするために、トレーニング及び前走の最中の話し合いをリードする。

- 2006.13.8 ジャッジの担当するカテゴリーを決め、場合によっては担当の変更を管理する。
- 2006.13.9 基準を外れたスコアに関して話し合うなど、採点手順を監督し、管理する。
- 2006.13.10 選手を判定する用意がジャッジ側で整ったら、スターターにそれを知らせる。ジャッジには、次の選手のビブナンバーを明瞭に伝える。
- 2006.13.11 ジャッジスタンド及びジャッジスタンドで行われる活動の総合的管理に責任を負う。
- 2006.13.12 スコアの計算及びチェックに責任を負う。
- 2006.13.13 タイブ레이크すべてについて正確さをチェックする。
- 2006.13.14 緊急時には、代理ジャッジを務める。
- 2006.13.15 ジャッジスタンドの位置や設備、レイアウトや視界を承認するために、ジュリーの一員として、ジャッジスタンドのインスペクションを行う。ジュリーによるこのインスペクションは、遅くても競技実施日の前日までに行う。
- 2006.13.16 練習中及び競技中のハーフパイプの設営と維持管理を監督する責任を、ジュリーの一員として、他のジュリーメンバー及びハーフパイプ係長と共に負う。
- 2006.13.17 競技におけるジャッジングに関するあらゆる問題について最終的権限を持ち、ジャッジ業務におけるあらゆる違反に対して全責任を負うことを受け入れる。
- 2006.13.18 技術代表、競技委員長／ハーフパイプ係長と共にジュリーの一員となる。

2007 コースセッター

2007.1 必要条件

- 2007.1.1 冬季オリンピック及びFIS世界選手権及びジュニア世界選手権及びワールドカップにおいて、コースセッターはFISより指名される。(セットの経験のみにもとづいて)
- 2007.1.2 その他の国際FISカレンダーに記載されている国際競技会において、コースセッターはFISあるいはジュリーあるいは組織委員会より指名される。

2007.2 任命

- 2007.2.1 冬季オリンピック及びFIS世界選手権及びジュニア世界選手権及びワールドカップにおいて、コースセッターとコースビルダーはレースディレクターによる審査の後に任命される。スノーボードクロスコースセットについては、レースディレクターがジュリーとコネクションコーチと共に行うことになる。

2007.2.2 国際 FIS カレンダーに記載されている国際競技会において、コースセッターはジュリーより任命される。2本のランにて実施される競技(SL,GS)の場合は、各ランは異なるコースセッターがセットするものとする。

2007.3 コースセッターとコースビルダーの監督

2007.3.1 すべての競技会において、コースセッターとコースビルダーの仕事はジュリーが監督する。

2007.4 選任の構成について

冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及びジュニア世界選手権及びワールドカップにおいて、コースセッターとコースビルダーの任務はジュリーと協力しているレースディレクターによって監督される。

その他の競技会についての任務については、ジュリーが監督する。

2007.5 代理コースセッター

2007.5.1 冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及びジュニア世界選手権において、ジュリーと協力しているレースディレクターが代理コースセッターを指名する。

2007.5.2 その他の国際 FIS カレンダーに記載されている国際競技会において、ジュリーが代理コースセッターを指名する。

2007.5.3 代理コースセッターは職務を果たせなくなったコースセッターと同等の資格がなければならない。

2007.6 コースセッターの権限

2007.6.1 コースの地形や安全対策に関して変更の導入を提案する権限がある。

2007.6.2 コースセッティングだけに集中できるように、十分な人数のコースセット支援要員を確保する権限がある。

2007.6.3 コース係長から必要な資材の提供を受ける権限がある。

2007.6.5 コースの最初のパネルの色を選択する権限があり、それは見やすさが決定要因となる。

2007.7 コースセッターの職務

2007.7.1 適切にコースセッティングするために、コースセッターは、地形、積雪量、参加選手の技量に注意を払い、技術代表、主審、競技委員長及びコース係長の立会いのもとで、競技エリアの地形を事前にインスペクションする。

2007.7.2 コースセッターは、競技コースの安全を最大限に考慮しながらセットする。

2007.7.3 コースセッターは、グーフィー(右足前)の選手、またはレギュラー(左足前)の選手どちらかが有利になることがないように、左右対称にコースセッティングするように注意しなければならない。スタートと第1旗門の間はターンをしないようにセットする。

2007.7.4 選手がインスペクション中に妨げられることがないように、遅くともコースインスペクションの前までにセッティングを完全に終了させなければならない。

2007.7.5 コースセッティングは、コースセッターが担当する業務である。コースセッターは、国際競技規則の規定を遵守する責任があり、ジュリーメンバーの助言を受ける。

2007.7.6 コースセッターはすべてのチームキャプテンミーティングに出席し、コースについて報告する。

2007.7.7 コースセッターは、ジュリーに協力しなければならない。

2007.8 競技会場への到着

2007.8.1 あらゆる競技について、コースセッターはできれば競技実施日の前日に競技会場に到着していなければならない。いずれにしても第1回チームキャプテンミーティングまでには到着していなければならない。冬季オリンピック及びFIS世界選手権及びジュニア世界選手権及びワールドカップにおいては、レースディレクターが大会の何日前に到着するかを決定する。

2008 受入れの権限と職務

2008.1 オフィシャル、メディカル、テクニカルの総人員

各競技会場での正しい利用定員は次の通り：

3選手まで : 3 トレーナー 2 ドクター 2 テクニカル

4-5選手まで : 3 トレーナー 2 ドクター 3 テクニカル

6-10選手まで : 5 トレーナー 2 ドクター 4 テクニカル

同様にFISの代表も公式に受け入れる

ナショナルチームのオフィシャル(チームキャプテン、他)も上記に含む。オフィシャルであることがわかるようにアームバンドをつけなければならない。必要な場合、ジュリーはこの定員を減らすことができる。条項220.3と220.5

にて認められたオフィシャルおよびテクニカルとメディカル全員は、すべての安全に責任を持つ組織委員会のオフィシャルな精算に従わなければならない。

承認されたすべての人々に(ジャーナリスト、コーチ、チームキャプテン、メディカルスタッフ:ドクター、フィジオセラピスト、応急処置員、ほか)に関する場合、ジュリーから与えられた指示が優先される。

2008.2 チームキャプテンとトレーナー

主催者は定員にしたがって、チームキャプテンとトレーナーを公式に受け入れる。公式な受け入れの権限と職務は、

- ジュリーのメンバーの一人である。
- FISから任命されていない場合や任命された人が不在の場合、競技役員として指名される。
- 公式トレーニングまたは競技中にパスまたはアームバンドを発行される
- 働きが決まっているかコースをマークする際にパスかアームバンドを発行される。
- ジュリーの指示や指図に従う。

2008.2.1 チームキャプテンとトレーナーは、ICR やジュリー決定に従わなければならない。また、礼儀正しくかつスポーツマンらしくふるまわなければならない。

2008.2.2 チームキャプテンまたはトレーナーは、引き受けたジュリーメンバーの一員としての職務またはコースセッターとしての職務を責任をもって遂行しなければならない。

2009 前走者

2009.1 主催者は、適格な前走者を少なくとも3名用意する義務がある。通常と異なる場合、ジュリーは、前走者の人数を増やすことや各ランごとに異なる前走者を指名できる。

2009.2 前走者は、前走用のスタートナンバー(ビブ)と FIS から要求されるすべての用具を着用しなければならない。(条項 2607 を参照)

2009.3 指名された前走者は、各競技様式にてコースを滑走できるだけの十分なスノーボードの実力を持っていなければならない。

2009.4 1本目で失格となった選手が2本目に前走者としてスタートすることは認められていない。規律上の理由で出場停止となっている選手を、前走者として指名することはできない。

2009.5 ジュリーが前走者とそのスタート順を決定する。競技の中断後は、必要に応じて前走者の追加が認められる。

2009.6 前走者のタイムは公表されない。

2009.7 要請があれば、前走者は雪の状態、視界及びコースラインについてジュリーメンバーに報告する。

2010 選手の責任

2010.1 保険

各選手は、適切な傷害保険に加入し、FIS 国際ライセンスの選手宣誓書に署名しなければならない。

2010.2 スタートナンバー(ビブ)

形状やサイズ、文字及び装着方法は変更してはならない。違反は失格となる。形状は少なくとも8cmも大きく判別しやすいものでなければならない。スタートナンバーには商業名や商業マークを付けることができる。各スタートナンバーはマーキングが同じでなければならない。個々の文字や数字は、10cm の高さを超えてはならない。

2010.3 広告

競技及びトレーニング中に着用される装備や用具に付けられる広告は、FISのガイドラインに適合するものでなければならない。

2010.4 選手は、規則や規定及びジャッジ基準に精通していなければならない。

2010.5 選手は、表彰式に出席しなければならない。また、正しいビブを適正に着用しなければならない。さらに、勝者は、メディア関係の活動に参加しなければならない。表彰式の間は、選手向け公式情報の中で確定されるものとする。選手は、競技実施日以外に行われる表彰式に出席する義務はない。

- 2010.6 すべてのスノーボード競技で、ヘルメットの着用が義務付けられている。FIS のスノーボード競技で使用されるヘルメットは、それぞれの定めにより特別にデザインされて、CE マークのついた、CEE1077 や US2040 や ASTM2040 のような基準に基づいたものである。ヘルメットは、メーカー推奨に従って着用しなければならない。
- 2011 **年齢制限**
- 2011.1 **競技年度と暦年の定義**
FIS 競技年度は 7 月 1 日から翌年 6 月 30 日までである。暦年は 1 月 1 日から 12 月 31 日までである。
- 2011.2 **ハーフパイプ、スロープスタイル及びビッグエアの年齢制限**
ハーフパイプ、スロープスタイル及びビッグエアの国際競技会に出場するには、選手は暦年末までに 13 回目の誕生日を迎えていなければならない。主要大会に出場するには、選手は FIS の大会年が始まる暦年末までに 15 回目の誕生日を迎えていなければならない。
- 2011.3 **パラレル及びスノーボードクロスの年齢制限**
パラレル及びスノーボードクロスの国際競技会及び主要大会では、選手は FIS 大会年が始まる暦年末までに 15 回目の誕生日を迎えていなければならない。
- 2011.4 **主要大会**
主要大会とは次のように定義される：ワールドカップ、世界選手権大会および冬季オリンピック。
全ての主要大会では、選手は FIS 大会年が始まる暦年末までに 15 回目の誕生日を迎えていなければならない。
- 2011.5 **国際ジュニア選手 (Interational Junior) の年齢**
ハーフパイプ、スロープスタイル及びビッグエアの最低年齢は、2011.2 条に準ずる。パラレル及びスノーボードクロスの場合、2011.3 条に準ずる。
パラレルジャイアントスラローム、パラレルスラローム、スノーボードクロス、スノーボードクロス団体の場合、国際ジュニア競技会への参加は、FIS 競技年が始まるカレンダー一年の間に、またはその後 20 回目の誕生日を迎える選手に限られる。
ビッグエア、ハーフパイプ、スノーボードスロープスタイルの場合、国際ジュニア競技会への参加は、FIS 競技年が始まるカレンダー一年の間に、またはその後 18 回目の誕生日を迎える選手に限られる。
(詳細は、次表を参照)

2011.6

国際競技区分

参加できる生年

FIS 競技年度	16/17	17/18	18/19
U13	2004	2005	2006
	2003	2004	2005

U15	2002	2003	2004
	2001	2002	2003

U17	2000	2001	2002
	1999	2000	2001

U19	1998	1999	2000
	1997	1998	1999

ライセンス選手

AL,SBX	2001	2002	2003
	以前	以前	以前

HP,SS,BA	2003	2004	2005
	以前	以前	以前

WSC,WC,OWG (全競技)	2001	2002	2003
	以前	以前	以前

FIS ジュニア世界選手権大会

FIS 競技年度	16/17	17/18	18/19
HP,BA,SS	最低 2003	2004	2005
	最高 1999	2000	2001

AL,SBX	最低 2001	2002	2003
	最高 1997	1998	1999

2020

スタート、フィニッシュ、計時、計算

テクニカル関連設備

2020.1

通信連絡

すべての国際競技会において、複数の通信手段(電話または無線機、等)をスタートとフィニッシュの間に設ける必要がある。その通信手段は、有線つながっているものか無線機でなければならない。無線の場合、その他のものと別のチャンネルでなければならない。冬季オリンピック及びFIS世界選手権において、スタートとフィニッシュ間のすべての連絡用と計時用機器は、確実に有線でつながれたものでなければならない。(ハーフパイプを除く)

2020.2

計時設備

すべての競技会において、FIS の承認を受けた電気計時、スタートゲート、光電管を使用しなければならない。計時についての特別な手順等についての詳細は、FIS タイミングブック(別冊)にて参照することができる。

2020.2.1

電気計時

すべての国際競技会、FIS ワールドカップ、FIS コンチネンタルカップ、FIS レースでは、同期され、電子的に独立した、時刻で作動する計時システム 2 つを使用しなければならない。

レース開始前に片方を A システム(メイン・システム)とし、もう片方を B システム(バックアップシステム)と指定する。

全ての時刻は即時に自動的に連続して紙幣印字で少なくとも 1000 分の 1 の精度(0.001)で記録されなければならない。両システムとも、各選手のスタート時刻とフィニッシュ時刻を数学的比較にすることで正味時間が計算できるようなものでなければならない。各選手の滑走の最終結果は算出されたコース上の正味時間の切捨てを行うことで 100 分の 1(0.01)の精度で表示する。すべての国際競技会において、A システムはそれぞれのスタートゲートとつながるように設置しなければならない。B システムは他の電子スタートゲートと別につながるように設置しなければならない。ケーブルや無線、図、スタートゲートの設置についての詳細は、FIS タイミングブックにて参照することができる。

すべての電気計時の技術的な設置については、できる限り選手の危険を避けることを配慮して取り付ける必要がある。

計時の同期は各ランのスタートから 60 分以内に行わなければならない。(少なくともスタートの 30 分前までには行うことを推奨する)すべてのシステムの同期は、各ランを通じて継続して行わなければならない。それらのランの途中で再同期してはならない。

2020.2.2

スタートゲート

スタートゲートの支柱の間は、約 80~90cm とする。

計時ゲートが「プッシュオフ」(“押し出し”)で使えない場合は、追加の柱を「プッシュオフ」用に設置しても構わない。

スタートゲートは、1 本のスタートバーに接続された 2 つ(パラレル)、3 つ(トリプル-S)、4 つあるいは 6 つ(スノーボードクロス)の独立したワンバンドもしくはスタートシステムを備えたスタートメカニズムを備え、ゲートを開いたり引いたりしなくてはスタートできないように設置される。

2020.2.3

光電管

すべての競技会において、FIS に承認された光電管を 2 組、フィニッシュラインに設置しなければならない。通常の状態ではフィニッシュする選手は、下肢(くるぶしと膝の間)で光線を横切ることになるので、その高さにあわせて光電管を設置する。

- 2020.2.4 手動計時
すべての競技会において、予備としての手動計時は、完全に分離され独立したものを使用しなければならない。スタートとフィニッシュに設置されるバッテリーで稼働するストップウォッチあるいはハンドグリップは、少なくとも 1/100 秒の単位を正確に表示できる能力のある手動計時でなければならない。それぞれのランが始まる前までに、A システムと B システムの日時を同じにあわせておく必要がある。自動的もしくは手書きにて紙幣印字されたものもしくは手動計時で記録されたものは、スタートとフィニッシュにてすぐに利用することができなければならない。
- 2020.2.5 スコアボード
主催者は、選手全員の記録タイムや記録スコアを、見える形または聞こえる形で継続的に発表するための適切な設備を用意しなければならない。
- 2020.2.6 ケーブル無しの計時
FIS レベル 3 のイベントについてのみ、スタートとフィニッシュを FIS で承認されたケーブルで結ばない計時機器を使用することができる。これについての詳細は、FIS タイミングブックにて参照することができる。
- 2020.3 フィニッシュの計時**
- 2020.3.1 電子計時では、選手が身体または用具のいずれかの部分でフィニッシュラインを横切り、光電管の間の光線が反応した時にタイムが計測される。
フィニッシュで転倒した場合、選手の両足がフィニッシュラインを横切っていない場合、タイムが計測されることがある(条項 2025.3 を参照)。
-記録タイムが有効となる条件として、選手はボードを伴った状態で直接かつ完全にフィニッシュラインを通過しなければならない(ボードを伴っていない場合、選手は失格となる)。
-手動計時では、選手のいずれかの部分がフィニッシュラインを横切ったときにタイムが計測される。
-フィニッシュコントローラーがフィニッシュラインの通過が正当であったかを判断する。
- 2020.3.2 メインの電動計時システム(A システム)が故障した場合、予備の電動計時システム(B システム)によるリザルトが有効となる。(条項 2020.2.1 参照)
スタートとフィニッシュの間で計時システムの配線が切れた場合は、この予備電動計時システムによって、1/100 秒単位のタイムを計算する。
システム A とシステム B のどちらのネットタイムも利用出来ない場合、手動タイムを計算したネットタイムが有効となる。(条項 2020.3.2.1 参照)

- 2020.3.2.1 手動計時タイムの利用
手動タイムは、補正値を計算した後であれば、公式リザルトに使用できる。
補正値の計算
電動計時タイムが計測されていない選手の前にスタートした5名及びその選手の後にスタートした5名、または必要な場合は、その選手の最も近い時刻にスタートした10名の選手の電動計時タイムと手動計時タイムとの差を計算する。
そして10のタイム差の合計を10で割り、電動計時タイムのない選手の手動計時タイムに適用する補正値とする。
- 2020.3.3 プリンターで出された公式計時記録紙は、技術代表に渡す。当該競技が公式承認されるまで、または計時や競技成績の抗議のために、競技主催者にて保管される。
その競技に参加した計時係長と技術代表によって確認および署名されたタイミンレポート(FIS専用フォーマット)とリザルトを一緒に送付しなければならない。
プリンターで出された公式計時記録紙(Aシステム、Bシステム、手動計時)は、競技終了後3ヶ月または計時や競技成績の抗議のために競技主催者にて保管される。
- 2020.4 チーム所有の非公式計時機器
非公式の計時設備の取り付けの要求はチームキャプテンからなされなければならない、設置の承認については、ジュリーにて決定される。冬季オリンピック及びFIS世界選手権については、主催者の計時設備のみが許可される。
- 2021 スタート役員、フィニッシュ役員
- 2021.1 **スターター**
スターターは、スタートの10分前までに、アシスタントスターターと、そして電話もしくは無線を通じて計時係長と、時計の時刻を合わせなければならない。スターターは、スタート予告及びスタート合図に関する責任だけでなく、これらの合図の間に正確なインターバルを保つ責任もある。スターターはアシスタントスターターを選手の監督にあたる。フリースタイル種目の場合、スターターはヘッドジャッジと連絡を取り合わなければならない。
- 2021.2 **アシスタントスターター**
アシスタントスターターは、正しいスタート順で選手をスタートに召集する責任がある。
- 2021.3 **スタート記録員**
スタート記録員は、全選手について、実際のスタート時刻を記録する責任がある。
- 2021.4 **計時係長**
計時係長は、計時の正確性に責任がある。計時係長は、競技開始のできるだけ直前及び競技終了のできるだけ直後に、スターターと時計の時刻を合わせる。計時係長は(スコアボード等)にできるだけ速やかに非公式タイムを発表しなければならない。電動計時が故障した場合、計時係長は直ちにスタート審判及び技術代表と連絡を取らなければならない。

- 2021.5 アシスタント計時員
条項 2020.2.4 に従い、2 名のアシスタント計時員がストップウォッチを操作する。アシスタント計時員 1 名は、全選手の登録タイムを完全に記録する。
- 2021.6 フィニッシュコントローラー／フィニッシュ係長(スノーボードクロス)
フィニッシュコントローラーとフィニッシュ係長は次の職務を担当する：
-最終旗門からフィニッシュまでのセクションを監督する。
-フィニッシュラインの適正通過を監督する。
-完走した選手全員についてフィニッシュ順を記録する。
- 2021.7 計算係長
計算係長は、迅速かつ正確なりザルト計算に責任を負う。計算係長は、非公式リザルトの迅速な複写業務及び抗議時間締切後または抗議処理終了後の公式リザルトの公表業務を監督する。
- 2022 スタート**
- 2022.1 スタートエリア
スタートエリアは、スタートする選手、その選手のコーチ 1 名及びスタート役員以外は入れないように閉鎖されていなければならない。スタートエリアは、悪天候から適切に保護されていなければならない。コーチ、チームキャプテン、サービスマン等のために、観客に妨害されることなく待機中の選手の世話がができるような、ロープで囲った特別なエリアを設けなければならない。スタートの呼び出しを待つ選手のために適当な待避場所が用意されていなければならない。
- 2022.2 スタート台
スタート台は、選手がリラックスしてスタートラインに立て、スタート後すばやくフルスピードに到達できるように、設置する。アルペン種目とスノーボードクロス種目では、常にプッシュオフポストをスタート台に取り付けるものとする。スタート台の仕様は各種目の必要性に合わせて調整する。
- 2022.3 スタート手順
スタートする選手に便宜を図ったり、邪魔したりする恐れのある役員や付き添いは、選手の背後にいることを禁じられる。外部からの支援は一切禁止されている。スターターの指示に従い、選手はスタートバーの後ろに立たなければならない。スターターはスタートにいる選手に触ってはならない。スタートポストまたはその他同様の補助具を押してスタートすることは認められている。

- 2022.4 スタートシグナル／合図
- 2022.4.1 すべてのシングルにて計測する競技(GS, SL, SBX)のスタートシグナルは次の通り:
スターターは、スタート10秒前に各選手に「10秒」と告げる。そしてスタートしてスタート5秒前から「5、4、3、2、1」とカウントし、「Go-Partez-Los(スタート)」のスタート合図を送る。スタートシグナルには、できれば自動音響信号を使用する。スターターは、選手にスタート時計が見えるようにする。
- 2022.4.2 パラレル競技のスタート合図は次の通り:
スターターは、「赤、用意は?(Red course ready?)」、「青、用意は?(Blue course ready?)」「注意(Attention)」と声を掛けることによって、両選手の準備が整っていることを確認してから「ゴー(Go)」または音声による合図を1回出す。
「選手用意、(Riders ready)」というかけ声は、(連続する短いピープ音に続いて、異なるスタートピープ音(より大きいまたは長い)が1回鳴ってゲートがオープンするといった)音声によるスタート合図の場合にのみ用いるものとする。
- 2022.4.3 フリースタイル競技(HP, BA, SBS)のスタート合図は次の通り:
ヘッドジャッジから「ジャッジ準備完了(Judges Ready)」との連絡を受けた後にスターターが「ゴー(Go)」と合図を出す。スターターはヘッドジャッジに:例えば:”ビブナンバー22番、右(あるいは左)からドロップイン”と告げる。
- 2022.4.4 スノーボードクロス決勝のスタート合図は次の通り:
「選手、用意(Riders ready)」「注意(Attention)」ゲートはランダムに1秒から4秒の間でオープンする。(この1秒から4秒はスターターの任意)
- 2022.5 スタート計時**
スタート計時は、選手が膝から下の部分でスタートラインを横切った正確な時間を計測する。
- 2022.6 遅延スタート**
所定の時間にスタートする用意ができていない選手は制裁措置の対象となる。ただし、スタート審判は、遅刻が「不可抗力」によるものと判断した場合、その遅刻を容認してもよい。ただし、選手個人の用具の故障や、選手の軽い病気などは、「不可抗力」にはならない。疑問が残る場合、スタート審判は暫定的にスタートを許可できる。
- 2022.6.1 スタートインターバルが固定されている場合、遅刻した選手はスタート審判に報告した後、スタート審判の判断に従って、固定インターバルでスタートする。スタート審判は、遅れた選手がいつ(どの順番で)スタートするかをジュリーに知らせる。
- 2022.6.2 スタートインターバルが固定されていない場合、遅刻した選手は条項2105.3.1に従ってスタートする。スタート審判は、遅れた選手がいつ(どの順番で)スタートするかをジュリーに知らせる。

2022.6.3 スタートに遅刻があった場合、スタート審判がすべての決定を行う。スタート審判は、競技会終了後直ちに、遅刻によりスタートが許可されなかった選手、遅刻はしたがスタートが許された選手または暫定的にスタートが許された選手について、そのスタートナンバーと氏名を主審に報告しなければならない。

2022.7 有効スタート、不正スタート

固定スタートインターバルを採用する競技では、選手はスタートシグナルに従ってスタートしなければならない。公式スタート時間の前後各 5 秒という制限以内にスタートすれば、スタート時間は有効となる。この制限時間内にスタートしない選手は制裁となる。フリースタイル種目（ハーフパイプとスロープスタイルとビックエア）において、スタート系の公式な“GO”という合図の少なくとも 1 分以内にスタートすれば有効となる。この制限時間内にスタートしない選手は失格となる。スタート審判は、不正スタートをした選手またはスタート規則に違反した選手について、そのスタートナンバーと氏名を主審またはヘッドジャッジに報告しなければならない。

2023 場内放送システム

2023.1 すべての種目で音楽を使用できるが、ハーフパイプとビックエアでは使用が義務づけられている。音響システムは、選手がコース上のどこにいても、はっきりとゆがみなく聞こえるように出力が十分なものでなければならない。スピーカーは、上から下までコースの片側(両側)に均等に配置されなければならない。音声は、コース全体にいる選手に時差なしで届かなければならない。

2023.2 音響係長は、競技役員と常に無線で連絡を取らなければならない。

2024 コース及び競技

2024.1 コース

2024.1.1 競技コースのテクニカルパート
スタートとフィニッシュには、競技に必要なアイテムとしてテレビ塔、用具計測所、スポンサー広告用具等が設置される。

2024.2 コースセッティング

2024.2.1 業務支援
ボールを取りにいく等の作業に煩わされることなく、コースセッティングそのものに集中できるように、コースセッターは、ジュリーが定めた時刻に業務支援を受けるものとする。
コース係長は、次の資材や道具を不足なく準備しなければならない：
- 十分の数の赤と青の回転ボール（ロングボールとスタッピーボール）
- 適切な数のフラグ、色分けしてあること
- 大槌、パール、ドリル、くさび等
- 十分な数の旗門番号札
- ボールの位置をマークするための着色剤

2024.2.2 三角バナーの位置
三角バナーの付いた旗門はすべて、コースの一般的なフォールラインに対し直角(90°)に設置しなければならない。

- 2024.2.3 旗門のマーキング
旗門ポールの位置は、競技の最初から最後まで見えるような着色剤を使って、容易に認識できるように印をつけなければならない。
- 2024.2.4 旗門のナンバリング
旗門には、コースの上から下に順に番号をつけるものとする。番号はアウトサイドポールに付ける。スタートとフィニッシュは数に入れない。
- 2024.2.5 コース及び地形の形状の明確化
すべての競技において、コースマークに次のものが使用される：
- 小さな松の葉あるいはそれに似たような材料をコースに薄く広く撒く。
および/あるいは
- 次の箇所に着色染料が使われる。ポールとポールの間に垂直方向に、ハーフパイプのリップ部分、キッカーのランディングやエッジの部分等、水平方向にコースを横切る部分（スノーボードクロス等）、著しく地形が変化する部分やジャンプする部分等のアプローチ部分
- 2024.2.6 予備ポール
コース係長は、十分な数の予備ポールを用意し、正しい場所に配置する責任がある。予備ポールは、選手が誤ってそこに行ってしまうように置かなければならない。
- 2024.3 ウォームアップ用スロープ
適切なウォームアップ用スロープを用意しなければならない。このスロープは可能な限り競技コースに似たものとする必要がある。こうしたスロープへの観客の立ち入りは禁止するものとする。
- 2024.4 コースの閉鎖と変更
閉鎖されたコースでは、ジュリー以外の人物が、旗門やフラグを変えたり、コースにマーキングしたり、コース構造（ジャンプ、こぶ等）を修正したりすることは禁止されている。閉鎖されたコースに入った選手は、ジュリーによる制裁措置を受ける。（インスペクションは例外とする。）
大会の文章を作るために必要な場合等、閉鎖された競技コースへの入場を許可される報道者やカメラチームはジュリーが決定する。同様に、ジュリーの決定によって許可されたトレーナーまたはサービスマン、報道者やカメラマンやカメラチーム等が制限区域の内側にいる限り、人数や位置についてはジュリーの承認を得なければならない。
- 2024.5 競技
- 2024.5.1 旗門の通過
旗門は条項 2070.4.1 によって通過となる。
- 2024.5.2 旗門不通過後の滑走禁止
選手が旗門不通過となった場合、それ以降の旗門を滑走することはできなく、すみやかにコース滑走を棄権する。

2025 フィニッシュ

2025.1 フィニッシュエリア

2025.1.1 フィニッシュエリアは、フィニッシュに近づいてくる選手が視覚的にはっきりと認識できるものでなければならない。またフィニッシュエリアは幅が広く、ゆるやかでスムーズなアウトラインを備えていなければならない。フィニッシュエリアは、整備が行き届いていなければならない。

2025.1.2 コースに旗門を立てる時は、地形に沿った自然なラインを描いてフィニッシュラインを切れるように選手を誘導することに、特に注意する必要がある。

2025.1.3 フィニッシュエリアは、完全にフェンスで囲まなければならない。無許可の入場はいかなるものであれ、防がなければならない。

2025.1.4 フィニッシュにある構造物との衝突を防ぐため、適切な保護措置等を講じて安全にするものとする。

2025.1.5 滑走を終了した選手のために、実際のフィニッシュとは別に特別エリアが用意されるものとする。このエリアでは、報道陣(印刷メディア及び視聴覚メディア)との接触が可能であるとする。

2025.2 フィニッシュラインとそのマーキング

パラレルとスノーボードクロスでは、フィニッシュラインは「フィニッシュ」と記された水平のパナーに繋がった2本(パラレルは3本か4本)の柱もしくは縦長のパナーにより標示される。

パラレル回転とパラレル大回転では、フィニッシュの幅は8m以上(合計最低16m)、大回転及びスノーボードクロスでは10m以上とする。

例外的措置として、テクニカルな理由または地形的な理由であれば、ジューリーが現場でフィニッシュの幅を狭くすることができる。2本のフィニッシュポスト、または2枚のパナーの間の距離をフィニッシュの幅と考える。計時装置を載せる杭も最低でもこの幅を確保し、保護する必要がある。計時装置用の杭はフィニッシュポストまたはパナーのすぐ後ろで、傾斜の下側に設置される。フィニッシュラインは着色剤ではっきりと印さなければならない。

2025.3 フィニッシュラインの通過

フィニッシュラインは以下の状態で横切らなければならない:

-少なくとも片方の足がボードに付いている。

-フィニッシュエリア直前で転倒した場合は、両足で横切る。この場合、選手の身体または用具のいずれかの部分が計時システムを止めた時にタイムが計測される。

-スノーボードクロスでは、フィニッシュの順位は身体またはスノーボードのいずれかの部分がフィニッシュラインを横切った時点で、判定される。

2026 スタートエリア及びフィニッシュエリアにおけるマイク

スタートエリア内、フィニッシュエリア内及びフェンスで仕切られたエリア内では、主催者の同意なしに設置されたマイク(カメラや他の専門機器に取り付けられた「移動式」または、いわゆる「ぶら下げ式」マイク)は、トレーニング中及び競技中ともに使用を禁止されている。

2027 リザルトの計算及び発表

2027.1 非公式タイム及びスコア

計時員が計測したタイムは、非公式タイムと見なされる。チェックを受け確認される前に発表されるスコアも非公式と見なされる。非公式タイムや非公式スコアは、滑走を終了した選手のために用意されたエリアやプレスエリアから見やすいところに設置されたスコアボードに掲示される。可能な限り、非公式タイムは観客にもスピーカーによって発表するものとする。

スノーボードクロスでは、コースの頂上及び麓にスコアボードを用意するものとする。

2027.2 非公式タイム、スコア、失格の発表

2027.2.1 非公式タイム、スコア及び失格は、競技終了後(スノーボードクロスでは競技またはヒート終了後)、できるだけ早い時点で、公式掲示板及びフィニッシュエリアで発表するものとする。抗議の制限時間 15 分は、スノーボードクロス以外(条項 2027.2.2)、計時が開始されてから、および/あるいは、失格の発表の時点からカウントされる。

2027.2.2 フィニッシュエリアとスタートエリアでの非公式タイムの発表及び書面と口頭による失格の発表をもって、公式掲示板での発表に代えることができる。この場合でも、抗議は失格発表後直ち(スノーボードクロスの場合、抗議は次の競技またはヒートが始まる前)に申し出なければならない。または遅くとも 15 分以内にフィニッシュラインにいる主審に口頭で申し出ること、さらにその後に取り込まれた抗議は無効とする取り決めをすることができる。チームキャプテンには事前にこの旨を通知しなければならない。

2027.3 公式リザルト

2027.3.1 公式リザルトは、失格とならなかった選手のタイムやスコアまたは(スノーボードクロスの場合)着順によって確定する。

2027.3.2 複数の選手が同タイム、同スコア、同ポイントまたは同着の場合、選手全員が同位(同ポイント)を獲得する。ただし、公式リザルトには、スタートナンバーが大きい選手から順に掲載される。勝ち進めなかった(予備予選、準決勝あるいは決勝に進めなかった)タイの選手は、最終リザルトおよび部分的なリザルト(予選リザルト、予備予選リザルト、準決勝リザルト)には、上記同様に同位に掲載される。

2027.3.3 公式リザルトには、次の事項を記載しなければならない：

- 主催クラブまたは主催連盟の名称
- 競技会名、会場、種目、カテゴリー、(男子または女子)

- 競技実施日
- コース名、スタート標高、フィニッシュ標高、標高差、コース全長、アイテムの数、コースビルダー名、ハーフパイプの斜度、ジャンプの高さ、ビッケアのランディングの斜度などすべてのテクニカルデータ
- ジュリーメンバー及びジャッジの氏名と所属国
- 各ランについて、コースセッター及び前走者の氏名と所属国、旗門数、スタート時間
- 天候、コース上の雪の状態、スタートエリア及びフィニッシュエリアの気温
- 順位、スタートナンバー、FIS コードナンバー、氏名、所属国(及びできれば所属クラブ)、タイム、競技ポイントなど、選手に関するすべての詳細
- 各ランで、棄権、途中棄権、または失格した選手のスタートナンバー、FIS コードナンバー、氏名及び所属国
- 計時担当企業やコンピューター担当企業など公式サービス企業の名称
- 完全なスコア計算(例:ジャッジ別スコア、各ラン及びジャッジカテゴリーごとの合計スコア、技術代表の署名)
- TD の署名

- 2027.3.4 (公式、非公式の)リザルトリスト及びスタートリストは、白い紙に印刷しなければならない。
- 2027.3.5 所属国は大文字 3 字の指定 FIS コードで表さなければならない(FIS 公報あるいは FIS web site を参照のこと)。
- 2027.3.6 ワールドカップおよびハイレベルな大会における公式リザルトリストには、次の情報を追加で掲載すること。
 フリースタイル:異なるトリック名
 アルペン:最低2つのタイム
 スノーボードクロス:最低3つのタイムとランキング

2028

表彰式

競技が終了する前や技術代表が表彰式を許可する前に表彰式を行ってはならない。主催者は、表彰式より前に優勝予定者を発表する権利がある。この発表は非公式なものであり、公式な表彰式とは別の場所で行われる。

2030

スタート順

冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及び FIS ジュニア世界選手権及び FIS ワールドカップ、FIS コンチネンタルカップについては、特別ルールが発行される場合がある。

2031 スタート順とシード

2031.1 出走する選手の分類は、ジュリーによって行われる。

2031.2 選手の分類には、FIS によって作成された FIS ポイントリストが使われる。最新の有効な FIS ポイントリストに選手の名前がない場合は、ノーポイントの選手と同じグループに割り当てる。

2031.3 スタート順の決定には FIS 又はカップポイントリストのどちらか高い FIS ポイントリストが使用される。

第 1 グループは 16 名の選手で編成され、全選手が 30 名未満の場合、またはそれらに近い数とジュリーが決めた場合は、10 名に減らすことができる。

アルペンとスノーボードクロス競技については、第 1 グループには、無作為の(可能であればマニュアル)ドローが行われる。その他の選手はランキングに従ってスタート順が決定する。ノーポイントの選手は其中でドローされる。

コンチネンタルカップ、ワールドカップ、世界選手権及びオリンピック冬季大会のアルペンとスノーボードクロス競技のスタート順の決定には、FIS 又はカップポイント(オリンピック冬季大会におけるワールドカップポイント)のどちらか高い FIS ポイントリストが使用される。

FIS レース、ユースオリンピック冬季大会及びジュニア世界選手権レベルのハーフパイプ、スロープスタイル及びビッグエア競技のスタート順の決定には、FIS ポイントリストが使用される。

フリースタイル競技(ハーフパイプとスロープスタイルとビッグエア)では、第 1 グループには、コンピューターによる無作為のドローが行われる。その他の選手もそのグループの中で無作為のドローが行われ、ノーポイントの選手もそのグループの中で同様に行われる。

ワールドカップ競技ではワールドカップ特別ルールが適用される場合がある。

2031.4 競技日の 1 日前にドローが行わなければならない。これはナイトイベントには有効ではない。

2031.5 ドローはチームキャプテンミーティングにて行わなければならない。ダブルドローは、選手のスタート番号と名前による同時のドローが推奨される。

2031.6 ドローの後の変更

ドロー後及びスタートリストが公式となった後のスタートリスト変更は許可されない。

2031.7 異常な条件下でのスタート順(ファースト・シードを除く)

2031.7.1 異常な条件下でジュリーはスタート順を変えることができる(降雪時等)。事前に指名された 6 名以上の選手が、ピブ番号 1 番の前にスタートする。この 6 名の選手はスタートリスト最後の 20%に当たる選手のうちから抽選され、ピブ番号の逆順でスタートする。組織委員会より 6 名以上の適任な前走者が提供される場合はこのルールは適用されない。

- 2032 スタートインターバル**
- 2032.1 通常のスタートインターバル**
大回転及び回転競技では、通常、30 秒から 60 秒の規則的インターバルでスタートする。ジュリーが異なる固定インターバルを設定することができる。フリースタイル競技のスタートインターバルはヘッドジャッジによって設定される。
- 2032.2 特別なスタートインターバル**
スタートインターバルは、次の条件の下で変更することができる：
- 2032.2.1 テレビ放送の要求に応えるためにジュリーはスタートインターバルの時間を長くすることができる。
- 2032.2.2 最初の 25 名の選手(ピブ 1～25 までのグループ)のスタートインターバルは、最大で 120 秒とすることができる。
- 2032.2.3 スタートインターバルは、大回転では 30 秒以上なければならない。
- 2033 仮の再走**
- 2033.1 必要条件**
- 2033.1.1 役員の不手際、観客、動物または他の正当と認められる理由によって競技中に妨害を受けた選手は、妨害発生直後にジュリーのいずれかに仮の再走を申し出ることができる。こうした申し出は、妨害を受けた選手のチームキャプテンも行うことができる。選手は妨害を受けた後、直ちにコースを離れなければならない、その地点より下に滑走して行ってはならない。(コースサイドをのみ滑走可能)スノーボードクロスファイナルには適用されない。
- 2033.1.2 特殊な状況や他のテクニカルな欠陥(スタートゲートの欠陥や計時等)があった場合、ジュリーが仮の再走を命じることができる。
- 2033.1.3 スノーボードクロスにおいて、イエローフラッグにて止まった選手は、主催者側の見解から可能だとジュリーが判断した状況の下にて、仮の再走をする権利を持つ。ジュリーは、その選手の仮の再走をスタートリストの最後の選手よりも前にすることができる。
- 2033.2 妨害の根拠**
- 2033.2.1 役員、観客、動物または他の障害によるコース妨害があった場合。
- 2033.2.2 すぐにコースを空けなかった転倒選手によるコース妨害があった場合(スノーボードクロスの決勝には適用されない)。
- 2033.2.3 前の選手の用具など、コース上に物体がある場合(スノーボードクロスには適用されない)。
- 2033.2.4 選手の妨害となるような応急処置活動が行われている場合。
- 2033.2.5 前の選手が倒した後にすぐに立て直さなかったために、旗門が紛失した場合(スノーボードクロスの決勝には適用されない)。

2033.2.6 その他似たような、選手の意志やコントロールが及ばない出来事で、著しい減速の原因となったり、選手の滑りに影響したりして、選手のリザルトに影響を与える出来事が起きた場合（スノーボードクロスには適用されない）。

2033.3 仮の再走の有効性

2033.3.1 主審または他のジュリーメンバーは、適切な役員またはジャッジに直ちに質問することができない場合、もしくは再レースの正当性を判断できない場合、選手が時間に遅れるのを避けるために暫定的に仮の再走を許可できる。この仮の再走は、ジュリーにより追認された場合にのみ、有効となる。

2033.3.2 選手に仮の再走の権利を与える根拠となった出来事が発生する以前に当該選手が既に失格となっていた場合、仮の再走は無効となる。

2033.3.3 暫定的再走であれ、最終的に認められた再走であれ、例えばタイムがもとのランよりも悪い場合でも、その再走は有効となる。

2033.3.4 再走の要求が不当であることが明確な場合、その選手は失格となり、制裁措置を受ける場合がある。

2033.4 仮の再走のスタート時間

2033.4.1 スタート審判の裁量によって、選手は、スタート審判への報告後、固定インターバルでスタートすることができるとともに、選手はスタートする前に準備をするための時間を十分にとることができる。

2033.4.2 スタートインターバルが固定されていない場合、手順は条項 2022.4 と 2022.7 の規定による。

2034 競技またはトレーニングの中断

中断された競技がその同日に終了しない場合、この競技は中止された競技として扱われる。

2034.1 ジュリーによる中断

2034.1.1 コース整備をするための中断の時刻や所要時間は、即座に公表しなければならない。

2034.1.2 天候や雪の状態が悪かったり、不安定であるために実施される中断の場合。

2034.1.2.1 コース上の作業が終了次第または天候や雪の状態が変わり、適正な競技運営が確実になった場合、競技が再開される。

2034.1.2.2 同じ理由により繰り返し競技の中断が命じられた場合、ジュリーは競技を中止することになる。

2034.2 短時間の中断

各ジュリーメンバーは、短時間の競技中断を指示する権利がある。旗門審判員は短時間の競技中断を要求できる。

2034.3 報告

このような場合にはすべて、FIS 及び主催国連盟あてに TD から詳細な報告書が作成される。その TD 報告書は、よく勧告が見いだされているか、競技の中止が FIS ポイントの有無にかかわるかが含まれている。

- 2035 競技の中止**
- 2035.1 ジュリーによる中止**
-選手が外部の妨害により著しく影響を受ける場合
-通常とは異なる状況が発生したり、レースの適正な運営がもはや保証できなくなった場合
- 2035.2 報告書
条項 2034.3 を参照。
- 2036 上訴**
競技の取りやめや中断、中止に関して、ジュリーの決定(条項 2057)に対しては上訴、技術代表の決定(条項 2051)に対しては抗議を申し立てることができる。こうした上訴や抗議は、問題となる決定が発表された後、24 時間以内に FIS 事務局宛に申し立てるものとする。
- 2037 スタートが許可されない場合／制裁**
次の場合に選手は制裁を受けることがあり、その制裁には FIS スノーボード国際試合でのスタートが許されないことが含まれる。
- 2037.1 衣服や用具に卑猥な名前 および/あるいは シンボルがついていた場合(条項 206.7 を参照)、あるいは、スタートエリアにてスポーツマンらしくないふるまいがあった場合(条項 205.5 を参照)
- 2037.2 FIS 規則の用具(条項 222 を参照)とコマーシャルマーケティング(条項 207 を参照)に違反があった場合
- 2037.3 FIS から要請があった健康診断(条項 221.2 を参照)の約束を辞退した場合
- 2037.4 選手に対して閉鎖されているコース(条項 2024.4 を参照)でトレーニングを行った場合
- 2037.5 全てのスノーボード競技において、競技用具仕様に適用したヘルメットを着用しなかった場合
- 2037.6 1 本目で敗退した場合
- 2037.7 これらの規則に違反してジュリーからの決定を受けた選手が実際にスタートした場合、ジュリーはその選手に制裁を与えなければならない。
- 2038 ペナルティー／制裁**
ジュリーは次のような選手についてペナルティーおよび制裁を課すことができる：
- 2038.1 用具の広告の管理の規定に違反した場合。(条項 207.1)
- 2038.2 許可されていない方法でスタートビブに変更を加えた場合。(条項 2010.2)
- 2038.3 公式のスタートビブを着用あるいは携行していない場合。

- 2038.4 旗門を不通過した場合やコース上の旗門にて求められたターンと同様のターンをした場合。
- 2038.5 スタートに間に合わなかったときや不正スタートをした場合。
- 2038.6 旗門不通過をした後に競技を続けていた場合。
- 2038.7 競技中に外部からの支援を受けた場合。
- 2038.8 条項 2037 に違反した場合。

2039 失格／制裁

選手は、次の場合は失格／制裁を受ける：

- 2039.1 虚偽の申告で競技に参加した場合
- 2039.2 他人の安全や資産を危険にさらす場合
- 2039.3 選手の立ち入りが禁止されているコースでトレーニングをしたり、条項 2024.3 で禁じられている方法でコースを変更したり、トレーニングや競技の実施に関してジュリーの指示に反する行動をした場合。
- 2039.4 トレーニング、インスペクション及び競技においてルールに従ったヘルメットまたは公式スタートビブを着用しなかった場合またはスタートビブに変更を加えた場合。
- 2039.5 スタートに遅刻してきたり、不正スタートをしたり、またはスタートの実行に関する規定に違反した場合。
- 2039.6 少なくとも片方の足をボードに留めた状態で旗門線を横切ることができなかった場合。
- 2039.7 ボードに乗った状態でコースを滑走できなかったり、または条項 2025.3 に従ってフィニッシュを通過できなかった場合。
- 2039.8 競技中、どのような形であれ外部からの支援を受け入れた場合。
- 2039.9 追いついた選手の最初の呼びかけでコースを明け渡さなかったり、妨害をした場合。スノーボードクロス決勝には適用されない。
- 2039.10 後から実証できないことが明らかな仮の再走を不当に要求した場合。

2040 上訴委員会

- 2040.1 条項 225 を参照。

2050 抗議

2051 抗議の種類

- 2051.1 選手への入場許可及び競技用具の使用許可に対する抗議
- 2051.2 コースまたはコースコンディションに対する抗議
- 2051.3 競技中における他の選手または役員に対する抗議

- 2051.4 失格に対する抗議
- 2051.5 計時及びスコア計算に対する抗議
- 2051.6 ジュリーの指示に対する抗議
- 2052 抗議の提出**
抗議は、次のように提出するものとする：
- 2052.1 条項 2051.1～2051.6 に従った抗議は、公式掲示板に指定されている場所またはチームキャプテンミーティングで発表された場所に提出する。
- 2052.2 条項 2034 に従った抗議は FIS 事務局に提出する。
- 2052.3 フィジカルの理由による抗議のみ受入が可能である。
- 2052.4 新たなフィジカルの理由による前の意見と元の意見を再考することを認める。
- 2052.5 全てのジュリーが最終決定を行う。ルールに基づいた抗議と上訴を除いて
- 2053 抗議の締切時間**
- 2053.1 選手への入場許可に対する抗議については、ドロウの前を締切時間とする。
- 2053.2 コースまたはコースコンディションに対する抗議については、競技開始 60 分前を締切時間とする。
- 2053.3 他の選手または選手の用具に対する抗議、もしくは競技中の役員の反則的な行為に対する抗議については、
-最後の選手のフィニッシュ通過後 15 分以内を締切時間とする。
-スノーボードクロスの決勝と PGS の決勝の場合は、次のヒートが始まる前までとする。
- 2053.4 競技における違反行為による失格に対する抗議については、失格の掲示後 15 分以内を締切時間とする。
- 2053.5 計時に対する抗議については、非公式リザルトリストの掲示後 15 分以内を締切時間とする。
- 2053.6 ジュリーの指示に対する抗議については、ただちに／および、条項 2053.4 に従い抗議の決定発表がされる前を締切時間とする。
- 2053.7 誤計算及び誤った事務処理に対する抗議について
役員や選手の反則に関する抗議ではなく、リザルトの誤計算に関する抗議は、競技会当日から 1 カ月以内に選手の所属する連盟を通して書留で郵送された場合、審理の対象となる。誤りのあったことが証明された場合、正しいリザルトリストが公表され、賞金も再分配される。

2054 抗議の形式

- 2054.1 抗議は、原則として書面で提出する。
- 2054.2 例外として、条項 2051.3、2051.4、2051.5 に従った抗議は、口頭で申し立てることができる(条項 2027.2.2)。
- 2054.3 抗議は、詳細にわたり具体的でなければならない。あらゆる証拠物件を含む証拠を提出する必要がある。
- 2054.4 抗議の提出に当たっては、100 スイスフランまたは他の通貨での相当額を預託しなければならない。抗議が是認された場合にはこの預託金は返金されるが、そうでない場合は、FIS のものとなる。
- 2054.5 ジュリーの決定の発表前であれば、抗議申立者は抗議を取り下げることができる。この場合、預託金は返却される。ただし、ジュリーまたはジュリーメンバーが、例えば「条件付き」決定等の中間決定を行った場合、抗議を取り下げることができない。
- 2054.6 締切時間内に申し立てられなかった抗議、または預託金を添えずに提出された抗議は審理されない。

2055 資格

次の者が抗議を提出することができる。(ルールに従って書面または口頭にて)

- 国連盟
- コーチ
- チームキャプテン
- 選手(SBX)

2056 ジュリーによる抗議の処理

- 2056.1 ジュリーはあらかじめ定め、公表しておいた場所及び時間に集まり、抗議を処理する。
- 2056.2 旗門通過に関する抗議の場合、旗門審判員及び必要であれば隣接する旗門の旗門審判員またはその他の関係役員、選手本人、及び抗議側のチームキャプテンまたはコーチを召集して出席させる。
さらに、ビデオテープ、写真、または映像フィルムなど他の証拠を再確認し考慮する。
- 2056.3 投票にはジュリーメンバーだけが出席する。議事進行は技術代表が行う。ジュリーミーティング議事録を作成し、技術代表がこれに署名する。決定には、出席しているジュリーメンバーだけでなく、投票権を有するジュリー全員の過半数を必要とする。同数の場合は、技術代表の票が決定票となる。
決定の基本ルールは、規律維持が保証されるような形で、適用され、解釈されなければならない。

2056.4 決定は、ジュリーミーティングが終了次第、公式掲示板に掲示時間とともに掲示されることにより、公式になる。スノーボードクロスの場合、決定は口頭で発表される。

2057 上訴権

2057.1 上訴

2057.1.1 次について上訴することができる:

- ジュリーの決定に対して(条項 224.11 に関すること)
- ジュリーによる競技中止決定に対して(条項 2035)
- ジュリーの競技中止の際の FIS ポイント計算の勧告に対して
- 公式リザルトリストに対して。この上訴は明白な誤計算に関する問題に対するものである。

2057.1.2 上訴はすべて、FIS 事務局に提出しなければならない。

2057.1.3 時間制限

2057.1.3.1 ジュリーの競技の決定については、上訴委員会へ 48 時間以内に上訴が可能である。

2057.1.3.2 ジュリーの資格以外の事柄である公式リザルトについては 30 日以内に FIS 事務局経由で評議会へ上訴が可能である。

2057.1.4 上訴に対する決定は、次の組織が行う:

- 上訴委員会
- FIS 理事会

2057.2 延長効果

証拠物件の提出(抗議、上訴)は、期限を延長する効力を持たない。

2057.3 提出

証拠は、具体的な証拠となるものを添えて文書で提出しなければならない。期限を過ぎて提出された証拠は、FIS 事務局により却下される。

2058 公認

すべての FIS スノーボードアルペン公認競技会は、公認を受けたコースで実施しなければならない。特別な場合、FIS あるいは競技ジュリーが例外および技術的な資料や要求の逸脱を認めることもある。(条項 202.1.2.3 はスノーボードハーフパイプ、スノーボードクロスおよびスノーボードスロープスタイルには無効である)

2070 旗門判定

- 2070.1 各旗門審判員には、次の事項が記載された旗門記録表が渡される：
- 2070.1.1 旗門審判員の氏名
- 2070.1.2 旗門の番号
- 2070.1.3 ランの区別(1 本目、2 本目/予選、決勝)
- 2070.2 選手が条項 2070.4 に従って正しく旗門(パラレルでは旗門マーカー)を通過しなかった場合、旗門審判員は直ちに旗門記録表に次の事項を記入しなければならない。
- 2070.2.1 選手の(ビブ)スタートナンバー
- 2070.2.2 当該旗門審判員が複数の旗門を担当する場合、反則が起きた旗門の番号
- 2070.2.3 「F」という文字(反則を意味する Fault の頭文字)
- 2070.2.4 発生した反則のスケッチ(スケッチマップは必須)
- 2070.3 旗門審判員は、また、(例えば転倒した場合など)選手が外部からの支援を受け入れていないかどうかを見なければならない。ほんの少しでも外部からの支援を受ければ、失格となる。この種の反則も同様に、旗門記録表に記入しなければならない。

2070.4 旗門の通過

- 2070.4.1 少なくとも選手の前足がボード上のピンディングに固定された状態で、ボード全体が旗門線を通過した場合、当該選手は正しく旗門を通過したことになる。転倒した場合、選手は回転線(ターニングライン)を通過しなければならない。
- 2070.4.2 回転、パラレル回転、大回転、パラレル大回転、スーパーG 及びスノーボードクロスにおける旗門線とは、バナーの底辺の 2 箇所とターニングポールを結ぶラインを延長したものである。
- 2070.4.3 選手のボードと両足が旗門線を通過し終わる前に、選手がポールをその垂直位置から動かしてしまった場合でも、ボードと両足は本来の旗門線(雪面上のマーキング)を通過しなくてはならない。ゲートポールまたはスタッビーが無い場合、選手はもとにあったマーキングのあたりをターンしなければならず、この場合は旗門を通過したものとする。
- 2070.4.4 旗門反則発生後の滑走継続禁止
選手が旗門を通過し損ない、戻って旗門を正しく通過しなかった場合、その選手にはそれ以降の旗門を通過する権利はない。この禁止事項を遵守しなかった場合、選手にはジェリーによる制裁や失格および/あるいは罰金が科せられることがある。
選手が 2 つ以上の旗門を不正通過し、正しいとされる通過(ライン)のうちのいずれか一つから明らかに外れた場合、その選手は自分の反則を認識していたものと見なされる。

2071 旗門審判員

- 2071.1 すべての旗門審判員は以下に表記する項目をチェックカードに記載しなければならない。
- 2071.1.1 旗門審判員の氏名
- 2071.1.2 旗門番号
- 2071.1.3 その滑走の名称(1本目または2本目、予選または決勝)
- 2071.1 各旗門審判員は、競技規則に精通していなければならない、ジュリーの指示に従わなくてはならない。
- 2071.2 優秀な旗門審判員であっても、競技を注意深く監視しながら、個々のケースで選手の犯した反則を見逃したり、誤って反則と判定したりしてしまうことがある。隣接する旗門の審判員やジュリーメンバー、または公式ビデオ管理担当者が選手について当該旗門審判員の記録と異なる報告をした場合、ジュリーは選手の失格や抗議に関する決定を視野に入れた上で、自由裁量でこれらの記録を解釈する。
- 2071.3 旗門審判員が行う判定は、明瞭で偏らないものでなければならない。旗門審判員は、冷静かつ注意深く慎重に振舞わなければならない。疑いのある場合には、旗門審判員は疑わしきは罰せずの原則を守ることとする。
- 2071.4 旗門審判員は、反則があったと確信した場合以外は、反則を宣告してはならない。抗議があった場合、当該旗門審判員はどのように反則が行われたかを、はっきりと断固とした態度で説明できなくてはならない。
- 2071.4.1 反則が起きたかどうか疑問を持った場合、旗門審判員は自身の記録を確認するため、隣接する旗門の審判員に相談することができる。さらに、旗門審判員は、コース上のシュプールをチェックするため、ジュリーメンバーを通じて、競技の短時間の中断を要求することもできる。
- 2071.4.2 旗門審判員の判定は、公衆の意見に影響を受けてはならない。同様に、たとえ経験豊かな者であっても、目撃者の意見を受け入れてはならない。旗門審判員は、自分自身の意見で考え出さなければならない。
- 2071.5 回転、パラレル回転、大回転、パラレル大回転、及びスノーボードクロスでは、旗門審判員の責任は、自分の担当する最初の旗門に選手が近づいてきたときに始まり、担当する最終旗門を通過したときに終了する。

2072 選手に対する責任

- 2072.1 選手は、エラーをしたり、転倒したりした場合、旗門審判員に向かって質問することができる。一方で、旗門審判員は、選手が制裁や失格につながる反則を犯した場合、可能であれば選手にそのことを知らせなければならない。
- 2072.2 いずれの場合でも、旗門審判員は明瞭かつ断固とした声で、次の言葉のいずれかを使って、選手の質問に答えたり、選手に反則を知らせたりする。

- 2072.2.1 「ゴー(行け)」旗門審判員が旗門の通過を正しいものと判定し、選手が失格にならないと判断した場合。
- 2072.2.2 「戻れ」選手が失格となる可能性がある場合。
- 2072.3 旗門審判員は、原則として、これらの言葉を開催国の言語で言うものとする。選手はこれらの表現を学んでおくべきである。また、こうした表現をチームキャプテンミーティングで伝えておくことも有益である。
- 2072.3.1 選手は、自分の行動に対する全責任を負い、旗門審判員に責任を負わせることはできない。

2073 制裁および失格となる反則の即時通知

- 2073.1 特に回転、大回転、スノーボードクロス(またはパラレル競技)では、旗門審判員は失格となる反則を合図で即座に知らせることができる。
- 2073.2 失格となる反則は、次の方法で即座に指摘する。
- 2073.2.1 視界がよい場合は、特定の色を旗を揚げる。
- 2073.2.2 視界が悪かったり、霧が出ていたりする場合は、音による合図をする。
- 2073.2.3 その他、主催者や認められたジュリーが用意した方法で合図する。
- 2073.3 反則を即座に通知したとしても、旗門審判員は記録表への記入を免除されるものではない。
- 2073.4 旗門審判員は、要請があれば、ジュリーメンバーに情報を提供しなければならない。

2074 各ラン終了後の旗門審判員の職務

- 2074.1 ジュリーの指示に従い、旗門審判係長(またはそのアシスタント)はすべての記録票を回収し、主審に渡す。
- 2074.2 1本目終了後、旗門審判係長は2本目用の記録票を配布する。

2075 競技終了後の旗門審判員の職務

- 2075.1 失格や制裁となる反則を記録したり、仮の再走となる出来事を目撃した審判員は、抗議の処理が済むまでジュリーの質問等に答えられるように待機していなければならない。
- 2075.2 ジュリーの呼び出しを待っている旗門審判員に解散許可を与えるのは、技術代表の責任である。

2076 旗門審判員の補足的業務

- 2076.1 旗門審判員は、旗門記録票への必要な記入が済み次第、直ちに他の業務に移らなければならない。旗門審判員は、とりわけ次の業務を頻繁に行う必要がある。
- 2076.1.1 旗門ポールを垂直に立て直す(傾いているポールは選手に有利になったり、選手を妨害したりする)。

- 2076.1.2 倒されて外れてしまったポールを元の正確な位置に立て直す。位置は雪上に着色剤でマークされている。
- 2076.1.3 できれば、破れたフラグを取り替えたり、なくなったフラグを補充する。フラグは常にポールの下部に取り付けなければならない。
- 2076.1.4 折れてしまったポールを色(青か赤)に従って取り替える。折れたポールの破片は選手や観客に危険がないように片付ける。
- 2076.1.5 自分の担当範囲のコースを維持整備する。
- 2076.1.6 コースをきれいにしておく。
- 2076.1.7 選手や第三者がコースにつけた目印を取り除いたり修復する。
- 2076.2 コース上の担当範囲に指定された管理担当者がいない場合は、選手が滑走中にどのような形であれ妨害を受けないように、旗門審判員が、(観客、カメラマン、他の選手等)すべての人が競技コースから十分な距離を保つように管理しなければならない。
- 2076.2.1 旗門審判員は、ジュリーからの指示に従い、参加承認を受けている人々を、選手の邪魔にならないように各々の仕事ができる最適な場所に案内しなければならない。
- 2076.3 旗門審判員は、ジュリーの指示(トレーニングの場所と時間、認められたトレーニング方法、インスペクション、スケジュール等)が遵守されているかどうかを監視しなければならない。
- 2076.4 滑走中に妨害を受けた場合、選手は直ちに競技コースを離れ、最も近くにいる旗門審判員に妨害を受けたことを報告しなければならない。報告を受けた旗門審判員は、妨害が起きたときの状況を記録票に記入し、1 本目または 2 本目終了時にその旗門記録票をジュリーの求めに応じて見せることができるようにしておく。旗門審判員は、妨害を受けたことを直ちに主審か他のジュリーメンバーに報告するよう当該選手に指示しなければならない。

2077 旗門審判員の位置

- 2077.1 旗門審判員は、人から離れた場所を選ばなければならない。旗門審判員は、地形または旗門及びコースの担当範囲を適切に監視でき、また直ちに行動が起こせる程近い場所にいなければならない。ただし、選手を妨害しないように十分離れていなければならない。旗門ポール及び旗門は常に選手にはっきりと見えるようにしなければならない。
- 2077.2 主催者は、旗門審判員を他から容易に見分けられるような外見にする必要がある。服装は、旗門フラグと間違えるような色であってはならない。旗門審判員と区別できるようなビブを着用することが好ましい。

2078 旗門審判員の人数

- 2078.1 主催者は、十分な人数の能力ある旗門審判員を用意しなければならない。必要であれば、主催者が、旗門審判員係長同席のもとで最終指示を与えるために、旗門審判員を集合させることができる。技術代表は、必要に応じてこの集会に参加できる。

2078.2 主催者は、トレーニング及び特に競技に動員できる旗門審判員の人数を Jury に知らせなければならない。

2079 旗門審判員へのサポート

2079.1 旗門審判員は、時間的に十分な余裕を持って、競技開始前に自分の位置につかなければならない。旗門審判員の仕事は数時間に及ぶ場合もあり、気象条件によっては辛いものとなる恐れもある。したがって、もし可能であれば、主催者が防寒服を旗門審判員に支給することが望ましい。

2079.2 旗門審判員の交替が必要とされるようであれば主催者は競技中(または2本目に)それまでの旗門審判員と交替する人数の旗門審判員交代要員を用意する。

2079.3 主催者は、担当場所にいる旗門審判員に飲食物を届けなければならない。

2079.4 頻繁にポールが倒されたり、折られたりするような手間の多い場所では特に、旗門審判員を補助するアシスタントを配置することが望ましい。

2079.5 旗門審判員が職務を適正に遂行するために必要な用具は、事前に予測され、旗門審判員の手元に配備されていなければならない。特に次のようなものが必要となる。

2079.5.1 雪や水から記録票を保護するための特別なビニールカバー

2079.5.2 鉛筆、できればカバーに紐で取り付けられたもの。予備の鉛筆及びあらゆる出来事を記録するための白紙数枚

2079.5.3 コースを適正な状態に保つための作業に必要な道具:シャベル、くまで、ポール、ドリル、くさび等

2079.5.4 十分な数の、正しい色の予備ポール。これらの予備ポールは、選手を混乱させるようであってはならない。これらの予備ポールは、旗門審判員側でコースから十分離れた場所に危険がないようにとがった先を下にして雪の中に斜めにさしておかなければならない。
できればパナーやフラグを予め取り付けしておく。

2079.5.5 スノーボードクロスの場合、競技の最初から最後までフィニッシュ係長との連絡がとれるように、旗門審判員全員が無線を装備していなければならない。

2080 ビデオコントロール

主催者が公式なビデオコントロールを設置した場合、Jury は公式なビデオコントローラーを任命する。ビデオコントローラーの職務は、選手がコースを通過しているか観察することである。スノーボードクロスとパラレル競技において、ビデオコントローラーが明確な失格や制裁をビデオで確認した場合、失格についての最終決定をすることができる。

2085 ゲートフラッグ

2085.1 次の寸法の三角形のゲートフラッグ(バナー)を使用してもよい。
(わずかな寸法の差は受け入れられる)

	PSL/SL	PGS/GS/SBX/SS
底辺の長さ:	100cm	130cm
長い方の高さ:	80cm	110cm
短い方の高さ:	45cm	45cm

2085.2 すべての競技において、PSL/SL に PGS/GS 用のフラッグを仕様してもかまわない。
OWG,WSC,WC,YOG と WJC の大会では、全ての PAR と SBX 競技に PGS サイズのゲートフラッグを使用されるべきである。

2085.3 フォールラインと旗門の底辺が直角(90°)になるようにフラッグを設置しなければならない。フラッグは旗門の底辺にあわせて取り付ける。

2085.4 フラッグの色はスタッピーポールやロングアウトサイドポールと同じでなければならない。(赤または青)

2085.5 フラッグは風を通す素材でなければならない。

2085.6 フラッグの広告は、フラッグが外れる機能の風の透過性を減少させてはならない。

2089 回転ポール

アルペン種目とスノーボードクロスで使用されるすべてのポールは、ノーマルポールとフレックスポールに細別される。

2089.1 ノーマルポール

直径 20mm 以上 32mm 以下で継ぎ目がなく、丸くて均一なポールがノーマルポールとして認められる。セットされた時に、雪面から 1.80m 以上出る長さで、裂けない材質(プラスチック、プラスチックでカバーされた竹または同様の性質を持つ素材)でできていなければならない。

2089.2 フレックスポール

フレックスポールにはスプリング入りの蝶番が付いている。フレックスポールは FIS の仕様を満たすものでなければならない。

2089.2.1 スタッピーポール

スタッピーポールとは、蝶番の下部からポールの上端までの長さが 45cm 以下で、先端が空洞となっているかパッドが付いているフレックスポールである。

-ソフトパッドの長さ(おおよそ): 35cm

-基部の長さ(おおよそ): 25cm

2089.3 フレックスポールの使用

国際 FIS カレンダーに記載されているすべてのスノーボードアルペン競技では、フレックスポールを使用しなければならない。

大回転及びスーパーG 競技では、旗門のアウトサイドポールにはノーマルポールを使用することができる。スノーボードクロスには両方のタイプを使うことができる。

- 2089.3.1 回転及びパラレル回転競技
回転ポールは赤か青で、ポールと同色のバナーが付いていなければならない。ターニングポールは下部に大きなスクリューのついたスタッピーポールでなければならない。アウトサイドポールは通常のフレックスポールとする。
- 2089.3.2 大回転及びパラレル大回転競技
これらの競技では、旗門は三角バナーを付けた回転ポール1本とスタッピーポール1本から構成される。インサイドのターニングポールには、スタッピーフレックスポールを使わなければならない。アウトサイドポールは、フレックスポールでも(風が強い場合は)ノーマルポールでもよい。
- 2089.3.4 スノーボードクロス競技
この競技では、旗門は三角バナーをつけた回転ポール1本とスタッピーポール1本から構成される。インサイドのターニングポールには、スタッピーフレックスポールを使わなければならない。アウトサイドポールは、フレックスポールでも(風が強い場合は)ノーマルポールでもよい。

2090 選手の用具

- 2090.1 スノーボード
スノーボード競技ではスノーボードしか使用できない。ボードの最小幅は次のように制限されている:
- | 滑走面の長さ | 最小幅 |
|------------|------|
| 135cm まで | 14cm |
| 135cm を超える | 16cm |
- 2090.2 ビンディング
ビンディングは、ボードの長軸に対して斜めに固定しなければならない。ブーツが互いに重なってはならない。
- 2090.2.1 SBX では両ビンディングをつなぐプレートシステムの使用は許可されていない。(独立したプレートシステムをそれぞれのビンディングに使用することは許されている)
- 2090.3 流れ止め用の器具、リーシュ(ひも)
主催者またはスキー場が要求しない限り、安全リーシュの使用は任意である。
- 2090.4 バランス及びスピードコントロール
選手が手袋以外のものを手に着用すること、またはポールやスティックなど、バランスを取りやすくしたり、スピードを加減したりするための道具を利用したりすることは禁止されている。
背中のプロテクターの装着は可能であるが、空気抵抗を有利にする効果のあるものは不可である。

第 3 部

各種目のルール

- 2100 回転
- 2101 テクニカルデータ
- 2101.1 標高差
すべてのレースについて、コースの標高差は、120m 以上 180m 以下とする。男女で同一のコースを使用することができる。
- 2101.2 全長
- 2101.2.1 コースの地表の全長は 400m 以上 600m 以下とする。コース全長は計測テープまたはローラー計測器あるいは GPS で計測し、スタートリスト及びびりザルトに記載しなければならない。
- 2101.3 全幅
- 2101.3.1 1、2 本目とも同じ斜面にセットされる場合、コースの幅は少なくとも 30m 以上でなければならない。特別なケースとして、インスペクターあるいはジュリーがコースの短い距離であれば例外を認めることがある。2 本目が 1 本目のコースに再セットされる場合、コースの最小幅は 20m とする。
- 2101.4 旗門
- 2101.4.1 回転の旗門は、三角バナーで連結されたスタッビーポール(ターニングポール)1 本とフレックスポール(アウトサイドポール)1 本から構成される。(条項 2085 条、2089 条を参照のこと)
- 2101.4.2 連続する旗門は、色が交互に並ばなければならない。
- 2101.4.3 ターニングポール間の距離は、10~14m とする。コンビネーションのパナナのターニングポール間の距離は、6~8m とする。
- 2101.4.4 フォールラインと旗門の底辺が直角(90°)になるように三角フラッグを設置しなければならない。三角フラッグは旗門の底辺にあわせて取り付けられる。
- 2101.5 旗門数
最低: 35 旗門
最大: 55 旗門
- 2102 コース
- 2102.1 コースの一般的特徴
- 2102.1.1 理想的な回転競技コースには、前項に規定した標高差と斜度を考慮に入れ、選手が最大限のスピードで巧妙かつ正確にターンができるように設計された連続ターンが盛り込まれていなければならない。

グーフィー(右足前)またはレギュラー(左足前)どちらかに有利になることがないように、コースは左右対称にする。

2102.1.2 回転競技では、すべてのターンを迅速に終わらすこととする。コースは通常の技術とは相いれないアクロバットの演技を要求するものであってはならない。コースは、地形に適した巡回ルートを技術的に巧妙に構成したもので、単独または複数の旗門で繋がれ、選手が流暢に滑ることができると同時に、様々な半径の弧を描きながらの方向転換を要求し、ボード技術の幅広い多様性を試すものとする。旗門は、フルターンが必要となるように、決してフォールラインに沿ってのみセットするのではなく、トラバースも組み合わせる。

2102.1.3 コース整備

回転競技はできるだけ固い雪の上で競わなければならない。競技中に降雪があった場合、コース係長はその雪をバックするか、もし可能で、あればコースから除雪しなければならない。

2103 コースセッティング

2103.1 コースセッター

2103.1.1 回転競技斜面のインスペクション

コースセッターは、コースを設営する前に、このインスペクションを実施しなければならない。回転競技コースは、上位 30 名の選手の平均能力に相応するものとする。

2103.3 セッティング

回転競技のコースセッティングでは、次の原則を遵守する。

- 標準化された旗門コンビネーションを単調に連続させることは避ける。
- 極度に急激で鋭い減速を選手に強いる旗門は、現代の回転競技に備わっているはずの難度を高めるものではなく、ただ滑走の滑らかさを損なうだけのものなので、配置してはならない。
- 難度の高い旗門コンビネーションの前には、選手がそのコンビネーションを上手く制御して通過できるようにするための旗門を 1 つ以上配置することが望ましい。
- スタート直後またはコースの終わりに難易度の高いターンを設定するのは望ましくない。選手がスピードによってフィニッシュを通過できるように、最終旗門はむしろスピードある滑走に適したものとする。
- 選手や計時担当者への危険を避けるため、最終旗門はフィニッシュに近すぎないようにする。最終旗門は、選手をフィニッシュラインの中央に誘導するように配置しなければならない。
- コースセッターがセッティングの進行を監督できるように、回転ポールは配置され次第、コース係長またはそのアシスタントが雪中にねじこむか、打ち込むこととする。

2103.4

回転競技コースのチェック

コースセッターがコースセッティングを完了し次第、ジュリーは次の事項に特別の注意を払いながら、コースがレースのできる状態にあることを確認する：

- 回転ポールはしっかりと雪中に打ち込まれている。
- 旗門の色は正しい順番で並んでいる。
- ポールの位置はマークされている。
- 旗門番号は、アウトサイドポールに正しい順番で付けられている。
- ポールの雪上からの高さは十分である。
- 選手が間違えないように、2つの回転競技コースは十分に離れている。
- 各コースのフェンスは回転ポールから十分離れている。
- コースの端の障害物は取り除かれているか、安全対策がとられている。
- フィニッシュ前の最終旗門は、選手をフィニッシュ中央に誘導するようになっている。
- 予備ポールは、選手が間違えないように正しく配置されている。
- スタートとフィニッシュは条項 2022 及び 2025 に適合している。

2104

コースインスペクション

2104.1

コースは、選手によるインスペクションの開始時から完璧なレースコンディションにななければならない。コース作業員は、インスペクション中の選手を邪魔してはならない。インスペクションの方法はジュリーが決定する。選手は、スタートビブを携帯しなければならない。選手は、ボードに乗って整備されたコースを滑り降りたり、旗門を通過したりしてはならない。選手は、ボードをつけないで、歩いてコースにはいってはならない。選手がコースで「シャドーライド」をすることは禁止されている。選手は、インスペクション中に旗門に触れる(握る)ことを禁じられている。1 回目の違反行為には警告が与えられ、2 回目の違反行為には当該種目における失格処分が科せられる。

2104.2

選手のために出来る限り競技会場に、整備された練習用斜面を用意することは不可欠である。

2105

スタート

2105.1

スタートインターバル

回転競技では、選手は不規則なスタート間隔でスタートする。計時計算係長またはその特別アシスタントは、スターターに各選手がいつスタートしなければならないかを伝える。コース上の選手がフィニッシュラインを通過していなくても、次の選手はスタートできる。

2105.2

スタート順

2105.2.1

1 本目は、スタートナンバー順にスタートする。スタートナンバーは、ランキングリストまたは無作為のマニュアルドローの結果に従って交付される。

2105.2.2

2 本目のスタート順については、条項 2031.7 を参照のこと。

2105.3

スタート合図

スターターは、次のスタートの指示を受け次第、選手に「Attention, Achtung, Ready (用意)」と告知し、数秒後に「Go!, Partez!, Los! (スタート)」というスタート合図を出す。

公式スタート時間の前後各 5 秒という制限時間以内にスタートすれば、スタート時間は有効となる。この制限時間内にスタートしない選手は制裁や失格となる。

2105.3.1 役員に呼ばれてから 1 分以内にスタートに現れなかった選手は、「不可抗力」により遅刻した場合を除いて制裁や失格となる。前の選手が現れないために発生したスタート時間の繰り上がりは、考慮する必要がある。ただし、スタート審判は、「不可抗力」によると判断した遅刻を容認することもできる。疑いがある場合、 Jury は選手に仮の再走を許可できる。

2105.3.2 すべての競技において、プッシュオフポストをスタート台に取り付けるものとする。スタート台の仕様は各種目の必要性に合わせて調整する。

2106 回転競技の実施

2106.1 2 本のラン

回転競技は、異なった 2 つのコースで実施される 2 本のランによって常に成績を定めるものとする。両コースは、 Jury の決定した順序で、1 本目 2 本目と順番に使用されなければならない。選手を 2 グループに分けて両コースで同時にスタートさせることは禁止されている。可能な限り、1、2 本目とも同日に実施する。

2106.2 2 本目における出場制限

女子の場合は 1 本目の上位 15 選手、男子の場合は上位 25 選手が 2 本目の出場資格を得る。ただし、コンチネンタルカップ及びそれ以下のレベルの競技会では、時間的に余裕があれば、男子の場合は 45 名、女子の場合は 25 名の選手に対して、 Jury が 2 本目の滑走を認める場合がある。この場合は、1 本目のスタートの 1 時間以上前に告知されるものとする。

男女とも上位 15 名が 1 本目のリザルトの逆順でスタートする。他の選手は 1 本目のリザルト順にスタートする。(条項 2031.7 を参照のこと)

2106.3 ビデオ及びフィルムによる管理

国際 FIS カレンダーに記載されているレースはすべて、ビデオまたはフィルムによって管理することが望ましい。

2107 競技衣(ウェア)

回転競技のウェアは 2 ピースでなければならない。(パンツとセパレート上着)

フィットしたものやダウンヒルスーツは使用できない。

凹凸のないプロテクターやパッドは推奨される。

保護用具は体に装着していなければならない。紐や固定装置、または他の方法でウェアを締めてはならない。すね当てはこのルールから除外される。

- 2200 大回転**
- 2201 テクニカルデータ**
- 2201.1 標高差**
- 2201.1.1 すべてのレースについて、コースの標高差は 200m 以上 400m 以下とする。男女で同一のコースを使用することができる。
- 2201.2 全長**
- 2201.2.1 コース全長は計測テープまたはローラー計測器あるいは GPS で計測し、スタートリスト及びリザルトに記載しなければならない。
- 2201.3 全幅**
- コースの幅は、少なくとも 30m 以上でなくてはならない。1、2 本目とも同じ斜面にセットされる場合(男女にて)、コースの幅は少なくとも 40m 以上でなければならない。特別なケースとして、インスペクターあるいはジュリーがコースの短い距離であれば例外を認めることがある。
- 2201.4 旗門**
- 2201.4.1 大回転の旗門は、三角バナーで連結されたスタッビーボール(ターニングボール)1 本とフレックスボール(アウトサイドボール)1 本から構成される。(条項 2085 条、2089 条を参照のこと)
- 2201.4.2 連続する旗門は、色が交互に並ばなければならない。ただし、バナナゲートは、旗門とフラグの色を同じにする。
- 2201.4.3 連続する 2 つの旗門の最短距離にあるボール間の距離は 10m 以上でなければならない。旗門は、たとえ高速滑走中であっても、選手がはっきりとすばやく識別できるように配置しなければならない。旗門のバナーはレースラインに直角に取り付けるものとする。
- 2201.4.4 フォールラインと旗門の底辺が直角(90°)になるように三角フラッグを設置しなければならない。三角フラッグは旗門の底辺にあわせて取り付ける。
- 2201.5 旗門数**
- 大回転競技のコースは、次のように設営しなければならない：
ターニングゲート間の距離は、大回転の場合で 20~27m (バナナゲートを除く)とすることを推奨する。リザルトリストには、ターン数と旗門数を例えば 25(ターン)/30(旗門)といった形式で記録しなければならない。
- 2202 コース**
- 2202.1 コースの一般的特徴**
- 地形は、できればうねりがあり、丘陵的であることが望ましい。コース幅は 40m 以上とする。
コースを公認する権限があるインスペクターは、この最小幅が適切であるかどうかを判断し、必要があれば幅を広げるように命じることができる。インスペクターや技術代表が例外と判断した場合、コース幅は 40m 未満でも構わない。

- 2202.2 コース整備**
コースは、少なくとも競技開始 20 時間前には、一般の立ち入りを禁止する。コースは片側からもう一方の側までできるだけ平坦でなければならない。雪はできるだけ固く固めなければならない。人工的手段(塩、水等)の使用は認められている。危険な場所では、組織委員会が公認報告書あるいはジュリーからの要求にそった保護物(マットレス、パッド、ネット等の)を設置しなければならない。
- 2203 コースセッティング**
- 2203.1 セッティング**
大回転コースのセッティングでは、次の原則を遵守する：
- 2203.1.1 1 本目のコースは、競技の前日にセットするものとする。1 本目、2 本目とも同じコースにセットできるが、2 本目はセットし直さなければならない。
- 2203.1.2 大回転のコースセッティングでは、回転競技と比べて、前述のように旗門幅が広く、旗門間の距離が長いので、旋回はそれほど重要な要素にはならない。そこで、ほとんどの場合、回転競技の場合よりも地形を巧みに利用することが一層重要となる。そのため、地形を最大限に活用しながら、主として単独旗門を配置するほうがよい。旋回を設定することも可能だが主に地形的变化に乏しい部分にする。
- 2203.1.3 大回転では、様々なロングターンミディアムターン、ショートターンを見せるものとする。大回転のコースでは、選手が旗門間で自由にラインを選んで滑走できるようにする必要がある。旗門は斜面のフォールラインに沿って配置してはならない。できる限り、斜面の幅をフルに活用することが望ましい。グーフィー(右足前)またはレギュラー(左足前)どちらかに有利になることのないように、コースは左右対称にセットする。
- 2204 コースインスペクション**
- 2204.1 競技当日、コースはトレーニングが行われないうちに立入禁止とする。旗門は少なくともコースインスペクションが始まる 1 時間前には最終的にセットするものとする。選手は、最終セッティング終了後、ジュリーの指示によりコース横またはコース内をゆっくりと滑り下りる方法でコースを点検できる。ボードに乗って旗門を滑って通過したり、コース上で旗門が要求するラインに沿ってターンを練習したりといった行為は失格の対象となる。選手はスタートナンバーを携帯しなければならない。選手は、インスペクション中に旗門に触れる(握る)ことを禁じられている。1 回目の違反行為には制裁が与えられ、2 回目の違反行為には、当該種目における失格処分が科せられる。
- 2204.2 競技会場の近くに整備された練習用斜面を用意することは絶対不可欠である。
- 2205 スタート**
- 2205.1 スタートエリア**
すべての競技において、プッシュオフポストをスタート台に取り付けるものとする。スタート台の様子は各種目の必要性に合わせて調整する。

2205.2

スタート順

1 本目は、スタートナンバー順にスタートする。スタートナンバーはランキングリストまたは無作為のマニュアルドローの結果にしたがって交付される(条項 2031 及び 2032)。

2205.3

2 本目への出場制限

女子の場合は 1 本目の上位 15 選手、男子の場合は上位 25 選手が 2 本目の出場資格を得る。ただし、コンチネンタルカップ及びそれ以下のレベルの競技会では、時間的に余裕があれば、男子の場合は 45 名、女子の場合は 25 名の選手に対して、2 本目の滑走をジュリーが認める場合がある。この場合は、1 本目のスタートの 1 時間前に告知されるものとする。

男女とも上位 15 名が 1 本目のリザルトの逆順でスタートする。他の選手は 1 本目のリザルト順にスタートする。(条項 2031.7 を参照のこと)

2206

大回転競技の実施

(男女とも)大回転競技は常に 2 本のランによって、成績を定めるものとする。2 本目も同じ斜面で実施できるが、旗門は配置し直す必要がある。可能な限り、1、2 本目とも同日に実施する。

2206.1

ビデオ及びフィルムコントロール

国際 FIS カレンダーに記載されているすべてのレースは、ビデオまたはフィルムコントロールされることが望ましい。

2207

競技衣(ウェア)

大回転競技のウェアは 2 ピースでなければならない(パンツとセパレート上着)フィットしたものやダウンヒルスーツは使用できない。凹凸のないプロテクターやパッドは推奨される。

保護用具は体に装着していなければならない。紐や固定装置、または他の方法でウェアを締めてはならない。すね当てはこのルールから除外される。

2400 トリプルスラローム競技 (TSL)

2401 定義

TSL では、3名の選手が3つのコースを同時に並行して滑走する競技である。3つのコースのコースセッティング、コースの地形、雪の状態はできるだけ同一にする。

2402 テクニカルデータ

TSL のコース仕様については、条項 2502 パラレル競技を参照。

2402.1 テクニカルデータ トリプル-スラローム

コースの標高差は 80～120m、旗門数は 18 以上。推奨されている旗門数は約 25 旗門で、旗門の間隔(ターニングポールとターニングポール)は 10～14m である。コースの地表の全長は 250m 以上 450m 以下で、推奨の全長は 350m である。一般的に、コースの平均斜度は 17 度から 22 度で、全幅は 40m 以上である。

2402.3 旗門

2402.3.1 条項 2502.3.1 を参照

2402.3.2 条項 2502.3.3 を参照

2403 コースの選定及び整備

2403.1 3 つのコースを設営できる幅があつて、(あらゆる地点からコース全体が見渡せるように)できれば少しくぼんでいる斜面を選ぶ。斜面表面全体の地形の変化は同一でなければならない。3 つのコースのレイアウトは、外形や難度が同一でなければならない。

2403.2 3 コースとも同等な競技コンディションとなるように、回転競技のコース整備と同様、選択した斜面全幅に渡り、雪は一律に固くなければならない。

2403.3 競技を確実に円滑かつ迅速に進行できるように、コース沿いにリフトが必要である。

2403.4 コースは、全体をフェンスで囲まれていなければならない。コーチや選手及びサービスマン向けに用意されるエリアもフェンスで囲うことが望ましい。

2404 コース

- 2404.1 3つのコースを設営する場合、(上から見下ろした時に)左側にあるコースは赤いボールと赤い三角パナーを使用し、(上から見下ろした時に)真ん中にあるコースは青いボールと青い三角パナーを使用し、(上から見下ろした時に)右側にあるコースは黄色いボールと黄色い三角パナーを使用する。もし黄色いボールと黄色い三角パナーが用意できない場合、(上から見下ろした時に)右側にあるコースに赤いボールと赤い三角パナーを使用してもよい。
- 2404.2 両コースは、同じコースセッターがセットし、同一で平行になるようにする。コースセッターは、コースの流れを円滑にし、カーブ(非常にはっきりとしたカーブ)に多様性を持たせ、コースによってリズムに変化が出るようにしなければならない。この種目では、いかなる場合でも、スタートからフィニッシュまでが長い直線的なラインにならないようにしなければならない。ダブルコンビネーション及びトリプルコンビネーションの設置が認められている。推奨される旗門数は、おおよそ 23-30 旗門とする。
- 2404.4 最終旗門の次のフィニッシュラインのすぐ手前では、各選手をフィニッシュラインに誘導できるように、3つのコースを明確に分けなければならない。コースセッターは、選手がそれぞれのフィニッシュラインの中央に誘導されるように最終旗門を設置する。
- 2404.5 3つのコースの間隔
3つの相対する旗門の間隔(ターニングボールからターニングボールまでの間隔)は、均等に 8 - 10m とし、スタートゲートから最初の旗門(3コース全て)は、同じ距離でセットしなければならない。

2405 スタート

2405.1 スタート台

条項 2505.1 を参照

2405.2 スタートゲート

3つ同時にゲートが開かなければならず、選手が自分で開けられないようになっていなければならない。

2405.3 不正スタート

次の場合、失格となる。

-選手がスタートゲートを操作した場合

-選手のボード(もしくは体全体:ウェスタンスタイルゲート(上半身部分をブロックするタイプ)を使用する場合は体全体とみなす)が、スタート合図(聞き取れる および/または見える)が出る前に、スタートライン(垂直面)を通過した場合

2405.4 スタートゲートの不調

スタート合図が出る前に選手がゲートに触れていないにもかかわらず、1つまたは2つまたは3つのスタート装置が技術的不具合によって明らかに作動しなかった場合、スタートはやり直しとなる。

- 2405.5 スタート合図**
スターターは、「赤、用意は?(Red course ready?)」、「青、用意は?(Blue course ready?)」、「黄、用意は?(Yellow course ready?)」「注意(Attention)」と声を掛けることによって、両選手の準備が整っていることを確認してから「ゴー(Go)」または音声による合図を 1 回出す。
「選手用意、(Riders ready)」というかけ声は、(連続する短いビープ音に続いて、ひときわ音の大きいスタートビープ音が 1 回鳴ってゲートがオープンするといった)音声によるスタート合図の場合にのみ用いるものとする。
- 2406 フィニッシュ**
条項 2506 パラレルイベントを参照。
- 2407 コースセッティング**
条項 2507 パラレルイベントを参照。
- 2408 計時**
- 2408.1 予選**
独立した 3 系統の計時システムを用いて、各選手の滑走タイムを記録する。(条項 2020.2 と 2020.3 を参照のこと)
- 2408.2 決勝**
独立した 3 系統の承認され計時システムを用いて、各選手の滑走タイムを記録する。(条項 2020.2 と 2020.3 を参照のこと)
より高レベルの大会では、写真判定カメラを使用すること。
- 2409 トリプルスラローム競技の実施**
- 2409.1 予選**
- 2409.1.1 予選方法
コースは 3 本セットされる。これらのコースは決勝のコースと同じもしくは同様にセットする。
2本のランによる予選
予選のスタートは、すべての競技者は FIS ポイントまたは Cup standings ランキングに従って決められる。
赤コースは、ビブナンバー1,6,7,12,13,18,19,24,25,など
青コースは、ビブナンバー2,5,8,11,14,17,20,23,26,など
黄コースは、ビブナンバー3,4,9,10,15,16,21,22,27,など
各コース上位 5 名はランダムに決められる。各選手は同じコースを 2 回滑走して、2 回のうち良い方で順位が決定する。赤コースの男女上位 9 名、青コースの男女上位 9 名、黄色コースの男女上位 9 名(女性 27 名、男性 27 名)が決勝に進む。
- ランキング:**
選手は、予選 2 本のうち良い方のタイムで順位が決定する。1 位から 3 位は、異なるコースの全ての第 1 位から決まり、第 1 予選 1 位の選手が 1 位、予選 2 位の選手が 2 位、予選 3 位の選手が 3 位となる。4 位から 6 位は、異なるコースの全ての第 2 位から決まり、1 位の決め方に沿って順位が決まる。7 位以降は、上記同様にて決まる。

ベストタイムが同位の場合、予選タイムの2番目に良いタイムが速い方が先になる。それでも同位ならば、最新のカップスタンディングス(ワールドカップもしくはコンチネンタルカップポイント)又は FIS ランキング (FIS ポイント)のどちらか高い方が適用される。これは世界選手権とオリンピック冬季大会にも有効である。FIS レベル、ジュニア世界選手権及びユースオリンピック冬季大会では FIS ランキングのみがカウントされる。それでも同位の場合、同順位となるがピブ番号が大きい方が上位となる。9 位が同位の場合は除く。(条項 2509.1.2.3 を参照)

2409.1.2

9 位のタイブレイク方法

一つのコースで9位で同位があった場合、同位の選手は各々のコースでもう1本滑走する。(両方とも同じコースにて)このランは予選終了後、直ちに実施される。スタート順はドローで決定する。

2409.2

決勝

2409.2.1

決勝の組合せ

予選の結果を使用して、次のように各性別 9 組のペアを作る。

1.Round	
1	Place 1 - place 18 - place 27
2	Place 2 - place 17 - place 26
3	Place 3 - place 16 - place 25
4	Place 4 - place 15 - place 24
5	Place 5 - place 14 - place 23
6	Place 6 - place 13 - place 22
7	Place 7 - place 12 - place 21
8	Place 8 - place 11 - place 20
9	Place 9 - place 10 - place 19

2.Round	
10	Winner 1 - Second 2 - Second 3
11	Winner 2 - Second 1 - Second 4
12	Winner 3 - Second 5 - Second 6
13	Winner 4 - Winner 9 - Second 7
14	Winner 5 - Winner 8 - Second 9
15	Winner 6 - Winner 7 - Second 8

3.Round	
16	Second 10 - Second 13 - Second 15
17	Second 11 - Second 12 - Second 14

4.Round	
18	Winner 10 - Winner 15 - Second place 16/17 best time in round 3
19	Winner 11 - Winner 14 - Winner 17
20	Winner 12 - Winner 13 - Winner 16

5.Round Finals	
21 for place 7 - 9	Third 18 - Third 19 - Third 20
22 for place 4 - 6	Second 18 - Second 19 - Second 20
23 for place 1 - 3	Winner 18 - Winner 19 - Winner 20

2409.2.2

スタート順

各ペアにおいて、リストで上位の選手またはそれぞれのペアリングの上位の選手が1本目で赤コースを滑走する。リストの2番目の選手が青コースを滑走する。その後の連続したグループは、ラダー表の上から下に順番に行われる。

2409.2.3

トリプルスラローム決勝は次から成り立つ

-1回戦 27名

-2回戦 18名

-3回戦 6名

-4回戦 9名

-5回戦 9名

2409.2.3.1

1回戦

1回戦の勝者と2位が2回戦へ進出する

2409.2.3.2

2回戦

2回戦の勝者が4回戦へ進出、2位は3回戦へ進出する。

2409.2.3.3

3回戦

3回戦の勝者と2位が4回戦へ進出する

2409.2.3.4

4回戦

4回戦の勝者が決勝(ビッグファイナル:1-3位)へ、2位が順位決定戦(スモールファイナル:4-6位)へ、3位がPlacing final(7-9位決定戦)へ進出する。

2409.2.3.5

5回戦 決勝

決勝者の勝者が1位、2位が2位、3位が3位となる。

スモールファイナルの勝者が4位、2位が5位、3位が6位となる。

Placing finalの勝者の勝者が7位、2位が8位、3位が9位となる。

2409.2.4

10-27位は予選ランキングによって決定される。2位は3位よりも上にランク付けされる。それぞれのグループのランキングに予選のタイムが反映される。例:2回戦で3位となった全ての選手は、2回戦のタイムによって13位から18位にランク付けされる。

- 2409.2.5 決勝における棄権(DNS)
決勝で棄権した場合、当該選手は自動的に各回(ラウンド)の最下位となる。棄権した選手が2名以上いた場合は、各選手の予選タイムまたはスタートした最終ラウンドのタイムに応じて、順位が決定する。(棄権した選手が3名以上いる場合も同様)
- 2409.3 コースインスペクション**
- 2409.3.1 選手は、スタートからフィニッシュまでコース脇を滑り降りる方法で、最低10分間3つのコース(予選と決勝)のインスペクションを1回だけ実施できる。インスペクションの方法はジェリーが決める。
- 2410 レースのコントロール**
条項 2510 パラレル種目を参照
- 2411 失格/制裁**
- 2411.1 失格の理由は次の通り**
-不正スタート(条項 2505.3を参照)
-意図的であろうとなかろうと、決勝で対戦相手を妨害すること
-旗門の不正通過
-旗門の外側でターンをしなかった場合
-フィニッシュ時に少なくとも片足がボードに固定されていない場合
- 2411.2 予選で相手の選手を妨害した場合(相手の選手は再走することができる)
相手を妨害した選手の滑走は最後とみなされる。
- 2411.2.1 決勝で妨害された場合、再走はない。2名が妨害された場合、その2名で再走する。
- 2411.2.2 2名とも完走できなかった場合、通過旗門数が多い方がこの回の2位にランクされる。もし3名とも完走できなかった場合、新たにやり直しとなる。旗門不通過の場合は、コースに戻ることはできない。
- 2412 最終順位**
選手は各ラウンドのタイムと順位によって1位から27位までの順位が決まる。他の選手は予選のタイムによって順位が決まる。最終順位にタイブレイクはない。同位の場合は、同順位、同ポイントがつけられ、ピブ番号が大きい方が先の順にとなる。
- 2413 競技衣(ウェア)**
トリプルスラローム競技のウェアは2ピースでなければならない---パンツ、セパレート上着。フィットしたものやダウンヒルスーツは使用できない。凹凸のないプロテクターやパッドは推奨される。保護用具は体に装着していなければならない。紐や固定装置、または他の方法でウェアを締めてはならない。すね当てはこのルールから除外される。

2500 パラレル競技

2501 定義

パラレル競技では、2名の選手が2つのコースを同時に並行して滑走する競技である。2つのコースのコースセッティング、コースの地形、雪の状態はできるだけ同一にする。

2502 テクニカルデータ

2502.1 パラレル回転 (PSL)

コースの標高差は 80～120m、旗門数は 18 以上。推奨されている旗門数は約 25 旗門で、旗門の間隔(ターニングポールとターニングポール)は 10～14m である。コースの地表の全長は 250m 以上 450m 以下で、推奨の全長は 350m である。一般的に、パラレル回転のコースの平均斜度は 16 (±2)度で、全幅は 30m 以上である。コースの長さで標高差は比例していなければならない。

2502.2 パラレル大回転 (PGS):

コースの標高差は 120～200m、旗門数は 18 以上。推奨されている旗門数は約 25 旗門で、旗門の間隔(ターニングポールとターニングポール)は 20～27m である。コースの地表の全長は 400m 以上 700m 以下で、推奨の全長は 550m である。一般的に、パラレル大回転コースの平均斜度は 16 (±2)度で、全幅は 40m 以上である。コースの長さで標高差は比例していなければならない。

2502.3 旗門

2502.3.1 パラレル回転/パラレル大回転の旗門は、三角バナーで連結されたスタッピーポール(ターニングポール)1 本とフレックスポール(アウトサイドポール)1 本から構成される。(条項 2085 条、2089 条を参照のこと)

2502.3.2 同じターン方向の連続する 2 つの旗門(“バナナゲート”)の最短距離にあるポール間の距離は5m 以上で、旗門とフラッグの色を同一にしなければならない。旗門は、たとえ高速滑走中であっても、選手がはっきりとすばやく識別できるように配置しなければならない。旗門のバナーはレースラインに直角に取り付けるものとする。

2502.3.3 フォールラインと旗門の底辺が直角(90°)になるように三角フラッグを設置しなければならない。三角フラッグは旗門の底辺にあわせて取り付ける。

コード	パラレル競技基準	基準値
CL (m)	コース長 (標高差に比例)	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	400,0 m - 700,0 m
	PSL パラレルスラローム	250,0 m - 450,0 m
VD (m)	標高差 (コース長に比例)	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	120,0 m - 200,0 m
	PSL パラレルスラローム	80,0 m - 120,0 m
CA (°)	コース斜度 (平均)	16,0° (+/- 2,0°)
	コース長と標高差はお互いに比例すべき 例えば、長いコースは標高差が大きく、短いコースは小さい	
SW (m)	コース幅	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	最小 40,0 m
	PSL パラレルスラローム	最小 30,0 m
	前方へのジャンプは可能 Exceptions are possible for in-city and ramp competitions	
スタート基準		
SA (m)	スタートエリア	長さ 10,0 m
		幅 30,0 m
SP (m)	スタートプラットフォーム	最小長さ 6,0 m
	幅: スタートゲートによる 加速できる傾斜	幅 12,0 m (+/- 4,0 m)
SD (m)	スタートゲート間の距離	最小 6,0 m
	推奨: コースセットの幅	
コースセット		
CD	コース間の距離	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	9,0 m - 12,0 m
	PSL パラレルスラローム	8,0 m - 10,0 m
GD	ゲート間の距離	
	PGS パラレルジャイアントスラローム	20,0 m - 27,0 m
	PSL パラレルスラローム	10,0 m - 14,0 m
フィニッシュ基準		
FL (m)	フィニッシュライン (コース幅)	最小 8,0 m
FA (m)	フィニッシュエリア長	60,0 m (平地)
FW (m)	フィニッシュエリア幅	最小 30,0 m
競技レベル		
Level A	OWG, WSC, WJC, WC, YOG	
Level B	COC, UVS	
Level C	NC, FIS, EYOF, JUN	

2503 コースの選定及び整備

- 2503.1 2つ以上のコースを設営できる幅があって、(あらゆる地点からコース全体が見渡せるように)できれば少しくぼんでいる斜面を選ぶ。斜面表面全体の地形の変化は同一でなければならない。2つのコースのレイアウトは、プロフィールと難度が同一でなければならない。
- 2503.2 両コースとも同等な競技コンディションとなるように、回転競技のコース整備と同様、選択した斜面全幅に渡り、雪は一律に固くなければならない。
- 2503.3 競技を確実に円滑かつ迅速に進行できるように、コース沿いにリフトが必要である。
- 2503.4 コースは、全体をフェンスで囲む。コーチや選手及びサービスマン向けに用意されるエリアもフェンスで囲うことが望ましい。

2504 コース

- 2504.1 2つのコースを設営する場合、(上から見下ろした時に)左側にあるコースは赤いポールと赤い三角バナーを使用し、(上から見下ろした時に)右側にあるコースは青いポールと青い三角バナーを使用する。
- 2504.2 両コースは、同じコースセッターがセットし、同一で平行になるようにする。コースセッターは、コースの流れを円滑にし、カーブ(非常にはっきりとしたカーブ)に多様性を持たせ、コースによってリズムに変化が出るようにしなければならない。この種目では、いかなる場合でも、スタートからフィニッシュまでが長い直線的なラインにならないようにしなければならない。
ダブルコンビネーション及びトリプルコンビネーションの設置が認められている。推奨される旗門数は、パラレル回転にておおよそ 23-30 旗門、パラレル大回転にておおよそ 18-25 旗門とする。
- 2504.3 最終旗門の次のフィニッシュラインのすぐ手前では、各選手をフィニッシュラインに誘導できるように、2つのコースを明確に分けなければならない。コースセッターは、選手がそれぞれのフィニッシュラインの中央に誘導されるように最終旗門を設置する。
- 2504.4 2つのコースの間隔
2つの相対する旗門の間隔(ターニングポールからターニングポールまでの間隔)は、
パラレル回転 8 - 10m
パラレル大回転 9 - 12m
スタートゲートから最初の旗門(赤と青コース)は、同じ距離でセットしなければならない。

2505 スタート

2505.1 スタート台

スタート台は、選手がスタートラインにゆったりと立つことができ、スタート後直ちにフルスピードに達することができるように準備しなければならない。
すべての競技において、プッシュオフポストをスタート台に取り付けるものとする。スタート台の仕様は各種目の必要性に合わせて調整する。

- 2505.2 スタートゲート**
2つの異なるスタートゲートによる2種類のスタートの手順は次の通りである
- 同時スタート
同時にゲートが開き、選手が自分で開けられないようになっていなければならない。
- 遅延スタート(ディレイゲート)
1 本目は同時にゲートが開かなければならない。2 本目は、1 本目のタイム差でゲートが開く。選手が自分で開けられないようになっていなければならない。
- 2505.3 不正スタート**
次の場合、失格となる。
-選手がスタートゲートを操作した場合
-選手のボード(もしくは体全体:ウエスタンススタイルゲート(上半身部分をブロックするタイプ)を使用する場合は体全体とみなす)が、スタート合図(聞き取れる および/または見える)が出る前に、スタートラインを通過した場合
- 2505.4 スタートゲートの不調**
スタート合図が出る前に選手がゲートに触れていないにもかかわらず、一方または両方のスタート装置が技術的不具合によって明らかに作動しなかった場合、スタートはやり直しとなる。
- 2505.5 スタート合図**
スターターは、「赤、用意は?(Red course ready?)」、「青、用意は?(Blue course ready?)」、「黄、用意は?(Yellow course ready?)」、「注意(Attention)」と声を掛けることによって、両選手の準備が整っていることを確認してから「ゴー(Go)」または音声による合図を 1 回出す。
「選手用意、(Riders ready)」というかけ声は、(連続する短いビープ音に続いて、ひとときわ音の大きいスタートビープ音が 1 回鳴ってゲートがオープンするといった)音声によるスタート合図の場合にのみ用いるものとする。
- 2506 フィニッシュ**
- 2506.1 フィニッシュエリアは、左右対称でなければならない。フィニッシュラインはスタートラインと平行でなければならない。(条項 2025 条を参照のこと)
- 2506.2 各フィニッシュラインは、2 または 3 つの縦長のバナーか膨張式のもので構成され、各々の幅は 8m 以上とする。フィニッシュラインは、幅が約 1m 以下の柱か縦長のバナーか膨張式のもので区切られる。
- 2506.3 フィニッシュへのアプローチと出口は、目で見てはっきり区別できるように設置しなければならない。
- 2507 コースセッティング**
- 2507.1 コースセッター
(FIS が選任していない場合)コースセッターは、競技ジュリーが指名する。コースセッターはコースセッティングを始める前に、ジュリー及びコース責任者(競技委員長及びコース係長)の立会いのもとでインスペクションを行い、コースを点検しなければならない。
- 2507.2 セッティング
-極度に急激で鋭い減速を選手に強いる旗門は、現代の回転競技に備わっているはずの難度を高めるものではなく、ただ滑走の滑らかさを損なうだけのものなので、配置してはならない。

- 難度の高い旗門コンビネーションの前には、選手がそのコンビネーションを上手く制御して通過できるようにするための旗門を1つ以上配置することが望ましい。
- スタート直後またはコースの終わりに難易度の高いターンを設定するのは望ましくない。選手がスピードによってフィニッシュを通過できるように、最終旗門はむしろスピードある滑走に適したものとす。
- 選手や計時担当者への危険を避けるため、最終旗門はフィニッシュに近すぎないようにする。最終旗門は、選手をフィニッシュラインの中央に誘導するように配置しなければならない。
- コースセッターがセッティングの進行を監督できるように、回転ボールは配置され次第、コース係長またはそのアシスタントが雪中にねじこむか、打ち込むこととする。

2507.3

コースのチェック

- コースセッターがコースセッティングを完了し次第、ジュリーは次の事項に特別の注意を払いながら、コースがレースのできる状態にあることを確認する。
- 回転ボールはしっかりと雪中に打ち込まれている。
 - 旗門の色は正しい順番で並んでいる。
 - ボールの位置はマークされている。
 - 旗門番号は、アウトサイドポールに正しい順番で付けられている。
 - ボールの雪上からの高さは十分である。
 - フラッグが正しく装着されている。
 - 安全フェンスやその他の安全設備は適切に設置されている。
 - フィニッシュ前の最終旗門は、選手をフィニッシュ中央に誘導するようになっている。
 - 予備ボールは、選手が間違えないように正しく配置されている。
 - エリミネーションラウンド後、再セッティングの決定をする前に、ジュリーとコースセッターは、(2つのコース間の)タイム差とコースセッティングを考慮すべきである。(2014.6 改正)

2508

計時とデータ

主催者は、次の利用ができるように計時とデータを提供しなければならない: 既存の FIS リストと COC Standing リストを使い、選手のベストポイントを見つけ出したり、スタートリストおよび予選と予選2本目の結果、CoC ポイントおよび FIS ポイントを含む最終的な結果の計算が必ずできること。

2508.1

予選

独立した 2 系統の計時システムを用いて、各選手の滑走タイムを記録する。(条項 2020.2 と 2020.3 を参照のこと)

2508.2

決勝

同時スタートであるため、独立した 2 系統の計時システムを用いて、2 名の選手のフィニッシュにおけるタイム差だけを記録する。先着の選手がシステムのシグナルを最初に切った時点で時計がスタートし、この先着選手の記録はタイム「ゼロ」となる。続く選手がシグナルを切った時点で時計は止められ、後続選手の記録として、先着選手とのタイム差が 1/100 秒単位で計測される。

2509 パラレル競技の実施

2509.1 予選

2509.1.1 予選用のコース

2509.1.1.1 1本での予選コース

予選用のコースは別途セッティングする必要がある。予選用のコースは、旗門数、フォールライン、斜度などがパラレル競技コースに類似していなければならない。選手は全員予選として1本を滑り、男女とも上位16名が決勝に進出する。予選出場者が50名未満の場合は、上位8名だけが決勝に進出する(条項2523)。FISとCoCレベルの競技会においては、予選2本目の滑走が可能である。(その場合は2本合計タイムとなる)

2509.1.1.2 2本での予選コース

予選用のコースは別途セッティングする。(一つのコースは女子、もう一つは男子と別にする。選手の人数に応じてジュリーは1つのみのコースの利用を決めることができる)どちらも同日にいつでも行うことができる。予選用のコースは、旗門数、フォールライン、斜度などがパラレル競技コースに類似していなければならない。選手は全員予選として1本を滑り、男女とも上位8名が決勝に進出する。9位から24位までの女子と9位から32位までの男子は同じコースの予選2本目を滑る。(9位の選手が最初で24/32位の選手が最後となる)。そして再び男女とも上位8名(2本目のタイムのみの結果)が決勝に進出する。

2509.1.1.3 予選でのタイブ레이크

8位(予選1本目にて)または16位(予選2本目にて)で同位があった場合、同位の選手は予選コースでもう1本滑走する。このランは予選終了後、直ちに実施される。スタート順はドローで決定する。

2509.1.1.4

決勝トーナメントに出場できる選手の数は、予選出場選手の人数によって決まる。

-予選出場選手が50名以上の場合、16名が決勝トーナメントに出場する。

-予選出場選手が50名未満の場合、8名が決勝トーナメントに出場する。

-男子女子ともに、予選出場選手が50名未満の場合、時間的余裕があれば、16名の決勝出場をジュリーが認めることもある。この場合は、予選の始まる1時間前に告知されるものとする。

2509.1.2 パラレルでの予選

2509.1.2.1 パラレルによる予選方法

コースはパラレルにセットされる。これらのコースは決勝のコースと同じもしくは同様にセットする。同日に開催されるときには必ず2本滑走すること。

予選1本目:

予選のスタートは、すべての競技者はFISポイントランキング(上位16人の無作為ドローを除く)に従って決められる。

予選 1 本目は、奇数(1,3,5,…)が赤コース、偶数(2,4,6,…)が青コースを滑走する。赤コースの男女それぞれ 16 名と青コースの男女それぞれ 16 名(女子 32 名と男子 32 名)がエリミネーション(予選 2 本目)へ進む。

エリミネーション(予選 2 本目-女子 32 名と男子 32 名):

コースの入れ替え:予選 1 本目の赤コースの男女上位 16 名が青コースを滑り、予選 1 本目の青コースの男女上位 16 名が赤コースを滑る。予選 1 本目とエリミネーション(予選 2 本目)の合計タイムの男女各上位 16 名が決勝へ進出する。

スタートは予選 1 本目の順位の逆から行う。16 位が 1 番目、15 位…1 位の順番となる。

予選 1 本目で 16 位の同位となったすべての選手達は、予選 2 本目に進むことができる。

2509.1.2.2 予選のタイブ레이크

予選 2 本の合計タイムで 2 人以上の選手がタイとなった場合、2 本の予選のうち良い方で勝者を選ぶ。もしそれでもタイの場合は、最新のカップスタンディングス(ワールドカップもしくはコンチネンタルカップポイント)又は FIS ランキング(FIS ポイント)のどちらか高い方で選ぶ。

これは世界選手権とオリンピック冬季大会にも有効である。FIS レベル、ジュニア世界選手権及びユースオリンピック冬季大会では FIS ランキングのみがカウントされる。

もしそれでもタイの場合は、ピブ番号の大きい選手が勝者となる。16 位にて同順位となった場合は除く。(条項 2509.1.2.3 を参照のこと)(16 位の例外は、オリンピック冬季競技大会の場合、有効でない。)

2509.1.2.3 16 位のタイブ레이크

16 でタイとなった場合は、当該選手は赤コースにてもう 1 本の滑走をする。このランは予選終了後、直ちに実施される。スタート順はスタートにドローされる。(条項 2509.1.2.3 は、オリンピック冬季競技大会の場合、有効でない。)

2509.1.2.4 順位

予選と予選 2 本目に進んだ選手は、2 本の合計タイムにて順位が決まる。

その他の選手は、予選 1 本目の結果によって順位が決まる。勝ち進めなかった(予選 2 本目あるいは決勝に進めなかった)タイの選手は、最終リザルトおよび部分的なリザルトには、同位に掲載される。

2509.2 パラレル決勝

- 2509.2.1.1 パラレルの決勝の組み合わせー2本形式
予選の結果を利用して、次のように8組のペアを作る。

グループ	女子 and 男子
	1 位-16 位
	8 位- 9 位
	5 位-12 位
	4 位-13 位
	3 位-14 位
	6 位-11 位
	7 位-10 位
	2 位-15 位

- 2509.2.1.2 パラレルの決勝の組み合わせー1本形式
予選の結果/シーティングを利用して、次のように8組のペアを作る。

グループ	女子 and 男子
	4 位-13 位
	5 位-12 位
	8 位- 9 位
	1 位-16 位
	2 位-15 位
	7 位-10 位
	6 位-11 位
	3 位-14 位

- 2509.2.2 スタート順
各ペアにおいて、リストで上位の選手またはそれぞれのペアリングの上位の選手が1本目で赤コースを滑走する。その後の連続したグループは、ラダー表の上から下に順番に行われる。2本目は、コースを入れ替えて行う。パラレルの決勝のすべての滑走は、このシステムにて行われる。

- 2509.2.3 パラレルの決勝は次から成り立つ：
- 1/8 ファイナル
- 1/4 ファイナル
- 1/2 ファイナル (準決勝)
- 決勝 (ビックファイナル)

- 2509.2.3.1 1/8 ファイナル
1/8 ファイナルの勝者が1/4 ファイナルへ進出する。

- 2509.2.3.2 1/4 ファイナル
1/4 ファイナルの勝者が1/2 ファイナルへ進出する。

- 2509.2.3.3 1/2 ファイナル
1/2 ファイナルの勝者が決勝(ビックファイナル)へ、敗者が順位決定戦(スモールファイナル)へ進出する。
- 2509.2.3.4 順位決定戦(スモールファイナル)と決勝(ビックファイナル)
決勝(ビックファイナル)の勝者が1位となり、敗者が2位となる。
順位決定戦(スモールファイナル)の勝者が3位となり、敗者が4位となる。
- 2509.2.3.5 パラレル選出システム(2509.1.2)が予選で使用される場合、男子8名、女子4名のみの決勝を行ってもよい。その場合、その前の TC ミーティングでジュリーはこのことを告知しなければならない。
- 2509.2.4 5~8位、及び9~16位は、予選のタイムにより決定する。ある順位グループにランクされた選手は、たとえ下位の順位グループにランクされた選手の予選タイムより遅くてもそのグループに残る(いったん上位8位になった選手がタイムによって上位8位から外されることはない)。
- 2509.2.6 パラレル決勝 2本形式
2人組の選手は各組とも2本滑る。2本目で選手はコースを交換する。
フィニッシュライン時点での、2名の選手の時間差が記録される。2本目の後、2本の時間差が合計される。2本の時間差が小さい選手が次のラウンドに進む。各ランの最大の時間差が、計算されたペナルティタイムであり、1.5秒以下である。
2本の時間差が同じ場合、2本目の勝者が次のラウンドに進む。(ディレドスタートゲートが使われ、2名の選手が2本目のフィニッシュラインを同時に切った場合、1本目に負けた選手が勝者となる。)
- 1本目で完走しないか、失格になった選手は2本目で4%(1.5秒以内)のペナルティを課せられたスタートとなる(条項 2512 参照)。
両選手が2本ともタイの場合、予選タイムの速い選手が次のラウンドに進む。予選タイム(予選1本目と予選2本目の合計)が同じ場合、2本のうちの良い方で決める。なお、タイの場合、最新のカップスタンディングス(ワールドカップもしくはコンチネンタルカップポイント)又は FIS ランキング(FIS ポイント)のどちらか高い方で選ぶ。これは世界選手権とオリンピック冬季大会にも有効である。FIS レベル、ジュニア世界選手権及びユースオリンピック冬季大会では FIS ランキングのみがカウントされる。
- 1本目をスタートしない選手(DNS)は、ペナルティ・タイムを課せられる。両選手とも1本目でスタートしない場合、2本目で勝った選手が自動的に次へ進む。両選手とも2本目でスタートしない場合、1本目で勝った選手が自動的に次へ進む。更に、一組の中で片方の選手が DNS でもう片方の選手が DSQ の場合、これが1本目ならスタートしなかった方の選手がペナルティ・タイムを課せられ、2本目なら(DSQ をしたが)スタートした方の選手が次へ進む。

2509.2.7

パラレル決勝 1 本形式

条項 2509.2.1 を参照して、8 組のペアを作る。

選手の各ペアは 1 本のみのランで行われる。

a) 合計の予選タイムを用いる予選

各ヒートにて予選タイム(予選のランとエリミネーションのランの合計タイム)の速い選手がコース(赤か青)を選ぶことができる。競技者が同じ旗門で失格になった場合、または同タイムにて引き分けた場合は、予選タイムの速い選手が次のラウンドへ進出する。

両選手が同じ予選タイムの場合、2 本の予選のランのベストが優れている方が勝ち進む。それでもなお、タイの場合、ビブ番号の大きい方が次のラウンドへ進出する。

(ディレイゲートが使用される場合、2 本目(ファイナル)のフィニッシュラインを 2 人の選手が同時に切った場合、1 本目で負けた方の選手が 2 本目では早く勝ちとなる。)

b) 予選のランの”best of two”を用いる予選

各ヒートにて、予選タイムの良い選手がコース(赤か青)を選ぶことができる。競技者が同じ旗門で失格になった場合、または同タイムにて引き分けた場合は、予選タイムが一番早かった選手が次のラウンドに進出する。それでもなお、同位の場合、ビブ番号の大きい方が次のラウンドへ進出する。

(ディレイゲートが使用される場合、2 本目(ファイナル)のフィニッシュラインを 2 人の選手が同時に切った場合、1 本目で負けた方の選手が 2 本目では早く勝ちとなる。)

c) 1 本形式のオプション

セミファイナルフェーズから、またはスモールファイナル(3 位-4 位決定戦)とビッグファイナル(決勝)では、勝ち進む選手を決めるため、再走を実施することができる。

競技の開始前に、形式が発表されなければならない。

2509.2.8

パラレルの決勝における棄権(DNS)

上位 16 名による決勝または上位 8 名による決勝で棄権した場合、当該選手は自動的に 16 位(上位 16 名による決勝の場合)または 8 位(上位 8 名による決勝の場合)となる。棄権した選手が 2 名以上いた場合は、各選手の予選タイムに応じて、15 位、16 位、(7 位、8 位)というように順位が決定する。(棄権した選手が 3 名以上いる場合は、同様に 14 位、15 位、16 位(6 位、7 位、8 位)となる)。

もし、順位決定戦(スモールファイナル)と決勝(ビッグファイナル)の 1 本目において棄権した場合、対戦選手は 1 度だけスタートしなければならない。

2909.2.9

パラレルレース形式

無作為にドローされた上位 16 名以外のすべての選手は、ワールドカップ/ヨーロッパカップ/FIS ポイントランキングのうちいずれか高い方に従ってソートされる。各々の選手は、1 本目、赤コースの奇数番号(1, 3, 5, …)、青コースの偶数番号(2, 4, 6, …)、2 本目は赤・青コースチェンジを行い計測する。

最終リザルトは 2 本のランのタイムが合計される。

2509.3 コースインスペクション

2509.3.1 選手は、スタートからフィニッシュまでコース脇を滑り降りる方法で、最低 10 分間のパラレルコース(予選と決勝)のインスペクションを 1 回だけ実施できる。選手は、インスペクション中に旗門に触れる(握る)ことを禁じられている。1 回目の違反行為には警告が与えられるが、2 回目の違反行為には、当該種目における失格処分が科せられる。

2510 レースのコントロール

旗門審判員は、両コースの外側に配置される。各旗門審判員には、担当するコースの色に応じた色(青か赤)のフラグが渡される。このフラグは自分の担当セクションで発生した失格を直ちにジュリーに知らせる目的で使用される。コースの中間あたりには、黄色いフラグを持った競技役員 1 名(ジャッジ)が待機し、旗門審判員が判断した制裁や失格を直ちに判定し、失格が発生したとされる方向に向かって黄色いフラグを挙げる。黄色いフラグが挙げられた時点で選手の失格が確定する。

2511 失格/制裁

2511.1 失格の理由は次の通り

- 不正スタート(条項 2505.3)
- 意図的であろうとなかろうと、対戦相手を妨害すること。予選、予選 2 本目にて妨害を受けた選手は、再走をすることができる。
- 旗門の不正通過
- 旗門の外側でターンをしなかった場合
- フィニッシュ時に少なくとも片足がボードに固定されていない場合

2511.2 1 本目の滑走で失格、またはフィニッシュできなかった選手は、ペナルティータイムを課せられ 2 本目をスタートする。

2511.2.1 2 本目で失格、または途中棄権した選手は敗退する。

2511.2.2 両選手とも完走できなかった場合、通過旗門数が多い方が、
- 1 本目の場合は、1 本目の勝者となり、
- 2 本目の場合は、次のラウンドに進む資格を得る。

2512 ペナルティ・タイム

ペナルティ・タイムは女子と男子の予選の最も速いタイムを元に計算される。パラレル形式の決勝では、タイムの 4%、ただし最大で 1.5 秒のペナルティが適用される。どんな場合も各組の 1 本目のタイム差はペナルティ・タイムを上限とする。すなわち、実際のタイム差が 3 秒、ペナルティ・タイムが 1.3 秒の場合、1 ラウンド目の敗者に 1.3 秒のハンディキャップをつけて 2 本目スタートとなる。

2 本目終了後、両選手ともそれぞれペナルティ・タイムによりタイとなった場合、2 本目で勝った選手が次のラウンドに進む。

両選手とも 2 本目で同じ旗門で失格となった場合、1 本目で勝った方の選手が次のラウンドに進む。

- 2513 競技衣(ウェア)**
パラレル種目のウェアは、上着とパンツに分かれた2ピースでなければならない。フィットしたものやダウンヒルスーツは使用できない。凹凸のないプロテクターやパッドは推奨される。保護用具は体に装着していなければならない。紐や固定装置、または他の方法でウェアを締めてはならない。すね当てはこのルールから除外される。
- 2514 パラレルチーム競技**
- 2515 テクニカルデータ**
正規のパラレル大会では、標高差や全長/斜度は同じルールが適用される(条項 2502.1-2502.2を参照)
- 2516 コース**
正規のパラレル大会と同じようにコースとコース整備については、同じルールが適用される(条項 2502-2503を参照)
- 2517 コースセッティング**
正規のパラレル大会と同じようにコースセッティングについては、同じルールが適用される(条項 2504を参照)
- 2518 インスペクション**
正規のパラレル大会と同じようにコースインスペクションについては、同じルールが適用される(条項 2509.3を参照)
- 2519 パラレルチーム競技の実施**
- 2519.1 予選
参加国チームを決定する際に、ワールドカップまたは COC カップのスタンディングリストまたは FIS ポイントリストいずれかの最も新しいものが使用される。どんな場合でも男子 60名、女子 40/60名(16/32のチームフォーマットによる)が選ばれる。リストは国ごとに、そして各国の上位から下位にて分類される。すべての国のペア毎(例えばワールドカップに使用される男女混合ペアのオプション)の上位から下位のポイントが合算される。国チームはそのポイントによってランクされ、初めに、チームは各国で一番高いランクのチームが選ばれ、次にリストの上から2番目のランクのチームを選ぶというように、16/32チームが決まるまで、必要があれば繰り返し行う。
開催国は、各性別追加の1枠をもらい、最大で3/4(16/32 チームでの決勝において)チームまでになる。(選手は、条項 2519.2に基づき、有資格者でなければならない。)開催国がその枠を使用する場合、リストの最後のチームが減らされ、16/32 番目の枠は、開催国になる。

- 2519.2 シード
チームは一般的なワールドカップパラレルのポイントによってランク付けされる。
- 2519.3 チームフィールド
過去のチームの予選でシードが決定され、各国はどの選手(*)でも選ぶことができる。しかし、各選手 1 つのチームでしか競技できない。競技にあたってシードミーティングで各チームどの選手を入れるか公表しなければならない。どの選手が 1 及び 2 番目に滑走するか各国で決める。一般的なパラレル大会と同様、コースは各国で決める。*WC では少なくとも、男子は WC 又は FIS ポイントのスタンディングリストのどちらか高い方上位 60 名、女子は 40 名必要。さらに、全ての選手は、通常のパラレルの国枠と同様にエントリーしなければならない。
- 2519.4 競技
パラレルチーム戦では、各チームの第 1 走者は、前足の膝下～足首の上に送受信機を装着するか、光電技術により適切にしんこうされる。第 1 走者は、従来のパラレルのスタート音で両ゲートが同時に開いてスタートする。選手がスタートゲートを出るとすぐにゲートを閉めて次の選手が整列する。第 1 走者がフィニッシュラインを通過した時シグナルがあり、チームごと個々にスタートゲートが開く。第 2 走者が先にフィニッシュラインを通過したチームが次のラウンドに進出する。
- 2519.5 ゲート役員
一般的なパラレル大会と同様にゲートジャッジのルールが適用される。(条項 2071 を参照)
- 2519.6 競技ウェア
一般的なパラレル大会と同様に競技ウェアのルールが適用される。(条項 2513 を参照)
- 2519.7 ペナルティータイム**
ペナルティータイムが適用される場合、ペナルティータイムは男女両方の予選ベストタイムの平均を用いて計算される。パラレルの決勝では最大 2.5 秒を超えない予選タイムの 6% のペナルティータイムが適用される。最大ペナルティータイムは、個々の競技会においてジュリーにより確認される。
例外として、ペナルティータイムは、それが魅力的なレース決定と認められた場合、それぞれの決勝フェーズ(クォーターファイナル、セミファイナルなど)でジュリーにより調整することが可能であり、これは次のフェーズのスタート前までに伝達される。
すべての場合において、各ペアの 2 本目のタイム差がペナルティータイムよりも高くなることはない。すなわち、実際のタイム差が 5 秒でペナルティータイムが 1.9 秒であった場合、第 2 走者は負けた第 1 走者のため 1.9 秒のハンディキャップでスタートする。両者が 2 本目で同じ旗門で失格となった場合は、1 本目で勝利したチームが次のラウンドへ進む。

2520

スタート

一般的なパラレル大会と同様にスタートランプ、スタートゲート、スタートレーンのルールが適用される(条項 2707.1-2707.2 を参照)。スタート合図、不正スタートやスタートゲートの不具合の場合も同様。(条項 2707.4-2707.5 を参照)

2521

プロセツト

一般的なパラレル大会と同様にプロテストのルールが適用される。(条項 2709-2709.2 を参照)

2522

パラレルの決勝における棄権(DNS)

上位16名による決勝または上位8名による決勝で棄権した場合、当該選手は自動的に16位(上位16名による決勝の場合)または8位(上位8名による決勝の場合)となる。棄権した選手が2名以上いた場合は、各選手の予選タイムに応じて、15位、16位、(7位、8位)というように順位が決定する。(棄権した選手が3名以上いる場合は、同様に14位、15位、16位(6位、7位、8位)となる)。もし、順位決定戦(スモールファイナル)と決勝(ビックファイナル)の1本目において棄権した場合、対戦選手は1度だけスタートしなければならない。

2523

コースインスペクシヨソ

選手は、スタートからフィニッシュまでコース脇を滑り降りる方法で、最低10分間のパラレルコース(予選と決勝)のインスペクシヨソを1回だけ実施できる。選手は、インスペクシヨソ中に旗門に触れる(握る)ことを禁じられている。1回目の違反行為には警告が与えられるが、2回目の違反行為には、当該種目における失格処分が科せられる。

2524

レースのコントロール

旗門審判員は、両コースの外側に配置される。各旗門審判員には、担当するコースの色に応じた色(青か赤)のフラグが渡される。このフラグは自分の担当セクシヨソで発生した失格を直ちにジュリーに知らせる目的で使用される。コースの中間あたりには、黄色いフラグを持った競技役員1名(ジャッヅ)が待機し、旗門審判員が判断した制裁や失格を直ちに判定し、失格が発生したとされる方向に向かって黄色いフラグを挙げる。黄色いフラグが挙げた時点で選手の失格が確定する。

2525 失格／制裁

2525.1 失格の理由は次の通り

- 不正スタート(条項 2505.3)
- 意図的であろうとなかろうと、対戦相手を妨害すること
- 旗門の不正通過
- 旗門の外側でターンをしなかった場合
- フィニッシュ時に少なくとも片足がボードに固定されていない場合

2525.1.1 2本目で失格、または途中棄権したチームは敗退する。

- #### 2525.1.2 両チームとも完走できなかった場合、通過旗門数が多い方が、
- 1本目の場合は、1本目の勝者となり、2本目のランのゲートが開く。(条項 2512 によるペナルティータイムによる)
 - 2本目の場合は、次のラウンドに進む資格を得る。

2526 パラレル種目ランキング 2509.2 によるファイナルランキング

2本のランで決勝を行う

2526.1 SBX チーム競技決勝における DNS,DSQ,DNF

上位16名による決勝または上位8名による決勝で棄権した場合、当該選手は自動的に16位(上位16名による決勝の場合)または8位(上位8名による決勝の場合)となる。棄権した選手が2名以上いた場合は、各選手の予選タイムに応じて、15位、16位、(7位、8位)というように順位が決定する。(棄権した選手が3名以上いる場合は、同様に14位、15位、16位(6位、7位、8位)となる)。順位:DNF/DSQ(スポーツ失格/制裁による)が上にランクされ、DSQ(意図的な接触などによる)は2番目にランクされ、DNSは3番目にランクされる。

2600 スノーボードハーフパイプ

2601 テクニカルデータ

2601.1 定義
ハーフパイプとは、雪の中に作られた溝のことである

2601.2 仕様

Code	ハーフパイプ基準	基準値
S (ft)	Size:	
	Level A	22フィート
	Level B	18フィート
	Level C	15フィート
L (m)	長さ (滑走可能長)	
	22 フィート	最小 150,0 m 推奨 170,0 m
	18 フィート	最小 120,0 m 推奨 150,0 m
	15 フィート	最小 100,0 m 推奨 120,0 m
H (m)	高さ, パイプのボトムからリップの端まで	
	22 フィート	6,7 m
	18 フィート	5,3 m
	15 フィート	3,5 m
V (m)	垂直, 壁の頂点l	0,2 m: 82 - 83 °
I (°)	傾斜, パイプの中心線	
	22 フィート	最小 17,0° 推奨 18°
	18 フィート	最小 16° 推奨 17°
	15 フィート	最小 14° 推奨 15°
W (m)	幅, リップの端から端まで	
	22 フィート	最小 19,0 m 推奨 19,0- 22,0 m
	18 フィート	最小 17,0 m 推奨 17,0 - 19,0 m
	15 フィート	最小 15,0 m 推奨 15,0 - 17,0 m
	競技レベル	
Level A	OWG, WSC, WJC, WC, YOG	
Level B	COC, UVS	
Level C	NC, FIS, EYOF, JUN	

2602 ハーフパイプコース

2602.1 ハーフパイプコースは技術データ・仕様(2601.2 参照)を満たすものでなければならない。ハーフパイプコースは、少なくとも競技開始の 1 日前までには、作業が終了し、トレーニングが出来る状態になっていなければならない。

2602.2 冬季オリンピック及び FIS 世界選手権及び FIS ジュニア世界選手権及び FIS ワールドカップで使用されるハーフパイプはすべて、推奨・公認仕様に適合し、ハーフパイプ整備専用設計された整備用機械を備えていなければならない。トレーニング期間は守られなければならない、競技開催日前に 2 日間のトレーニング期間が与えられる。特別な条件の下に、 Jury はこのトレーニング期間を短縮することができる。

2602.3 ハーフパイプ内で行われた技だけが採点対象となり、ハーフパイプ以外で行われた技はスコアに入らない。

2603 トレーニング

トレーニングは Jury の自由裁量にて決まり、最初のチームキャプテンミーティングにて発表される。(条項 2602.2 参照)

2604 競技方式

2604.3 ヒート形式

2604.3.1 予選

選手は男子 20～30 名、女子 15～25 名ずつのいくつかのヒートに分けられる。

シード分けは次の通りを行う:

- ヒートの数は、TC ミーティングの前に Jury が時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。
- 準決勝が行われるかどうかは TC ミーティングの前に Jury が時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。

選手はハーフパイプにおいて、最新のワールドカップ・コンチネンタルあるいは、FIS ポイントリストで個人最高順位の順に並べられる。(高い方のポイントでタイの場合は、もう片方のリストの順位で決定する。尚タイの場合は抽選(ドロー)で順を決定する。)

ワールドカップ競技では、ワールドカップスノーボードポイントリストに従う。どのポイントリストを使用するかは TC ミーティングまでに通達されなければならない。

- 2 つのヒートになる場合、次のように分ける

ヒート 1: 順位 1,4,5,8,9 等 ヒート 2: 順位 2,3,6,7,10 等

- 3 つのヒートになる場合:

ヒート 1: 順位 1,6,7,12 等 ヒート 2: 順位 2,5,8,11 等

ヒート 3: 順位 3,4,9,10 等

- 4つのヒートになる場合:

ヒート1:順位 1,8,9,16等 ヒート2:順位 2,7,10,15等

ヒート3:順位 3,6,11,14等 ヒート4:順位 4,5,12,13等

- 各ヒートとも 15~40 分間(Jury が決定する)のウォームアップを行い、すぐに引き続き予選 2 本を行い、そのうちのよい方 1 本が採用される。

2604.3.2 準決勝を行わない場合、決勝への選出は次の通りに行なわれる。

男子:

2 ヒートの場合: 各ヒートの上位 5/6 名の選手

3 ヒートの場合: 各ヒートの上位 4 名の選手

4 ヒートの場合: 各ヒートの上位 3 名の選手

女子:

2 ヒートの場合: 各ヒートの上位 3 名の選手

3 ヒートの場合: 各ヒートの上位 2 名の選手

2604.3.3 XX 競技者が決勝に進出するヒート形式
(FIS レベル+コンチネンタルカップのみ)

すでに修正されていないオーバーオールの子選日に次の点数を加算する各ヒートへ勝ち進む選手の子選ヒートについては、 Jury によって実施される。決勝に進出する選手の数、 Jury によって指導される。

2604.3.4 決勝:(女子 6 名、男子 12 名)

ハーフパイプ決勝のスタート順はヒート方式を用い、決勝ラン 1 と 2 は子選の順位によって決まり、同スタート順となる。

決勝のスタート順:

2 ヒート形式の場合、子選の結果によるシード順

各ヒート 1 位の選手は、子選の最も高い得点によって 11 番目 12 番目としてスタートする。

各ヒート 2 位の選手は、子選の最も高い得点によって、9 番目 10 番目としてスタートする。

3 ヒート形式の場合、各ヒート 1 位の選手は、子選の最も高い得点によって 10 番目 11 番目 12 番目としてスタートする。各ヒート 2 位の選手は、子選の最も高い得点によって、7 番目 8 番目 9 番目としてスタートする。

2604.3.5 子選および決勝の出走本数

特別な状況下において、 Jury は、子選や準決勝および/または決勝を 1 本の滑走で行うことができる。

決勝のスタート順:

2 ヒート形式の場合、子選の結果によるシード順

各ヒート 1 位の選手は、子選の最も高い得点によって 11 番目 12 番目としてスタートする。

各ヒート 2 位の選手は、子選の最も高い得点によって、9 番目 10 番目としてスタートする。

3 ヒート形式の場合、各ヒート 1 位の選手は、子選の最も高い得点によって 10 番目 11

番目 12 番目としてスタートする。各ヒート 2 位の選手は、予選の最も高い得点によって、7 番目 8 番目 9 番目としてスタートする。

決勝順位:

女子 1 位～6 位 決勝 1 本目または 2 本目のうちの良い方
7 位以降 予選 1 本目または 2 本目のうちの良い方
男子 1 位～12 位 決勝 1 本目または 2 本目のうちの良い方
13 位以降 予選 1 本目または 2 本目のうちの良い方

2604.3.7 決勝(女子 6 名以上/男子 10 名以上 3 本滑って良い方を採用)
男子 10 名以上、女子 6 名以上が 3 本滑る。3 本のうち、最も良い点数が採用される。スタート順は、2604.3.4 を参照。(2014.6 追加)

2604.4 ダブル・アップ形式(予選のみ)

ジャッジメンバーは、ジャッジ・パネル 2 組とヘッドジャッジ 1 名となる。各ジャッジ・パネルは 3 名のジャッジからなる。これらのジャッジメンバーにより、総合印象のジャッジにて競技が行われる。

競技形式は条項 2604.7 のようなヒート形式で行う。全ての選手は、同時に練習および競技を行う。ジャッジパネル 1 は 1/3 ヒートから両ランの得点を記録し、ジャッジパネル 2 は、2/4 ヒートからの両ランを記録する。

予選:スタートする選手は 2 つのヒートに分けられる。

2604.5 ジャムセッション(FIS レベルのみ、決勝のみ)

決勝は男子 12 名、女子 6 名の選手と 3 人のジャッジからなる 2 グループのジャッジメンバーにより、総合印象のジャッジにて競技が行われる。

選手は合計で 1 時間の滑走をする。すべての滑走の中の良い 2 本の合計スコアにて決勝の順位が決定する。

2604.6 準決勝形式

予選形式を 1 つ採用した後に、追加で準決勝を 1 本行い、更に選手人数を減らすことができる。試合開始前の TC ミーティングにてジュリーはこのことについて告知しなければならない。

準決勝は 15～25 名の選手で行なわれる。各選手とも 1 本滑り、ジャッジは総合印象のジャッジをする。この中から 5～10 名の選手が決勝に出場する。

2604.7 準決勝ありのヒート形式

TC ミーティングの前に、ジュリー(ヘッドジャッジと技術代表と競技委員長)はレースディレクターと一緒にどの競技形式を採用するか決定する

2604.7.1 予選

選手を男子 20～30 名、女子 15～25 名ずつのいくつかのヒートに分ける。

2604.7.2

シード分けは次の通りを行う。

- ヒートの数は、TC ミーティングの前にジュリーが時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。
- 準決勝が行われるかどうかは TC ミーティングの前にジュリーが時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。
- 選手はハーフパイプにおいて、最新のワールドカップ・コンチネンタルあるいは、FIS ポイントリストで個人最高順位の順に並べられる。(高い方のポイントでタイの場合はもう片方のリストの順位で決定する。尚タイの場合は抽選(ドロー)で順を決定する。) ワールドカップ競技では、ワールドカップスノーボードポイントリストに従う。どのポイントリストを使用するかは、チームキャプテンミーティングまでに通達されなければならない。
- 2つのヒートになる場合は順番を偶数と奇数で分ける。
- シードの例と手順については、条項 2604.3.1 を参照

2604.7.3

準決勝を行う場合、直接決勝に進出する選手は次のように決定する

男子

- 2ヒートの場合: 各ヒート上位 3/4 名の選手(3+3=6),(4+4=8)
- 3ヒートの場合: 各ヒート上位 2 名の選手(2+2+2=6)
- 4ヒートの場合: 各ヒート上位 2 名の選手(2+2+2+2=8)

女子

- 2ヒートの場合: 各ヒート上位 2 名の選手(2+2=4)
- 3ヒートの場合: 各ヒート上位 1 名の選手(1+1+1=3)

2604.7.4

準決勝からの決勝進出選手は次のように決定する

男子

- 2ヒートの場合: 各ヒートの 4/5 位 ~ 7/8/9 位 の選手(4+4=8),(5+5=10),(6+6=12)
- 3ヒートの場合: 各ヒートの 3~6 位の選手(4+4+4=12)
- 4ヒートの場合: 各ヒートの 3~5 位の選手(3+3+3+3=12)

女子

- 2ヒートの場合: 各ヒートの 3~5 位の選手(3+3=6)
- 3ヒートの場合: 各ヒートの 2~3 位の選手(2+2+2=6)

選手は更に 2 本ずつ滑走し次の選手が決勝に進出する

男子

1+2+3 ヒートの場合(予選から決勝進出が決定している 6 名の選手):

上位の選手: 決勝進出の 1~6 位の選手

4 ヒートの場合(予選から決勝進出が決定している 8 名の選手):

上位の選手: 決勝進出の 1~4 位の選手

女子

上位 1~3 位

2605

ハーフパイプの実施

予選は、ハーフパイプ競技の一部をなすものである。

予選の公式結果は決勝進出選手を決定する。決勝に進出する選手人数(男子 24 名以下、女子 12 名以下)は TC ミーティングで告知されなければならない。

選出された選手の最終順位は、決勝のみで決定される。

公式結果には次のものが含まれる。

- 予選での順位
- 決勝出場選手の最終順位

競技形式は、ノックアウト形式またはシングル形式のどちらでも構わない。ジュリーが決定し、TC ミーティングで告知しなければならない。

(ジャッジの準備ができ、スターターよりスタートするよう合図が出た後に)選手がスタートした場合、その滑走は有効であり、ジャッジされる(たとえ最初のヒートの前に選手が止まったとしても、再スタートは許されない)。

予選 1 本目で失格(DSQ)した選手は、予選 2 本目をスタートすることができない。

2606

シード

(男女ともに)1~16 位までの選手は第 1 シード内で無作為にドローされ、17 位以下の選手は第 2 シード内で無作為にドローされる。

ヒート形式によりシードは異なる。(条項 2604.3 を参照)

2607

選手の用具

2607.1

ビブ

スタートナンバーの形やサイズを変えてはならない。これに違反した場合は制裁や失格となる。選手は全員、ウォームアップ、競技及び表彰式において常にスタートナンバーを適切な位置に着用していなければならない。

2607.2

ヘルメット

すべてのスノーボード競技において、インスペクション、公式トレーニング、競技中は常にヘルメットは着用義務である。すべての競技者と前走者は、スノーボード・レースまたはスキーレース用に製造された、視界の確保されるヘルメットを着用しなければならない。(条項 2010.6 参照) 競技者が背中のプロテクターを装着することを強く推奨する。

2608 場内放送システム

2608.1 ハーフパイプ競技では音楽を使用する。音響システムは、選手がコース上のどこにいても、はっきりとゆがみなく聞こえるように音量が十分なものでなければならない。音響係長は、競技中に流す音楽テープの準備に責任を負う。

2609 スタート及びフィニッシュ担当の役員

2609.1 スターター

スターターは、スタート予告合図及びスタート合図および選手がビブとヘルメットを装着していることについて責任を負う。スターターは、ヘッドジャッジと無線で連絡を取れるようにしなければならない。

2609.2 フィニッシュ役員

フィニッシュ役員は、フィニッシュエリアに関わる事柄を担当する。フィニッシュ役員は、すべての選手の退場時の安全を確保し、フィニッシュ付近の観客を管理する責任を負う。

2610 スタート

スタートエリアは、スタートする選手、その選手のコーチ 1 名及びスタート役員以外は、入れないように閉鎖されていなければならない。(条項 2022 を参照)

2610.1 スタート合図

競技のスタート合図は、スターターが出す。(条項 2022.4.3 を参照)

2610.2 ドロップインエリア

ドロップインは、選手に適切なスピードでハーフパイプコースに入るきっかけを与えるエリアである。ドロップインへのアクセスランプは、踏切台として使用してはならない。

2611 フィニッシュ

フィニッシュエリアは、平坦で選手が安全に停止できるだけの広さがなければならない。フィニッシュエリアは、完全にフェンスで囲わなければならない。その場合のフェンスは、役員、メディア及び観客の視界が最大限確保されるように設置しなければならない。出口ゲートは、選手がボードを外さずにフィニッシュエリアから去ることができないように設置しなければならない。(条項 2025 を参照)

2611.1 フィニッシュライン

ヘッドジャッジが設定するフィニッシュライン(パイプのボトムからリップまで、壁を上方向に延びる色付きのラインでマークされている)は、テイクオフの最終ポイントである。つまり、選手がこのライン上またはこのラインの手前でテイクオフし、トリックを演じた場合、そのトリック(及び転倒)は当該選手のスコアにカウントされる。フィニッシュラインを過ぎてから演じられたトリックは、スコアにカウントされない。

2612 **スノーボードハーフパイプの採点システム**

2612.1 各ジャッジは、100 点法を用いる。例:2、6、87、93…等
各ジャッジは、各選手に 100 点までつけることができる。
得点は小数点以下第 3 位と XX 以降が切り捨てになり、平均化され、XX がそのランの
得点として表示される。

2612.2 各ジャッジは総合印象にて採点する。

2612.3 スコアはすべて、各ランの終了後に掲示される。

2612.4 **タイブレーク**

2612.4.1 1 本形式 シングルラン（予選）
同得点(タイ)の選手がいる場合、同得点となった滑走における最も高い得点 2 つを比較して、良い選手が先の順となる。なお、同得点の場合、同得点となった滑走における高い得点 3 つを比較して、良い選手が先の順となる。もしそれでも同得点の場合、カップスタンディングの上位の選手が先の順となる。カップスタンディングがない競技会の場合、FIS ポイントリストで上位の選手が先の順となる。

2612.4.2 2 本のランの合計スコアによるタイブレーク(予選)
2 本のランの合計スコアが同点になった場合、最も高い個別得点を持つ選手が先の順となる。なお、同得点の場合、最も高い 2 つの得点を比較して、良い選手が先の順となる。それでもなお同得点の場合、最も高い 3 つの得点を比較して、良い選手が先の順となる。
まだ、同得点の場合、もう片方の決勝の滑走におけるジャッジ得点の高い 2 つを比較して良い選手が先の順となる。それでもまだ、同得点の場合、もう片方の決勝の滑走におけるジャッジ得点のうち、高い 3 つを比較して、良い選手が先の順となる。
それでもまだ同得点の場合、当該カップスタンディングの上位の選手が先の順となる。カップスタンディングがない競技会の場合、FIS ポイントリストで上位の選手が先の順となる。

2612.4.3 2 本のうち 1 本によるタイブレーク(予選と準決勝)
2 本のうちの良い方の滑走の得点と同じ選手が 2 名以上いた場合、2 本のうちの良い方の滑走の個別得点のうち最も高い 2 つを比較して良い選手が先の順となる。なお、同得点の場合、2 本のうち、良い方の滑走の個別得点のうち最も高い 3 つを比較して、良い選手が先の順となる。
まだ、同得点の場合、もう片方の滑走において最も高い得点を比較して、良い選手が先の順となる。それでもまだ、同得点の場合、もう片方の決勝の滑走の個別得点のうち、最も高い 2 つのジャッジ得点を比較して、良い選手が先の順となる。
それでもなお同得点の場合、もう片方の決勝の滑走の個別得点のうち、最も高い 3 つのジャッジ得点を比較して、良い選手が先の順となる。
それでもまだ同得点の場合、当該カップスタンディングの上位選手が先の順となる。カップスタンディングがない競技会の場合、FIS ポイントリスト上で上位の選手が先の順となる。

2612.4.4 準決勝予選なしの予選
決勝に進む最終順位がタイとなった場合、2616.4.3 に基づき、タイブレークがされる。

2612.4.5

準決勝ありの予選

(準決勝でなく)決勝に進む最終順位が同得点となった場合、タイブ레이크は行われ
ない。

同得点の選手は全員、決勝に進む。このような場合、準決勝に進む選手の数は減らさ
れる。(例:ヒート1、3位と4位が同得点 両選手が決勝に進み、5位から9位までの選手
のみが、準決勝に進む。)

それに伴い、準決勝から決勝に進む選手の数も減らされる。

2612.4.6

決勝後(決勝の滑走)の同点 ー公式リザルトリスト上の同点

同得点の選手が2名以上の場合、同じ順位(ポイント)になる。しかし、公式リザルトリス
トには、スタート番号が大きい選手が最初に掲載される。

予選1本目でスタートしなかった(DNS)選手は、予選2本目のスタートを許される。予選
1本目をフィニッシュしなかった(DNF)または失格となった(DSQ)選手は、予選2本目に
参加できる。

2613

ジャッジ基準

2613.1

総合印象 3-5 ジャッジカウンティングスコア

このカテゴリーを担当するジャッジは、最初から最後まで総合的に正確に採点する。総
合印象のジャッジは、個別にまたは連続的に試行された技に関して、滑走の正確さを評
価する。総合印象のジャッジは、トリックの連続性やルーティンにおける冒険の度合い及
び選手がパイプをどのように使いこなしているかを評価するので、演技の全体的な構成
が最も重要となる。ジャッジは、転倒やミス、停止を考慮し、転倒/停止ごとに滑走/
ジャッジの採点から最大で25%減点する(条項2617.2に基づく)

ジャッジには十分なトリックの知識がなければならない。トリックを理解することなく、採点
を確定させることは非常に困難である。

総合印象のジャッジとしてよく考えなければならない。

(これらは、特に命令ではない)

- 大きさ
- より大きな振幅は、トリックの危険性が増す
- 難易度
- 回転数が増えると難易度が増す

ジャッジ基準に関する考察

- スイッチのテイクオフやランディング
- フロントサイドやバックサイドの回転
- ヒールやトゥからのテイクオフ
- 異なるグラブ
- ブラインドランディング
- 難しいコンビネーションと連続トリック
- 異なる回転軸(縦方向/横方向軸、垂直軸)
- アーリーウープ

実行中のグラブは、トリックの難易度を変えることができる。(以下、英文参照)

実行

最初から最後まで、全体的にコントロールを維持する。ライディングは優れた安定性と流動性を持たせる。個々のトリックは、完全にコントロールして行う。選手がトリックを行う場合、決まった位置に到達し、それが自分の望む位置であると示さなければならない。回転フリップと異なるハイブリッドでは、1つの技で行い、コントロールを維持し、最初から最後まで等しい回転リズムでユニークな動きを演技する。“トリックは簡単に見えるように”グラブをするのであれば、板上で行うこと。(ブーツグラブ、ビンディンググラブ、など)グラブは演技上非常に重要な技であり、これをミスまたは弱いものであると、ジャッジの採点に影響する。

テイクオフと着地はハーフパイプの高いところで行う。着地前にトリックが完成していること。

種目

選手がプリフォームする場合、さまざまな重要な要因がある必要がある。異なる混合トリックを行うとよい。ストレートエア、alley oops、フェイキーのエアや異なる方法のスピンのバックサイド/フロントサイド、左/右、縦/横軸、テイクオフやランディングは、スイッチとノーマルが混在しなければならない。異なるスピンの異なるグラブでボードをつかむ。

パイプの使用

最初から最後まで行う。ジャッジは選手がフィニッシュラインを超えるまでカウントする。テイクオフとランディングは、ハーフパイプの高いところで行う。

進行

やりがいをを持って進行することはスポーツ推進に役立つ
今までにない新しい技を紹介する

リスク

ランの早い段階で難しいトリックを入れる
我々は選手の最高のランを見たいが、限界を超えたものではない。

コンビネーション

より簡単な技を別々に行うよりも、続けて難しいトリックを組み合わせる

考察

ジャッジにとって、難しいトリックやコンボをどれだけ“知っている”かは、選手やコーチとコミュニケーションをとるために必要である。これらは、シーズンを通してコーチと議論する時に大切になる。各競技においてではない。難易度は、非常に個々のことであり、選手、ジャッジやコーチによって異なり、意見が合わないこともある。しかしジャッジはどれが簡単で難しいか明確にしておかなければならない。

2613.2

転倒に対する減点は次の通り

1～10 フラット着地、デッキ着地、スライディング、小さなハンドタッチ、不安定なバランス

11～20 停止、手を引きずる、大きく手をつく、軽くお尻を着く、戻る

21～25 尻もちを着く、身体が着く、完全停止

ジャッジは、トリックでランディングが成功して与えられた得点から減点する。例えば、制御できていないとみなされた選手は、45 ポイント取得した中から、大きなランディングミスで 20 ポイントとられ、25 ポイントを獲得する。

2613.3

特別な進行: ハーフパイプ

停止

選手がハーフパイプ内で 10 秒以上停止した場合、その時点で選手は採点される。選手は可及的速やかにコースから退出しなければならない。

2700 スノーボードクロス(SBX)

2701 テクニカルデータ

Code	スノーボードクロスコース	基準値
CL (m)	コース長	650,0 m - 1200,0 m
	Level A	1050,0 m (+/- 150,0 m)
	Level B	min 750,0 m
	Level C	min 650,0 m
CA (°)	コース傾斜 (平均)	12,0° (+/- 2,0°)
VD (m)	高低差	min 130,0 m max 250,0 m
	Level A	215,0 m (+/- 35,0 m)
	Level B	min 165,0 m
	Level C	min 130,0 m
SW (m)	スロープ幅	40,0 m
TW (m)	トラック幅	6,0 m - 16,0 m
	競技の形式やレベルによる	
スタート基準		
SA (m)	スタートエリア	Length 10,0 m Width 30,0 m
SP (m)	スタートプラットフォーム 幅: スタートゲートによる	Length min. 6,0 m Width 12,0 m (+/- 4,0 m)
SL (m)	スタート長 (スタートから最初のターンまで)	
	Level A	120,0 m
	Level B	100,0 m
	Level C	80,0 m
SI (°)	スタート傾斜 (最初のバンクへ)	6,0° - 8,0°
フィニッシュ基準		
FL (m)	フィニッシュライン (幅)	15,0 m (+/- 5,0 m)
FA (m)	フィニッシュエリア長さ	60,0 m (at 0,0°)
FW (m)	フィニッシュエリア幅	min. 30,0 m
競技レベル		
Level A	OWG, WSC, WJC, WC, YOG	
Level B	COC, UVS	
Level C	NC, FIS, EYOF, JUN	

2701.1 標高差

2701.1.1 すべてのレースについて、コースの標高差は130m以上、250m以下とする。アルペン種目とフリースタイル種目、また、男女で同一コースを使用することができる。

2701.2 全長／傾斜角

2701.2.1 コース全長は計測テープまたはローラー計測器あるいはGPSで計測し、スタートリスト及びリザルトに記載しなければならない。

2701.3 全幅

2701.3.1 コースの幅は、少なくとも40m以上でなくてはならない。特別なケースとして、インスペクターあるいはジュリーがコースの短い距離であれば例外を認めることがある。

2701.4 旗門

- 2701.4.1 スノーボードクロスの旗門は、三角バナーで連結されたスタッピーポール（ターニングポール）1本とフレックスポール（アウトサイドポール）1本から構成される。（条項 2085 条、2089 条を参照のこと）
- 2701.4.2 連続する旗門は、色が交互に並ばなければならない。ただし、バナナゲート（一つのターンは同色となる）は、旗門とフラグの色を同じにする。
- 2701.4.3 旗門は、たとえ高速滑走中であっても、選手がはっきりとすばやく識別できるように配置しなければならない。旗門のバナーはレースラインに直角に取り付けるものとする。
- 2701.4.4 状況によっては、選手は同色の 2 旗門の間を通過することを要求されることもある。（例：コリダー【通路】）

2702 コース

2702.1 コースの一般的特徴

コースは、できれば中斜面（緩斜面でも急斜面でもなく、理想的には斜度 12° , $\pm 2^{\circ}$ ）で様々な地形を含んでいることが望ましい。スノーボードクロスのコース幅は 40m 以上とする。（広い方がなお良い）条件によっては、短い距離（50m 以下）であれば、コース幅を最低 20m とすることもできる。スタートから最初のターンまでの間（直線 80m 以上）がとても重要な場所であり、そこは、平らな段（テクニカルデータの条項 2701 を参照）ではなく、最初のバンクまでに選手を隔てられるような特色のある長く平らな地域でなければならない。

次の地形的特色のすべてまたはいくつかを設定できるようなコースが理想的なスノーボードクロスコースである：

（三日月形）バンク、ダブルバンク、シングル、ダブルまたはトリプルのジャンプローラー、オフセットローラー（シングル、ダブル、トリプル等）、ステップアップジャンプ、スパインやダブルスパイン、プロスタイルジャンプ、ヒップジャンプ、テーブルトップジャンプ、ステップダウンジャンプ、大回転タイプ（のミディアムターンまたはロングターン（あまり推奨ではない））地形的特色の設定が不可能な場合のみ含むことができる」

これ以外の地形的特色も設定できるが、常に安全に対する配置を優先しなければならない。どのような場合でも、ギャップジャンプは禁止されていて、スノーボードクロスの最後の部分に“コーナージャンプ”を含まないものとする。地形的特色は、選手がスピードに乗って滑走することが可能で、各地形の前で滑走スピードが乱されることがないように設計しなければならない。

2702.2 コース整備

コースは、遅くともトレーニング開始 20 時間前には一般の立ち入りを禁止しなければならない。地形的特色やジャンプは、トレーニングや競技中に適正に維持できるように雪を引き締めて固くするため、十分時間をかけて作らなければならない。人工的手段（塩、水等）の使用は認められている。

2703 コースセッティング

- 2703.1 旗門のセッティングは、公式トレーニングの前に完了していなければならない。旗門のセッティングでは、地形的特色やジャンプを取り入れつつ、地形を巧みに利用する。

コースをスムーズな競技ラインに合わせるために、トレーニング中にセッティングの微調整が必要になることもある。トレーニング中に行われた変更については、選手全員とチームキャプテンがそのような変更気づくように、スタートエリアで告知しなければならない。

- 2703.2 地形的特色やジャンプの数は、コースデザイナーの任意であるが、現実的な範囲でできるだけ多くの異なる可能性を取り入れなければならない。選手が踏み切りの位置から着地箇所が見ることができないようなブラインドジャンプや地形的特色の設定は避けなければならない。コースは、スタート後できるだけ早く選手を隔てられるようにデザインしなければならない。(スタートから最初のターンまでの間に3~5カ所のロール、その他の地形的特色を設ける)。これらの地形的特色はスタートから最初のターンまでは直線に設置する。スタートから最初のターンまでのストレート部分の距離は約80m以上とする。スタートは比較的フラット(12° ~ 14°)にする。

2704 インスペクション／トレーニング

選手は、コース沿いかコース内をゆっくりと滑り降りながらコースをインスペクションすることが認められている。インスペクションを行う時間は競技ジュリーの任意であるが、15分以上とする。選手は見やすい場所にビブを装着し、ヘルメットを着用しなければならない。

各々のコースにつき、実際の競技開始前に最低1回の公式トレーニングをすることが義務づけられる。通常の場合、公式トレーニングの長さは1~2時間で、競技実施当日の前日に行う(条件緩和の状況がそろっている場合、競技ジュリーがその他の可能性について決定を下すことができる)。

2705 スノーボードクロス(SBX)の実施

2705.1 予選

- 2705.1.1 決勝に進出する選手を決定するために、各ランのタイムが計測される。FIS レースの場合、ランのタイムを計測する代わりに、決勝のためのシード分けの手続きを用いた追加のフォーマットが行われる。(条項2705.1.4を参照)

2705.1.2 タイムレース形式の予選、4つの選択肢

- a) 予選1本:
全選手1本滑り、タイムが計測される。
- b) 予選2本:
全選手2本滑り、2本のうちのタイムの良い方で予選順位表を作成する。(2本とも同じスタートリストとなる)
DNS、DNF、DSQの選手は予選2本目に参加できる。
- c) カットダウンシステムによる2本滑走による予選
- 予選1本目から、ファイナル・シーディング・ブラケット・ポジションの上位50%は、タイムにより順位が決まる。(ブラケット 男子48名 1本目後、24名が予選通過。女子24名 1本目後、12名が予選通過)
 - 予選1本目で予選を通過しない選手のみが、予選2本目を滑走する。
 - 予選2本目のスタート順は、予選通過者を除いた予選1本目のスタート順と同じである。
 - 予選2本のうち、ベストの滑走が、残った選手のため考慮される。

- d) ジャムセッション(フォーミュラ1)予選-全ての競技者は、決められた時間内で何本でも滑走できる。
- 今回以外の予選のランキングで決定したベストタイム

2705.1.2.1 予選2本目において(2本目のランと通常の2本のラン・・・)、上位16人の男女とも予選1本目の逆順のスタートとなり、17位以降の選手は予選1本目の順位と同じスタート順となる。

2705.1.3 決勝進出者における予選でのタイ
ベスト・タイムが同じ選手が2名以上いる場合、2本の合計タイムで勝敗を決定する。尚タイの場合、最新のカップポイント又はFISポイントのどちらか高い方で選ぶ。これは、世界選手権とオリンピック冬季大会にも有効である。
FIS レベルのジュニア世界選手権及びユースオリンピック冬季大会では、FIS ランキングのみがカウントされる。
さらにタイの場合、全選手同じ順位とするが、ビブ番号の高い選手が先の順に並ぶ。ただし、この勝敗決定方法は女子16位/24位、男子32位/48位でタイの選手には適用されない。16位/24位または32位/48位でタイの選手が2名以上いる場合は勝敗が決定するまで全選手必要な回数の同点決勝戦を行う。この2名以上の同点決勝形式の場合、選手は一緒に滑る。このルールは冬季オリンピックには適応されない。冬季オリンピックにおける同点決勝は個別の滑走となる。タイの場合のレーンの選択は、スタートにてドローにて行われる。

2705.1.4 ランのタイムを計測しないシード分けされたグループ
選手は、最新のFISもしくはカップポイントスタンディングにて振り分けられる。
FIS ワールドカップ(SBX)競技会では、選手は、最新のワールドカップまたはFISポイントのうち、どちらか高い方を用い振り分けされる。
コンチネンタルカップはコンチネンタルカップポイント又はかFISポイントのどちらか高い方が適用される。
オリンピック冬季大会、世界選手権、ワールドカップでは、このフォーマットは特別な状況での代案としてのみ機能し、選手は最新のワールドカップポイントもしくはFISポイントのどちらか高い方を用いてシーディングされる。
出場人数が64名(もしくは32名)より多い場合、予選からヒートを組むことができる。ジュリーは予選ヒートを通過させる選手数によってそれを決める。
ジュリーはチームキャプテンミーティングで以下について発表する。

- 予選出場者
- 決勝進出者
- 必要なラウンド数
- ヒートごとの人数を含めたヒート数

- 2705.1. 4.1 ジャムセッション予選でのタイ
ベスト・タイムが同じ選手が2名以上いる場合、2本の合計タイムで勝敗を決定する。
- 2705.1.4.2 カットダウンシステムによる予選タイ
同じベストタイムを持つ選手が2名以上いる場合、予選の2本の合計タイムで勝敗を決定する。それでも、タイ又は予選ランが1本の場合、の場合、最新のカップスタンディング(ワールドカップ/コンチネンタルカップポイント)又は最新のFISランキング(FISポイント)どちらか高い方で選ぶ。FIS レベル、ジュニア世界選手権とユースオリンピック冬季大会ではFISランキングだけが考慮される。
それでもタイの場合、タイの全ての選手を同じ順位とするが、ピブ番号の高い選手が先の位置に並ぶ。
予選1本目の最終順位がタイの場合、前項に定める規定を適用することによって、勝敗を決定する。
勝敗が決定したかどうかにかかわらず、すでにタイであった全ての選手が予選を通過し、決勝に進む。予選2本目のスターター・フィールドは、それに伴い減らされる。
予選2本目の最終順位がタイの場合(16位/24位女子、32位/48位男子)、勝敗が決定するまで全ての選手は必要な回数の同点決勝を行う。この2名(以上)の同点決勝形式の場合、選手は一緒に滑る。
このルールは、冬季オリンピックには適用されない。冬季オリンピックにおける同点決勝は、個別の滑走となる。タイの場合のレーンの選択は、スタート時にドローで決定される。
- 2705.2 決勝**
- 2705.2.1 決勝は、基本的に男子48名、女子24名/1ヒートにつき6選手、または男子32名、女子16名・ヒートにつき4選手、またはジュリーが別途定めた人数で行われるものとする。特別な状況下では、男子64名、女子32名になることもある。
- 2705.2.2 スノーボードクロスは、シングルノックアウト方式で行われる。
- 2705.2.3 各ヒートのフィニッシュ順位に基づき、先着3選手(1ヒート6名の場合)または先着2選手(1ヒート4名の場合)がラウンドを進んでいく。フィニッシュ順位は身体の一部またはスノーボードがフィニッシュラインを先に通過した順で決定される。可能な限り、フィニッシュライン・カメラ(ビデオまたは写真)が用意されるべきである。タイの場合フィニッシュで写真判定を見て勝敗を決定する。尚タイの場合、該当する選手は予選タイムの速い順に順位がつけられる。予選タイム(=2本のうちのよい方)が同じ場合、予選2本合計タイムで勝敗を決定する。それでも尚タイの場合は(予選タイムに基づく)ピブ番号の早い選手が先に並ぶ。
- 2705.2.4 1/8 ファイナルに進出できない選手は、それぞれのグループ内で予選タイムによって順位が決まる。あらゆる場合において、それぞれのグループ(1/8 ファイナル、1/4 ファイナル、等)内で決まった結果により、順位が決定する。
例えば、一度予選でトップ16位以内になった選手は16位以内の順位となる。

- 2705.2.5 2人以上の選手がフィニッシュしなかったり、失格(プッシング、ホールディング、旗門不通過、等)した場合、完走した長さ(旗門を通過した数)によって順位が決められる。2人以上の選手が同じ旗門でコースをフィニッシュしなかったり、止まったり、失敗したり、失格した場合、その順位は最後のヒートの順位によって決められる。
- 2705.2.6 条項 2705.1.4 における決勝進出の選手の資格は次のとおりである。
各ヒートのフィニッシュ順位に基づき、先着 2 選手がラウンドを進んでいく。フィニッシュ順位は身体の一部又はスノーボードがフィニッシュラインを先に通過した順で決定される。可能な限り、フィニッシュラインにカメラ(ビデオ又は写真)が用意されるべきである。タイの場合、フィニッシュで写真判定を見て勝敗を決定する。それでもなおタイの場合は、FIS レベル競技会(FIS、ジュニア世界選手権、ユースオリンピック冬季大会)での FIS ポイントの上位者が1位となる。コンチネンタルカップではカップポイント又は FIS ポイントのどちらか高い選手が1位となる。ワールドカップ、世界選手権、冬季オリンピックではそれぞれ、ワールドカップポイント又は FIS ポイントにおいて順位が高い選手が上位となる。ヒート内で次のラウンドに進まなかった選手は、新しいヒート・ブラケット(グループ)に分けられる。ヒート内で3位の選手同士が滑り、4位の選手同士が滑る。
1/16ファイナルで、3位又は4位の選手は、33位から64位を決定するため、順位決定・クォーターファイナルとファイナル(またはスモールファイナル)を滑る。
1/8ファイナルで3位又は4位の選手は、17位から32位を決定するため、セミファイナルとファイナル(またはスモールファイナル)を滑る。
1/4ファイナルで3位又は4位でない選手は、9位から16位を決定するため、セミファイナルとファイナル(またはスモールファイナル)を滑る。
64名以上の選手がいる場合、敗者のラウンドは、最大2ラウンドに限られる。これらのラウンドの後、選手は、それぞれの順位のタイとなる。(2015.6 改正)
- 2705.3 最終リザルト
予選に出場した選手達は、その予選の結果にて順位が決まる。勝ち進めなかった(決勝に進めなかった)タイの選手は、最終リザルトおよび部分的なりザルト(予選リザルト)には、同位にて掲載される。
- 2705.4 **ビブ/選手の識別**
- 2705.4.1 コースジャッジからよく見えるように前と後ろ及び袖の部分に番号のついたビブをつける。
Cd
- 2705.4.2 予選用のビブは、17 番あるいは 33 番から使用する。(決勝のペア数による)。それよりも小さい番号は決勝のために使わずに残しておく。
- 2705.4.3 選手(4~6 名)の見分けを容易にするために、競技用ビブに加えて色の異なるカラービブまたはアームバンド、レッグバンドを使ってもよい。カラービブを利用する際は、より見やすいように、前の腕か前の足につけること。
(条項 2707.2 参照)

2705.5

旗門ジャッジ

スノーボードクロスでは、4～8名の旗門審判員(コントロールセクションジャッジがフィニッシュ審判およびその他のジュリーと連絡するための無線を携帯した)が必要である。これらのコントロールセクションジャッジは規則(インスペクション、トレーニング、旗門における失格、及び接触など)に精通していなければならない。

2705.6

競技ウェア

スノーボードクロスの競技ウェアは、上着とパンツに分かれた2ピースでなければならない。フィットしたものやダウンヒルスーツは使用できない。凹凸のないプロテクターやパッドは推奨される。保護用具は体に装着していなければならない。紐や固定装置、または他の方法でウェアを締めてはならない。すね当てはこのルールから除外される。

2706

スノーボードクロスにおける決勝の組み合わせ

決勝における対戦選手の組み合わせは、次の通りである。

2706.1

決勝**1 ヒートにつき 4 名、男子 32 名の場合の 8 ヒートのランキング**

Heat #	1 st position	2 nd position	3 rd position	4 th position
1	1	16	17	32
2	8	9	24	25
3	5	12	21	28
4	4	13	20	29
5	3	14	19	30
6	6	11	22	27
7	7	10	23	26
8	2	15	18	31

2706.2

1 ヒートにつき 4 名、女子 16 名の場合の 4 ヒートのランキング

Heat #	1 st position	2 nd position	3 rd position	4 th position
1	1	8	9	16
2	4	5	12	13
3	3	6	11	14
4	2	7	10	15

2706.3

1 ヒートにつき 6 名、男子 48 名の場合の 8 ヒートのランキング

Heat #	1 st position	2 nd position	3 rd position	4 th position	5 th position	6 th position
1	1	16	17	32	33	48
2	8	9	24	25	40	41
3	5	12	21	28	37	44
4	4	13	20	29	36	45
5	3	14	19	30	35	46
6	6	11	22	27	38	43
7	7	10	23	26	39	42
8	2	15	18	31	34	47

2706.4

1 ヒートにつき 6 名、女子 24 名の場合の 4 ヒートのランキング

Heat #	1 st position	2 nd position	3 rd position	4 th position	5 th position	6 th position
1	1	8	9	16	17	24
2	4	5	12	13	20	21
3	3	6	11	14	19	22
4	2	7	10	15	18	23

2706.5

1 ヒートにつき 4 名、男子 62 名の場合の 16 ヒートのランキング

Heat #	1 st position	2 nd position	3 rd position	4 th position
1	1	32	33	64
2	16	17	48	49
3	9	24	41	56
4	8	25	40	57
5	5	28	37	60
6	12	21	44	53
7	13	20	45	52
8	4	29	36	61
9	3	30	35	62
10	14	19	46	51
11	11	22	43	54
12	6	27	38	59
13	7	26	39	58
14	10	23	42	55
15	15	18	47	50
16	2	31	34	63

2706.6

条項 2705.1.4 に従い、予選を通過した選手の順位

12-16 人の場合:ルール 2706.2

24-32 人の場合:ルール 2706.1

48-64 人の場合:ルール 2706.5

2706.6.1

アンバランスな選手数の場合のヒートランキング

選手のフィールドサイズが、9-11、17-23、33-47の場合、ヒートの組み合わせは次のとおりになる。

9-11選手

Heat #	1 st position	2 nd position	3 rd position
1	1	8	
2	4	5	9
3	3	6	10
4	2	7	11

17-28選手

1	1	16	
2	8	9	17
3	5	12	20
4	4	13	21
5	3	14	22
6	6	11	19
7	7	10	18
8	2	15	23

33-47選手

1	1	32	
2	16	17	33
3	9	24	40
4	8	25	41
5	5	28	44
6	12	21	37
7	13	20	36
8	4	29	45
9	3	30	46
10	14	19	35
11	11	22	38
12	6	27	43
13	7	26	42
14	10	23	39
15	15	18	34
16	2	31	47

2706.7 **総当たり戦(RR ラウンドロビン)方式**

スノーボードクロスはグループヒート(総当たり戦:RR ラウンドロビン)方式によって行われる。

2706.7.1 **グループヒート方式**

予戦の順番に基づいて、決勝のグループヒートに16名がシードされる。

5つのグループヒートラウンドがあり、そこで各選手はそれぞれのラウンドで他の各選手と競技を行います。

2706.7.2 **各ヒートにおける順位決め**

2706.7.2.1 **フィニッシュラインでの順位**

各ヒートにおける順位は身体の一部またはスノーボードがフィニッシュラインを先に通過した順で決定される。

2706.7.2.2 **フィニッシュラインカメラ**

フィニッシュラインカメラ(ビデオまたは写真)が用意しなければならない。(Timing Booklet Snowboard Cross Set-Up Level 参照)

- 2706.7.3 総当たり戦(ラウンドロビン)でのグループヒートにおける順位
各ヒートでの彼らの順位に応じたポイントが選手に与えられる。
1位には4ポイント、2位には3ポイント、3位には2ポイント、4位には1ポイント、ヒートにおいてスタートしなかった(DNS)選手には0ポイント
- 2706.7.4 各ヒートでの順位に基づいたポイント表
- | 順位 | ポイント |
|-----|------|
| 1位 | 3 |
| 3位 | 2 |
| 4位 | 1 |
| DNS | 0 |
- 2706.7.5 総当たり戦(ラウンドロビン)グループヒートでの中間順位
20ヒート終了後、グループヒートの段階中に得点を獲得した各選手の総合得点に基づいて、1位から16位の中間順位が発表される。競技会を完了することができない場合、中間順位を最終結果として使用することができる。
- 2706.7.6 総当たり戦(ラウンドロビン)グループヒート中の失格(DIC)
グループヒート中に失格になった選手は次のグループヒートや準決勝さらに決勝へは進めない。
- 2706.7.7 準決勝進出者(欠員の補充)
DNSになる選手が原因で準決勝のいずれかのヒートが4人に満たない場合、グループヒートからの準決勝進出者の範囲を(9位-16位)、各ヒートが4人の選手になる様に、足りない人数分を各ヒートで増やす事ができる。(例えば、準決勝の1つのヒートが3人しか選手がいない場合、準決勝進出者の範囲を1名増やす:9位-16位)
- 2706.7.8 準決勝
総当たり戦(RR)方式で上位8名に選出された選手が準決勝へ進出する。
- 2706.7.9 準決勝進出者
1位、4位、5位、8位の選手はセミファイナル1へ、2位、3位、6位、7位の選手はセミファイナル2へ進出する。(4506.3を参照)
- 2706.7.10 スモールとビッグファイナル進出者
それぞれのセミファイナルで1位と2位になった選手はビッグファイナルへ、それぞれのセミファイナルで3位と4位になった選手はスモールファイナルへ進出する。
- 2706.7.11 全選手の最終順位
最終順位での5位-8位はスモールファイナルの結果による。最終順位での1位-4位はビッグファイナルの結果による。
スモールファイナルが完了できない場合は、セミファイナルの敗者は、まず進出時に何位だったか(3位、4位)、さらに彼らのグループ内の予選順位によって、順位を決める。

2706.7.12 決勝前のヒートでのタイ

2706.7.12.1 タイブレイク・ルール

2706.7.12.2 グループヒートにおけるタイブレイク・ルール

あるヒートで回避不可能な(アンブレイカブル)タイになった場合、タイになった全選手は同じポイントを受け取る。

2706.7.12.3 グループヒート後のタイブレイク・ルール

2人の選手がタイになった場合、彼らに共通のヒートで順位が高い方が上位になる。それでもタイならば、予選順位の良い方が次に進出する。

3人以上の選手がタイになった場合、彼らの予選順位に基づいて、勝者を決める。

2706.7.12.4 セミファイナル中のタイブレイク・ルール

タイになった2名のうち、その前に行った同じヒートでの結果が上位の者が次に進出する。それでもタイならば、予選順位の良い方が次に進出する。それでも尚タイならば、FIS ポイントの上位の者が次に進出する。

2706.7.12.5 決勝における回避不可能な(アンブレイカブル)タイ

スモールファイナルまたはビッグファイナルにおいて回避不可能な(アンブレイカブル)タイになった場合、彼らはタイのままにしておく。

2706.7.13 フィニッシュしない選手の順位

一人以上の選手がコース途中で棄権した場合、またはフィニッシュラインを切らない場合、そのヒートの順位は、その選手が到達したコースの場所による。

そのコースにおいて、より遠くまで到達した選手が、上位の順位を受け取る。

2706.7.14 総当たり戦(ラウンドロビン)でのグループヒートのシーディング表
 中間段階における組み合わせは以下のグループヒート形式による。

グループ	ヒート	グループヒートごとのピブの割り当て			
		R	G	B	Y
1	1	1	2	3	4
	2	5	6	7	8
	3	9	10	11	12
	4	13	14	15	16
2	1	1	5	9	13
	2	2	6	10	14
	3	3	7	11	15
	4	4	8	12	16
3	9	1	6	11	16
	10	2	5	12	15
	11	3	8	9	14
	12	4	7	10	13
4	13	1	7	12	14
	14	2	8	11	13
	15	3	5	10	16
	16	4	6	9	15
5	17	1	8	10	15
	18	2	7	9	16
	19	3	6	12	13
	20	4	5	11	14

2707 スタート

2707.1 スタート台とスタートゲート

スタート台は、選手がスタートラインにゆったりと立つことができ、素早いスタートができるように準備しなければならない。すべての競技において、プッシュオフポストをスタートゲートの一部に取り付けるものとする。スタート台の仕様は各競技の必要性に合わせて調整する。4人/6人用のスタートゲートは、同時にゲートが開き、選手が自分自身で開けられないようになっていなければならない。スタートブロック(スタートゲートの板の裏側)は、スノーボードを保護するためにテフロンで覆われていなければならない。その装置は、信頼性があり持ち運びができ機械的にコントロールされたものである。それ故、電子的な装置は FIS が許可しない限り認可されない。ワールドカップ、世界選手権大会、冬季オリンピックにおいて、FIS の認可を得たスタート装置を使用することができる。

スタート装置の寸法は:

ゲート間の幅: 90 - 100cm

(推奨値は 100cm)
ボードの高さ: 30 - 40cm
(推奨値は 40cm)
ハンドル間の幅: 80 - 90cm
(推奨値は 80cm)

ハンドルの長さ: 10cm
ハンドルの幅: 3 - 4cm
(推奨値は 4cm)
調整式の“ハンドル”: 可能
ゲートとの距離: 5 - 60cm
(推奨値は 60cm)

2707.2

スタート・レーン — 2つの方法:
a)各スタート・ポジションは色および/あるいは番号で識別される。
上から下へ見て左から右へポジションを設定する。
色の場合: 赤-緑-青-黄 (白-黒)
番号の場合: 1-2-3-4 (5-6)

b)各ヒート内で予選順位で色を決める:
予選で最も速かった選手の色は: 赤
予選で2番目に速かった選手の色は: 緑
予選で3番目に速かった選手の色は: 青
予選で4番目に速かった選手の色は: 黄
予選で5番目に速かった選手の色は: 白
予選で6番目に速かった選手の色は: 黒

2707.3

スタートレーンの選択
各ヒートにおけるスタートレーンは、予選タイムにのみ基づいて選択される。
予選タイムが1番の選手がまず自分のレーンを選び、次に2番の選手、3番の選手と
いった具合にヒートごとに順番にレーンを選択する。
スタートし損なった場合は失格や制裁となる。競技に参加できる時間にスタートに到着
するのは、選手の責任である(条項:2022を参照のこと)。

2707.4

スタート合図
「選手、用意(Riders ready)」注意(Attention)ゲートはランダムに1秒から4秒の間で
オープンする。(この1秒から4秒はスターターの任意)

2707.5

不正スタートまたはスタートゲート不具合
次の場合失格や制裁となる
-選手がスタートゲートを操作した場合
-スタート合図が出る前に、選手の板がスタートラインを通過しようとした場合
(ドアが開く前に)
-スタート合図が出る前に、スタートゲートが技術的不具合によって明らかに
作動しなかった場合、スタートはやり直しとなる。
-スタートゲートが技術的不具合によって、スターター以外の一人の選手に
よって開けられた場合、スタートはやり直しとなる。

2708

接触行為

他の選手を減速または転倒させたり、コース外に押し出したりするような、押す、引っ張

る、通過を妨げるために他の選手の前で腕を広げてポジショニングする、その他の手段
身体の意図的な動きにより進路を遮断すること、また、遮断をするために急激かつ過激
に滑走ラインを変更することは認められない。記載される全ての意図的な接触は、自動
的に失格となる制裁の理由となる。避けようのない偶発的接触は許される。接触による
違反は、コースジャッジ及び競技ジュリーの最良で判断される。

2709 抗議

2709.1 抗議の報告

失格や制裁は各ヒート終了直後に、アナウンスされ、かつ／またはコースのスタートおよ
び／あるいはフィニッシュの決められた場所に掲示される。いかなる抗議もフィニッシュ
係長及び他のジュリーメンバーまたはジュリーの指名した者(チームキャプテンで発表さ
れた)に次のヒートが始まる前に報告されなければならない。この後の抗議は受け付けら
れない。

他の選手に妨害をされた選手は抗議をする権利を得るために滑走を中断して手をあげ
る必要はない。抗議は書面でされなくても良いが、この点以外は他の全てのICR規則が
適用される。抗議費用は試合終了時または終了以前に支払われなければならない。

2709.2 意図的な接触による失格や制裁の扱い

意図的な接触をして失格や制裁になった選手は自動的にそのヒートの最下位となり、
DIC とリザルトリストに表示される。他の選手は全員、この意図的な接触の犠牲者も含め、
フィニッシュした順で順位がつく。

SBX で意図的な接触の場合の再レースは実施されない。

再レースは不可抗力またはそのヒートの選手以外の者に選手が妨害された場合にのみ
認められる。

2710 最終順位

2710.1 6 選手方式

1～6 位までの選手は、決勝ヒートのフィニッシュ順に従って順位が決定する。7～12 位
までの選手は、敗者復活戦のフィニッシュ順に従って順位が決定する。残りの選手は全
員、出場したラウンド(例えば準々決勝)とそのラウンドにおける予選タイムに従って順位
が決定する。順位によって(4 位、5 位、6 位)最初にランク付けされたラウンドの中やグ
ループ(例えば、準々決勝の各ヒート4位の選手は、予選タイムによって5位の前にラン
クされ、各ヒート5位の選手は6位の前にランク付けされる。

2710.2 4 選手方式

1～4 位までの選手は、決勝ヒートのフィニッシュ順に従って順位が決定する。5～8 位ま
での選手は、敗者復活戦のフィニッシュ順に従って順位が決定する。順位により(3 位、
4 位)最初にランク付けされたラウンドとそのラウンドにおける予選タイムに従って順位が
決定する(例えば、準々決勝で各ヒートの3位の選手は、予選タイムにより、4位の選手よ
り上位にランクされる)。

2710.3

SBX 決勝における DNF、DSQ、DNS

- a) DNF/DSQ(競技上の事由による失格) は予選タイムにより 4 位にランクされる。
- b) 2 名以上 DNF/DSQ がいた場合、予選タイムによりそのヒートで 3 位または 4 位にランクされる
- c) DSQ(インターナショナルコンタクトなど)は、4 位の選手の後にランクされ、DNS の選手は最後にランクされる。(2014.6 改正)

32 名ラウンドまたは 16 名のラウンドで棄権(DNS)した選手は自動的に 32 位または 16 位の順位がつく。棄権した選手が 2 名以上いる場合、各選手の予選タイムに応じて、31 位、32 位(15 位、16 位)というように順位が決定する(棄権した選手が 3 名以上いる場合は、同様に 30 位、31 位、32 位(14 位、15 位、16 位)となる)。2705.1.4 に記載されているタイムトライアルなしのフォーマットの場合、第 1 ラウンドをスタートしない選手は、リザルトリストに DNS と表示される。(2014.6 改正)

2711

スノーボードクロスチーム(SBX チーム)

2712

テクニカルデータ

正規の SBX 大会と同じように標高差や全長/斜度は同じルールが適用される。(条項 2701.1-2701.4.4 を参照)

2713

コース

正規の SBX 大会と同じようにコースとコース整備について(一般的特徴いる?)は同じルールが適用される(条項 2702.1-2702.2 を参照)

2714

コースセッティング

正規の SBX 大会と同じようにコースセッティングについては同じルールが適用される(条項 2703.1-2703.2 を参照)

2715

インスペクション/トレーニング

選手は、コース沿いかコース内をゆっくりと滑り降りながらコースをインスペクションすることが認められている。インスペクションを行う時間は競技ジュリーの任意であるが、15 分以上とする。選手は見えやすい場所にビブを装着し、ヘルメットを着用しなければならない。各々のコースにつき、実際の競技開始前に最低 1 回の公式トレーニングをすることが義務づけられる。可能であればウォームアップのために少なくとも 30 分は行う。

2716

SBX チームの実施

2716.1

予選

参加国チームを決定する際に、ワールドカップまたは COC カップのスタンディングリストまたは FIS ポイントリストいずれかの最も新しいものが使用される。どんな場合でも男子 60 名、女子 30 名が選ばれる。リストは国ごとにそして各国の上位から下位にて分類される。すべての国のペア毎の上位から下位のポイントが合算される。国チームはそのポイントによってランクされ、始めに、チームは各国で一番高いランクのチームが選ばれ、次

にリストの上から 2 番目のランクのチームを選ぶというように、女性 8 チーム、男性 16 チームが決まるまで、必要があれば繰り返す。

2716.2

シード

チームは一般的なワールドカップ SBX のポイントによってランク付けされる

2716.3

チームフィールド

過去のチームの予選でシードが決定され、各国はどの選手(*)でも選ぶことができる。しかし、各選手 1 つのチームでしか競技できない。競技開始にあたってシードミーティングで各チームどの選手を入れるか公表しなければならない。どの選手が 1 及び 2 番目に滑走するか各国で決める。一般的な SBX 大会と同様、コースは各国で決める。チームがレーンを選択した後、どの選手が第 1 走者であるか公表する。レーン選択は、シード 1、シード 2、シード 3、シード 4 の順に行い、選手の滑走順は、シード 4、シード 3、シード 2、シード 1 の順に公表する。

* ワールドカップ/コンチネンタルカップでのスタンディングリスト又は FIS ポイントリスト (どちらか高い方) の上位男子 60 名、女子 30 名が最低条件となる。さらに、全ての選手は SBX の各国一般出場枠内の一部でのエントリーとならなければならない。

2716.4

競技

SBX チーム戦では、各チームの第 1 走者は、前足の膝下～足首の上にトランスポンダを装着する。第 1 走者は、従来の SBX のスタート音で両ゲートが同時に開いてスタートする。選手がスタートゲートを出るとすぐにゲートを閉めて次の選手が整列する。2 番目の選手はコースを入れ替える。(1 番目の選手が赤コースであれば、2 番目の選手は青コース) 第 1 走者がフィニッシュラインを通過した時、トランスポンダがそのチームだけに信号を送り個々にスタートゲートが開く。第 1 走者が DNF の場合、第 2 走者のゲートは開かない。第 2 走者が先にフィニッシュラインを通過したチームが次のラウンドに進出する。

2716.5

ビブ/選手の確認

2716.5.1

コースジャッジから見やすい、前後と袖に番号が書かれたビブを使用する

2716.5.2

競技者の識別をするために、異なる色のビブを使用しなければならない。国のユニフォームは許可されるが、他のライダー/チームとははっきり区別できるようにする必要がある。カラービブを使用する場合、次の色を使用しなければならない。赤、緑、青、黄色、白、黒。

2716.6

ゲート役員

一般的な SBX 大会と同様にゲートジャッジのルールが適用される(条項 2705.5 を参照)

2716.7

競技ウェア

一般的な SBX 大会と同様に競技ウェアのルールが適用される(条項 2705.6 を参照)

- 2717 スタート**
一般的な SBX 大会と同様に、スタートランプ、スタートゲート、スタートレーンのルールが適用される(条項 2707.1-2707.2 を参照)スタート合図、不正スタート、スタートゲートの不具合も同様(条項 2707.4-2707.5)
- 2717.1 スタートレーンの選択**
スタートレーンの選択は、各ヒートのシードポジションが基になる。先のシードチームが最初にレーンを選ぶことができる。スタートミスは、失格/制裁が審議される。競技に遅れずに到着することは選手の責任である。(条項 2022 参照)
- 2717.2 スタートストップ**
第1ヒート走者がコース上でクラッシュした場合(コースの安全でない場所にいるとき)、第2ヒート走者のゲートが開く前にヒートを止める必要がある。この場合、第1ヒート走者のみのリザルトになる。どこかのヒートでフィニッシュしたのが一人だけの場合、第1ヒート走者でフィニッシュしたものが次に進む。コースがクリアになったら、他の残っているチームの第2ヒート走者は、全員同時にスタートし、2番手に進むチームを決める為に競技を行う。失格したチームは参加できない。コースクリアになったか視認ができるレースディレクターによってのみ、スノーボード(SBX)チームイベントのスタートストップが決定されるべきである。ゴールイン時のそれぞれの時間の遅れがあった場合や(例えばワールドカップ)、ペナルティタイムの上限によってのみ、スタートゲートは解放状態にできる。
一人以上の選手が一走目を終え、第2ヒート走者のゲートが開けられる前にスタートが止められてた場合、コースがクリアになったら、それぞれの時間の遅れやペナルティタイムの上限を加えたうえで第2ヒートの走者をスタートさせる。
3秒を上限とした性別、種目別の個人の最高予選タイムの平均の3%を取って、ペナルティタイムは計算される。[例えば、
 $(1:04+1:02+0:56+0:58)/4=60\text{sec} \times 3\%=1.8\text{sec}$ この計算の参考になる個人の
レースタイムが無ければ、結果はレースジュリーによって評価され承認されなければならない。
- 2718 コンタクト**
一般的な SBX 大会と同様にコンタクトのルールが適用される。
(条項 2708 を参照)
- 2719 プロテスト**
一般的な SBX 大会と同様にプロテストのルールが適用される。
(条項 2709-2709.2 を参照)
- 2720 ファイナルランキング**
- 2720.1 4 選手方式**
1~4 位までのチームは、決勝ヒートのフィニッシュ順に従って順位が決定する。5~8 位までのチームは、敗者復活戦のフィニッシュ順に従って順位が決定する。他のチームはシード順によって順位が決定する。

2720.2

SBX 決勝における DNS、DSQ、DNF

16 名ラウンドまたは 8 名のラウンドで棄権 (DNS) した選手は自動的に 16 位または 8 位になる。棄権した選手が 2 名以上いる場合、各チームのシード順に応じて、16 位、15 位 (8 位、7 位) になる。棄権した選手が 3 名以上いる場合も同様。

順位: DNF/DSQ (スポーツ失格/制裁による) が上にランクされ、DSQ (意図的な接触などによる) は 2 番目にランクされ、DNS は 3 番目にランクされる。

2800 ビッグエア

2801 テクニカルデータ

	ビッグエアー基準	基準値
	スタート基準	
SA (m)	スタートエリア	Length min. 5,0 m
DW (m)	ドロップインランプ幅	min. 5,0 m
DP (m)	ドロップインプラットフォーム長さ	min. 5,0 m
DL (m)	ドロップインランプ長さ	min. 30,0 m
DI (°)	ドロップインランプ傾斜	min. 20,0 °
DF (m)	Drop-in Ramp Flat, light transition	5,0 - 10,0 m
	area before jump	
	Jump Criterias	
JH (m)	Height of Jump. (bottom part of the	min. 2,0 m
	flat to the top of kicker)	
JT (°)	Take-off Angle of Jump	min. 25,0°
JW (m)	Width of Jump	min. 5,0 m
	Landing Criterias	
LF (m)	Take-off to Landing	min. 10,0 m
	for Level A	min. 15,0 m
LI (°)	Landing Inclination	
	according to take-off	min. 28,0°
LW (m)	Landing Width	min. 20,0 m
LL (m)	Landing Length	min. 35,0 m
	Finish Criterias	
FA (m)	Finish Area Length	30,0 m (min. 20,0m)
FW (m)	Finish Area Width	30,0 m (min. 20,0m)
	競技レベル	
Level A	OWG, WSC, WJC, WC, YOG	
Level B	COC, UVS	
Level C	NC, FIS, EYOF, JUN	

2802 ビッグエアコース

2802.1 ビッグエアコースは、前項の仕様に適合していなければならない。
(条項 2801)

2802.2 ビッグエアの競技場は、遅くとも競技開始の前日には完成し、トレーニングできるように準備が整っていないなければならない。ドロップインは、選手がジャンプに適切なスピードを出せるようにするためのエリアである。ランディングは、フリップとスピンの両方に合った正しい角度でなければならない。

2802.3 公式なキッカー内で行われた技のみが採点対象となり、公式なキッカーの前や後の技はスコアに入らない。

2803 トレーニング

ビッグエア種目では、トレーニングは義務である。トレーニングには、選手の流れを管理するためにスターターが立ち会う。トレーニング時間は、最初のチームキャプテンミーティングでジュリー(TDあるいは競技委員長)から伝達される。

2804 競技方式

2804.1 予選—予選ラウンド

予選は、決勝と同じ日に実施する。

スタート順(最初に女子か男子)は、最初のチームキャプテンミーティングで伝達される。

予選では、次の要領で2回滑走が行われる。

- 第1ラウンド:全選手がスタートする。最初のラウンドのスコアが男子の場合で上位5位まで、女子の場合で上位3位までの選手が決勝に進出する。
- 第2ラウンド:第2ラウンドには、残りの選手が全員出場する。男子の場合で上位5位まで、女子の場合で上位3位までの選手が決勝に進出する。

2804.2 決勝

2804.2.1 3本のうちの2本採り

決勝では、男子12選手、女子6選手が3回の滑走が可能となる。各選手のスコアのうち、得点の高い2つだけが評価の対象となる。3回の滑走のうち、得点が高い方から2つのスコアの合計点によって、勝者が決定する。

2804.2.2 2本のうちの1本採り

決勝の2本の滑走のうち良い方1本の得点を評価対象とする。ジュリーの決定により、この場合決勝2本目の出走順は、決勝1本目の順位との逆順となる。

2804.3 ヒート形式

2804.3.1 予選

選手は男子5~35名、女子5~25名ずつのいくつかのヒートに分けられる。

2804.3.2

シード分けは次の通りに行う:

- ヒートの数は、TC ミーティングの前にジュリーが時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。
- 選手はビックエアでワールドカップ・ポイントリストまたは FIS ポイントリストで個人最高順位の順に並べられる。(高い方のポイントでタイの場合はもう片方のリストの順位で決定する。尚タイの場合は抽選(ドロー)で順を決定する。)ワールドカップ競技では、ワールドカップスノーボードポイントリストに従う。どのポイントリストを使用するかは、チームキャプテンミーティングまでに告知されなければならない。
- 2 つのヒートになる場合は順番の偶数と奇数で分ける:
ヒート 1: 順番 1, 4, 5, 8, 9 等 ヒート 2: 順番 2, 3, 6, 7, 10 等
- 3 つのヒートになる場合は順番に従って 3 つに分ける:
ヒート 1: 順番 1, 6, 7, 12 等 ヒート 2: 順番 2, 5, 8, 11 等
ヒート 3: 順番 3, 4, 9, 10 等
- 4 つのヒートになる場合は順番に従って 3 つに分ける:
ヒート 1: 順番 1, 8, 9, 16 等 ヒート 2: 順番 2, 7, 10, 15 等
ヒート 3: 順番 3, 6, 11, 14 等 ヒート 4: 順番 4, 5, 12, 13 等
- 各ヒートとも 15~30 分間(ジュリーが決定する)のウォームアップを行い、すぐに引き続き予選 2 本を行い、そのうちのよい方 1 本が採用される。
- Each heat will receive a warm-up period of 15-30 minutes(Subject to determination by the Jury). The two(2)qualification jumps will directly follow the applicable warm-up period with the best jump to count.

2804.3.3

予選から決勝進出は次の通りに決まる

男子

2 ヒート形式の場合: 各ヒート上位 6 名以上

3 ヒート形式の場合: 各ヒート上位 4 名以上

女子

2 ヒート形式の場合: 各ヒート上位 3 名以上

3 ヒート形式の場合: 各ヒート上位 2 名の選手

2804.3.4

決勝:(男子 10 名以上/女子 6 名以上 - 3 本のうちの 2 本採り)

決勝では、男子 10 選手以上、女子 6 選手以上が 2~3 回の滑走が可能となる。各選手のスコアのうち、得点の高い 2 つだけが評価の対象となる。3 回の滑走のうち、得点が高い方から 2 つのスコアの合計点によって、勝者が決定する。

決勝 1 本目のスタート順

2 ヒートの場合

予選の結果にてシードされ、予選の結果により、各ヒートの 1 位が最後または最後から 2 番目にスタートする。各ヒートの 2 位は最後から 3 番目または 4 番目にスタートする。

3 ヒートの場合

予選の結果にてシードされ、予選の結果により、各ヒートの 1 位が最後または最後から 2 番目または最後から 3 番目にスタートする。各ヒートの 2 位は、最後から 4 番目または 5 番目または 6 番目にスタートする。

決勝 2 本目のスタート順

決勝 2 本目のジャンプのスタート順は決勝 1 本目と同じスタート順となる。

決勝 3 本目のスタート順

3 本目のジャンプを行う選手の数には、ジュリーの判断で変更できる。

スタート順は、決勝 1 本目と 2 本目と同じ順となる。

ランキング

各選手の最終スコアは 3 本のジャンプのうち良い方 2 本で決まる。これらの 2 本のジャンプは異なるものでなければならない。もし 2 本のみであれば m 個人得点の高い方がカウントされる。決勝 1 本目と 2 本目の良い方と 3 本目の合計で決まる。採点されたトリックは、1 本目または 2 本目と 3 本目では異ならなければならない。3 本目は必ず採点される。

異なるジャンプは

-異なる向きのアプローチからのジャンプ (例:レギュラー/ノーマルスタンスあるいはスイッチスタンス)

-異なる向きからのテイクオフ (例:フロントサイドあるいはバックサイド)

-ストレートフロントフリップ/ストレートバックフリップ

2804.4 ノックアウト競技形式

2804.4.1 予選

選手は男子 15~30 名ずつのいくつかのヒートに分けられる

2804.4.2

シード分けは次の通りを行う: (条項 2804.3.2 参照)

- ヒートの数は、TC ミーティングの前にジュリーが時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。

- 選手はビックエアーにおいて、最新のワールドカップ・コンチネンタルあるいは、FIS ポイントリストで個人最高順位の順に並べられる。(高い方のポイントでタイの場合は、もう片方のリストの順位で決定する。尚タイの場合は抽選(ドロー)で順を決定する。) ワールドカップ競技では、ワールドカップスノーボードポイントリストに従う。どのポイントリストを使用するかは、チームキャプテンミーティングまでに通達されなければならない。

- 2 つのヒートになる場合は順番の偶数と奇数で分ける:

ヒート 1: 順番 1、3、5、7 等 ヒート 2: 順番 2、4、6、8 等

- 3 つのヒートになる場合は順番に従って 3 つに分ける:

ヒート 1: 順番 1、4、7 等 ヒート 2: 順番 2、5、8 等

ヒート 3: 順番 3、6、9 等

- 各ヒートとも 15~30 分間(ジュリーが決定する)のウォームアップを行い、すぐに引き続き予選ジャンプ 2 本を行い、そのうちのよいジャンプ 1 本が採用される。

2804.4.3

決勝への進出は次の通りに決まる:

男子

2ヒートの場合: 各ヒートの上位 8名の選手

3ヒートの場合: 各ヒートの上位 5名の選手+残る全選手のうち最も得点の高い選手 1名

決勝:(男子 16名 - 1対1)

1対1形式決勝の組み合わせ:

1組: 1位 - 16位

2組: 8位 - 9位

3組: 5位 - 12位

4組: 4位 - 13位

5組: 3位 - 14位

6組: 6位 - 11位

7組: 7位 - 10位

8組: 2位 - 15位

2804.4.4

1対1形式決勝の仕組み:

- 1/8ファイナル(準々々決勝)

- 1/4ファイナル(準々決勝)

- 1/2ファイナル(準決勝)

- スモール・ファイナル(3位 4位決定戦)とビッグ・ファイナル(決勝)

- 1/8ファイナル(準々々決勝)

1/8ファイナルの各組の勝者が1/4ファイナルに進む。

- 1/4ファイナル(準々決勝)

1/4ファイナルの各組の勝者が1/2ファイナルに進む。

- 1/2ファイナル(準決勝)

1/2ファイナル各組の勝者はビッグ・ファイナルへ進む。

1/2ファイナル各組の敗者はスモール・ファイナルへ進む。

- スモール・ファイナル(3位 4位決定戦)とビッグ・ファイナル(決勝)

ビッグ・ファイナルの勝者は1位となる。

ビッグ・ファイナルの敗者は2位となる。

スモール・ファイナルの勝者は3位となる。

スモール・ファイナルの敗者は4位となる。

- ジャンプ 2本のうち良い方のジャンプがカウントされる。

- 勝者が進む。

- 予選得点の高い方の選手が決勝ラウンドを通じてずっと2番目にスタートする。

- 1位~2位: ビッグ・ファイナルで順位が決まる。

- 3位~4位: スモール・ファイナルで順位が決まる。

- 5位~8位: 予選結果で順位が決まる。

- 9位~16位: 予選結果で順位が決まる。

2804.4.5 選手は、ノックアウト形式の決勝において勝つために 2 回同じ演技をすることができる。
(最大で 4 回の勝つためのジャンプをする)

決勝において、もし選手が同じ演技を 2 回以上した場合、2 番に高い演技が採点される。
その後また同じ演技を行った場合、JNS を受けることになる。(Jump Not Scored)

決勝:(最低 12 男/最低 6/女-ベスト 2 本:3 本の滑走の内)

異なる演技としてみなされるためには、少なくとも次のいずれか一つの基準を満たしていなければならない:

- 異なる向きのアプローチからのジャンプ(例:レギュラー/ノーマルスタンスあるいはスイッチスタンス)
- 異なる向きからのテイクオフ(例:フロントサイドあるいはバックサイド)
- ストレートフロントフリップ/ストレートバックフリップ

2804.5 ノックアウト競技形式(準決勝あり)

2804.5.1 予選

選手は、男子 15~30 名、女子 15-25 名ずつのいくつかのヒートに分けられ

る。

2804.5.2 シード分けは次の通りを行う:

-ヒートの数とその人数は、TC ミーティングの前に Jury が時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。

-準決勝が行われるかどうかは TC ミーティングの前に Jury が時間と試合にエントリーしている参加者の数に基づいて決定する。

-選手はビッグエアにおいて、最新のコンチネンタルカップリストあるいは FIS ポイントリストで個人最高順位の順に並べられる。

-高い方のポイントでタイの場合は、下のカテゴリーのポイントで決定する。尚タイの場合は抽選(ドロー)で順番を決定する。ワールドカップ競技において、選手はワールドカップスノーボードポイントリストを用い、順に並べられる。使用されるリストは、チームキャンプ テンミーティング(ドロー)の前に、告知されなければならない。

-2 つのヒートになる場合は、順番の偶数と奇数で分ける:

ヒート 1: 順番 1、3、5、7 等 ヒート 2: 順番 2、4、6、8 等

-3 つのヒートになる場合は順番に従って 3 つに分ける:

ヒート 1: 順番 1、4、7 等 ヒート 2: 順番 2、5、8 等

ヒート 3: 順番 3、6、9 等

-各ヒートとも 15~30 分間(Jury が決定する)のウォームアップを行い、すぐに引き続き予選ジャンプ 2 本を行い、そのうちのよいジャンプ 1 本が採用される。

2804.5.3

予選から決勝への進出は次の通りに決まる:

男子

2ヒートの場合: 各ヒートの上位4名の選手 (4+4=8)

3ヒートの場合: 各ヒートの上位3名の選手 (3+3+3=9)

女子

1ヒートの場合: 各ヒートの上位4名の選手 (4)

2ヒートの場合: 各ヒートの上位2名の選手 (2+2=4)

2804.5.4

準決勝から決勝への進出は次の通りに決まる:

男子

2ヒートの場合: 各ヒートの5位-12位の選手 (8+8=16)

3ヒートの場合: 各ヒートの4位-8位の選手 (5+5+5=15)

女子

1ヒートの場合: 各ヒートの5位-12位の選手 (8)

2ヒートの場合: 各ヒートの3位-6位の選手 (4+4=8)

2本のジャンプを行いそのうちの良い方1本の得点にて、次のように決勝へ進出する:

男子

2ヒートの場合: 上位1位-8位の選手

3ヒートの場合: 上位1位-7位の選手

女子

1ヒートの場合: 上位1位-4位の選手

2ヒートの場合: 上位1位-4位の選手

2804.5.5

決勝

男子(16名 - 1対1)

1対1形式決勝の組み合わせ:

1組: 1位 - 16位

2組: 8位 - 9位

3組: 5位 - 12位

4組: 4位 - 13位

5組: 3位 - 14位

6組: 6位 - 11位

7組: 7位 - 10位

8組: 2位 - 15位

女子(8名 - 1対1)

1対1形式決勝の組み合わせ:

1組: 1位 - 8位

2組: 4位 - 5位

3組: 3位 - 6位

4組: 2位 - 7位

1 対1形式決勝の仕組み:

-1/8 ファイナル(準々々決勝)

-1/4 ファイナル(準々決勝)

-1/2 ファイナル(準決勝)

-スモール・ファイナル(3位4位決定戦)とビッグ・ファイナル(決勝)

-1/8 ファイナル(準々々決勝)

1/8 ファイナルの各組の勝者が1/4 ファイナルに進む。

-1/4 ファイナル(準々決勝)

1/4 ファイナルの各組の勝者が1/2 ファイナルに進む。

-1/2 ファイナル(準決勝)

1/2 ファイナル各組の勝者はビッグ・ファイナルへ進む。

1/2 ファイナル各組の敗者はスモール・ファイナルへ進む。

-スモール・ファイナル(3位4位決定戦)とビッグ・ファイナル(決勝)

ビッグ・ファイナルの勝者は1位となる。

ビッグ・ファイナルの敗者は2位となる。

スモール・ファイナルの勝者は3位となる。

スモール・ファイナルの敗者は4位となる。

-ジャンプ2本のうち良い方のジャンプがカウントされる。

-勝者が進む。

-予選得点の高い方の選手が決勝ラウンドを通じてずっと2番目にスタートする。

ビックエアー競技形式

男子

選手	1/8 決勝	準々決勝	準決勝	3位決定戦	決勝	勝者
1組						
1	<input type="text"/>					
16	<input type="text"/>					
		準々決勝1組				
		<input type="text"/>				
		<input type="text"/>				
2組						
8	<input type="text"/>					
9	<input type="text"/>					
			準決勝1組			
			<input type="text"/>			
			<input type="text"/>			
3組						
5	<input type="text"/>					
12	<input type="text"/>					
		準々決勝2組				
		<input type="text"/>				
		<input type="text"/>				
4組						
4	<input type="text"/>					
13	<input type="text"/>					
				3位決定戦	決勝	
				<input type="text"/>	<input type="text"/>	
				<input type="text"/>	<input type="text"/>	
5組						
3	<input type="text"/>					
14	<input type="text"/>					
		準々決勝3組				
		<input type="text"/>				
		<input type="text"/>				
6組						
6	<input type="text"/>					
11	<input type="text"/>					
			準決勝2組			
			<input type="text"/>			
			<input type="text"/>			
7組						
7	<input type="text"/>					
10	<input type="text"/>					
		準々決勝4組				
		<input type="text"/>				
		<input type="text"/>				
8組						
2	<input type="text"/>					
15	<input type="text"/>					

2本のベスト
 順位
 1-2位 決勝
 3-4位 3位決定戦
 5-8位 競技結果から決定
 9-16位 競技結果から決定

女子					
選手	準々決勝	準決勝	3位決定戦	決勝	勝者
	準々決勝1組 1 <input type="text"/> 8 <input type="text"/>	準決勝1組 <input type="text"/> <input type="text"/>			
	準々決勝2組 4 <input type="text"/> 5 <input type="text"/>		3位決定戦 <input type="text"/> <input type="text"/>	決勝 <input type="text"/> <input type="text"/>	
	準々決勝3組 3 <input type="text"/> 6 <input type="text"/>				
	準々決勝4組 2 <input type="text"/> 7 <input type="text"/>	準決勝2組 <input type="text"/> <input type="text"/>	2本のベスト 順位 1-2位 3-4位 5-8位		
				決勝 3位決定戦 競技結果から決定	

2805 ビックエアーの実施

ビックエアーコンテストにおいて、JNS“Jump Not Scored”として採点されない限り、すべての滑走が採点される。男 10 名、女 6 名が決勝へ進める。その他のすべての選手は、2本の予選ジャンプの高いスコアにて順位がきます。

2806 選手の用具

2806.1 ビブ

FIS 仕様に準ずる。

2806.2 ヘルメット

FIS 仕様と必要条件に準ずる。(条項 2010.6 参照)

2807 場内放送システム

- 2807.1 ビッグエア競技では音楽を使用する。音響システムは、選手がビッグエアコースの頂上にいても、はっきりとゆがみなく聞こえるように音量が十分なものでなければならない。
- 2807.2 音響係長は、競技中、音楽テープまたは CD に関する責任を負う。

2809 ビッグエアのジャッジング

- 2809.1 ビッグエアの各競技会では、ジャッジ 3～6 名がジャッジ基準に基づいて選手のパフォーマンスを独立して評価する。6 名制のジャッジの場合、最も高い得点と最も低い得点を除外し、カウントする。3～5 名のジャッジの場合は全てがカウントされる。
- 2809.2 ジャッジは、ビッグエア競技中、ビッグエアジャッジ基準に従ってスコアをつける。ジャッジは、準備段階も含めた競技期間中、ヘッドジャッジからの連絡に応じられるようにしなければならない。
- 2809.3 ジャッジは、ピブナンバー別にスコアカードにスコアを記入する。また、特記事項(トリック、転倒等)を記録するためにメモリーボードを携帯する。
- 2809.4 ヘッドジャッジが話し合いを始めた場合を除いて、選手のスコアに関する話し合いは一切許されない。
- 2809.5 選手、チームの代表者または観客が競技中、ジャッジスタンドに近づいたり、ジャッジに話しかけたりすることは許されない。
- 2809.6 ジャッジングから派生する抗議または問題はすべて、ヘッドジャッジ及び競技ジュリーが処理する。
- 2809.7 自分の家族が参加している競技会に、ジャッジとして任命されることは許されない。(孫、親、子供、兄弟、姉妹、夫、妻)

2809.8 ジャッジの責任と職務

ジャッジの責任と職務に関する主な項目は、FIS ルールブックのハーフパイプの項に記載されている。(条項 2615.1 を参照)
ビッグエアにおけるジャッジのすべての責任は、ハーフパイプとスロープスタイルと同じ原則が適用される。

2809.9 ヘッドジャッジの責任と職務

ヘッドジャッジの責任と職務に関する主な項目は、FIS ルールブックのハーフパイプの項に記載されている。(条項 2615.2 を参照)
ビッグエアにおけるヘッドジャッジのすべての責任は、ハーフパイプとスロープスタイルと同じ原則が適用される。

2810 ビッグエアの採点システム

- 2810.1 各ジャッジは、100 点法を用いる。(例:2、6、87、93 など)
各ジャッジは、100 点まで与えることができる。ジャッジのスコアは、各選手のランの平均化される。少数点以下第 3 位と 100 の・・が合計として表示される。

2810.2 スコアはすべて、各ランの終了後に掲示される。

2810.3 タイブ레이크

同得点(タイ)の選手がいる場合、同得点となった滑走における最も高い個別得点2つを比較して良い選手が勝ちとなる。尚同得点の場合、同得点となった滑走における高い個別得点3つを比較して良い選手が勝ちとなる。それでも尚同得点の場合、同得点のままとし、高いピブの選手が先の順となる。勝ち進めなかった(準決勝あるいは決勝に進めなかった)タイの選手は、最終リザルトおよび部分的なリザルト(予選リザルト、準決勝リザルト)には、上記同様に同位に掲載される。異なるヒートでタイが発生した場合は、同点決勝は行わない。

2810.3.1 予選ラウンド

条項 2810.3 以降にもタイの場合、以下のように順位を決める

第1ラウンド:男子6位/4位、女子3位/2位を同点で争う選手は、決勝に進出する資格を得る。このように同点となる状況が発生した場合は、決勝出場選手が男子12名女子6名になるように、第2ラウンドに出場する選手の人数を減らす。

第2ラウンド:第2ラウンドで同点が発生した場合は、第1ラウンドのスコアが高い方の選手が勝者となる。それでもまだ同点になる場合、決勝進出順位で同位となっている選手は全員決勝に進出する。その場合、決勝に出場する選手の人数を増やすものとする。

2810.3.2 決勝(3回のジャンプのうち上位2つのスコアの合計で判定)

3回の決勝ジャンプのうち、(決勝順位決定に合計して用いた2回のジャンプのスコアで)最も高い単独スコアを獲得した選手が勝者となる。これらのスコアが同点の場合、合計されなかったスコア(上から3番目のスコア)が高い方の選手が勝者となる。これらすべてのスコアが同点だった場合、両選手は同点のまま、同順位となる。

2811 ジャッジ基準

2811.1 総合印象(3~5 ジャッジカウティングスコア)

ジャッジは、転倒や他のミスを取り、各転倒/停止をラン/ジャッジのポイントから30%減点することができる。(条項 2811.2 参照)

ジャッジは十分なトリックの知識がなければならない。トリックを理解せずに結果を判定することは非常に困難である。

総合印象ジャッジとして考慮する必要がある。

(これらの順番は無関係である)

高さ

ビッグエアでは、高さが単なる“大きさ”ではなく、キッカーの“スイートスポット”で決めるランディングトリックである。キッカーにおける高すぎたり、低すぎるものは危険であり、ジャッジが考慮しなければならない。キッカーにおける良い高さとは、キッカーでの“ポッピング”やフラットではなく空中で良い軌道を描くことである。キッカーでわざとバターリングを行うことは例外となる。大きな技はトリックのリスクを増大させる。

難易度

難易度の効果は回転数以上のものがある

ジャッジ考察

- スイッチでのテイクオフまたはランディング
- フロントサイドまたはバックサイドでの回転
- ヒールまたはトゥでのテイクオフ
- 異なるグラブ
- ブラインドランディング
- 大小のキッカー（複数の選択肢がある場合）

グラブでトリックの難易度を変えることができる。BoningあるいはTweakingは異なる回転中に、ボード上でどこをどの腕でグラブするかによって難易度が上がる。

実行

テイクオフからランディングまで全トリックの間、コントロールを維持しなければならない。トリックは要項な安定性および流動性をもって行う。選手がトリックをする場合、それを完璧に自在に操れることを見せなければならぬ。回転フリップと異なるハイブリッドでは、回転はコントロールされた1つの技で行い、始まりから終わりまで同じ回転リズムでユニークな演技を行う。“トリックは簡単に見えるように”グラブはボード上で行う（ブーツでヤビンディングなどではなく）。グラブは全ての技において非常に重要で、ミスや弱いグラブはジャッジの採点に影響する。

進行

ジャッジの基準の中で進行することで、スポーツの楽しみを推進する。誰も成し遂げていないトリックにトライしよう。

ランディング

ランディングはトリックの最後の部分で、とても重要なパートである。ランディングはフルコントロールのもと行われ、トリックは完成されていないなければならない。（条項 2811.2 参照）

考察

ジャッジは、ハードトリックがどのようなものか“知る”ために、選手やコーチの意見を聞いてコミュニケーションをとる必要がある。この項目は、シーズン中に（各大会ではなく）公式のコーチミーティングでコーチと相談する。難易度は個々のもので、難易度を議論する際に選手やジャッジ、コーチがお互いに意見が合わないことがある。しかし、ジャッジはなにが簡単で何が難しいか明確に判断しなくてはならない。

2811.3

減点基準

- | | | |
|-------|----------|-------------------|
| 1～9 | 小さなミス | :手を引きずる |
| 10～19 | 中くらいのミス | :両手をつく、不安定にて反対となる |
| 20～29 | 大きなミス | :身体が雪に接触する |
| 30～ | とても大きなミス | :ボードが最初に雪に接地しない |

減点による採点は、正しく着地した場合の得点から減点される。

例として、エアでコントロールできなかったトリックで 45 点を獲得したが、着地で大きなミスにて 25 点を減点された場合、得点は 20 点となる。

2811.4

DEAL 得点(ジャッジ基準)

最低 6 人のジャッジが、ジャッジ基準に基づいて、選手の演技を個々に評価し、各ジャッジはそれぞれの得点をつけます(1-100)

ジャッジが得点をつけた後、彼／彼女はそれぞれの判定基準を分析して評価します。

DEAL 得点(難易度、完成度、高さ、着地)が入力されると、それぞれの判定基準がどれくらい良かったかが結果として表される。

(D)難易度 = 1-10

(E)完成度 = 1-10

(A)高さ = 1-10

(L)着地 = 1-10

4つの判定基準それぞれに対する 6 人全てのジャッジ評価が、平均値としてテレビにグラフィック化されます。

第 4 部

特別規則

2900 人工照明下の競技

- 2900.1 人工照明下で競技を実施することは認められている。
- 2900.2 照明は次の仕様を満たすものでなければならない：
- 2900.2.1 光度は、コースのどこで計測しても、コース表面で平行に測定した場合で 80 ルクス未満であってはならない。照明はできるだけ均一にする。競技がテレビ放映される場合は、テレビプロダクション責任者が光度をチェックする。必要に応じて、個別に特別な調整をする必要がある。
- 2900.2.2 投光照明(フラッドライト)は、光によって滑降コースの地形的特徴が変わらないように設置しなければならない。照明は、選手に正確な地形の様子を示すものでなければならない。深度や遠近感の正確性を変えるようなものであってはならない。
- 2900.2.3 照明は、レースラインに選手の影を投影したり、まぶしさによって選手の目をくらませたりしてはならない。
- 2900.2.4 コースに隣接している障害物や建物は、明るく照明する必要がある。
- 2900.3 技術代表とジュリーは、事前に照明が規則に合っていることをチェックしなければならない。主催者は、技術代表にコサイン修正付きの露光計を用意しなければならない。
- 2900.4 技術代表は、照明の質について、補足報告書を提出しなければならない。
- 2900.5 コースセッターは、照明状態が最もよい場所のコースにセットする。

3000 スノーボードスロープスタイル

3001 スロープスタイル

試合は多様なヒット、ジャンプ、レール、テーブルトップ、ビッグエア等があり選手が選択できるようなラインが2つ以上あるコース上で行われる。

3002 テクニカルデータ

	Slopestyle Criteria	Measurement
VD (m)	Vertical drop	
	Level A	min. 150,0 m
	Level B	min. 80,0 m
	Level C	min. 50,0 m
I (°)	Inclination, average	12,0° or steeper
SW (m)	Slope Width	30,0 m
TF (n°)	Type of features, all Levels	min. 2
SC (n°)	Sections, one or more features at the same location of the slope One judged hit can be evaluated	min.
	Level A	6
	Level B	4
	Level C	3
JP (n°)	Min. number of jump sections	
	Level A	3
	Level B	2
	Level C	1
	Start Criterias	
SA (m)	Start Area	Length 10,0 m Width 30,0 m
DW (m)	Drop-in Ramp Width	12,0 m +/- 4,0 m
DL (m)	Drop-in Ramp Length	min 6,0 m
	Finish Criterias	
FA (m)	Finish Area, length according to the construction and the speed of the last feature.	
FW (m)	Finish Area Width	min. 30,0 m
	Competition Level	
Level A	OWG, WSC, WJC, WC, YOG	
Level B	COC, UVS	
Level C	NC, FIS, EYOF, JUN	

3002.1 コースの全般的な特徴

平均斜度は 12° であるべきである。斜面は著しい斜度変化がなく、規則的な傾斜である必要がある。

スロープスタイルのコースは幅が 30m 以上なければならない。コースの標高差は 100m 以上、200m 以下でなければならない。

3002.2 スロープスタイル・コースの概要

スロープスタイル・コースは多様なアイテム(テーブルトップ・ジャンプまたはファン・ボックス、クォータ・パイプ、ウェーブ/ジャンプ、レール、リッジ、その他承認を受けたアイテム)を含むものである。それは、同じロケーションであっても、少なくとも評価ができる1つのジャッジ HIT があり、1 つまたは複数の特徴がある異なるセクションでなければならない。コースには、2 つ以上の異なる特徴的アイテムと下記に記された大会レベルに沿った最低ジャンプ数とジャッジ HIT をあわせたものがなければならない。

大会レベル	最低ジャンプ数	最低ジャッジ HIT
レベル A	3	6
レベル B	2	4
レベル C	1	3

コースは、レギュラーまたはグーフィーの選手のどちらかが有利にならないようにし、選手がフリースタイルスキルや才能を発揮できるようにする。各アイテム間の距離は滑らかなパフォーマンスを可能にするものであること。滑走時間が 20 秒以上になるようにコースはデザインされること。アイテムとコース全体は、男女双方の選手が使用するものとして造成する。

理想的なスロープスタイル・コースは技術的にチャレンジを要するもので、アイテムが幅広い多様性とバランスのとれた組合せで配置されたものとする。

3002.3 スタートエリアとフィニッシュエリア

スタートエリアは選手が試合のための準備ができ、コーチ、スタッフ、メディア・スタッフが作業できるよう、平坦で十分な幅がなければならない。フィニッシュエリアは選手が安全にパフォーマンスをできるように十分に幅がなければならない。フィニッシュエリアからコースの全体が見えなければならない。

3002.4 例外

インドア(屋内)形式やシティ・イベント(都市部で開催の大会)形式は例外とできる。

3002.5 安全対策

他のアイテムを作ることができるが、安全を考慮することは常に優先されなければならない。公開練習や大会の間、常にスタートエリアに最低 2 名のレスキュー／救急援助隊をスタート地点に配置しなければならない。

3003 選手の用具

3003.1 ビブ

ビブは組織委員会が配布し、形状やサイズを変えてはならない。フリースタイル用ビブを使用すべきである。試合に関連する全ての場面でビブは全て適切な方法で着用されなければならない(インスペクション、トレーニング、予選、決勝、表彰式)。

3003.2

ヘルメット

FIS の仕様と扱いに従う。(条項 2010.6 を参照)

3004

スロープスタイルの実施

予選ランはスロープスタイル大会の一部である。

予選ランの公式結果は、決勝進出する選手を決定する。決勝進出する選手の数(男子最大 24 名、女子最大 12 名)は、大会開始前のチームキャプテンミーティングで告知される。予選を通過した選手の最終ランキングは決勝のみで決まる。

公式リザルトは次を含む

-予選ランからのランキングリスト

-決勝における予選を通過した選手のファイナルランキング

大会の形式は、ヒート形式とシングル形式で変更されることがある。 Jury によって決定され、チームキャプテンミーティングにて告知される。

選手がスタートを出発した場合(ジャッジ達の用意ができて、スターターが選手にスタートの合図を出し、ヘッドジャッジがそれを示した後)、そのランはカウントされ、判定される(選手が最初の HIT で停止しても)。戻ったり再スタートはできない。予選 1 本目で失格となった選手は、予選 2 本目へは進出できない。

3004.1

インスペクション、トレーニング

選手はコースを横滑りする形で(アイテムの滑走をせずに)コースのインスペクションができる。インスペクションの時間はレース・Jury に一任される。選手はビブとヘルメットをインスペクション、トレーニングおよび競技中着用しなければならない。

実際の試合の前に少なくとも 1 回のトレーニングは行わなければならない。その際、全選手が 2 回以上コースを最初から最後まで滑ることが望ましい。可能であれば、そのトレーニングは実際の大会の前日に行われるべきである(ただし、特定の状況において Jury は他の可能性について決定することができる)。

3004.1.1

順位

予選に出場した選手達は、その予選の結果にて順位が決まる。勝ち進めなかった(準決勝あるいは決勝に進めなかった)タイの選手は、最終リザルトおよび部分的なりザルト(予選リザルト、準決勝リザルト)には、同位にて掲載される。

3004.2 大会形式

- 3004.2.1 シード分け
TC ミーティングにて、最新の FIS ポイントリストにてランクされた(男女とも)1~16 位の選手は第 1 シードとして、17 位以下の選手は第 2 シードとしてランダム・ドローにてシード分けされる。FIS ポイントを有する選手がエントリーしていない場合、全選手一緒にランダム・ドローをする。
- 3004.2.2 シングル形式(決勝:2 本のうちの 1 本採り、予選2本目全員参加)
条項 2604.1 と 2604.1. 1 を参照
- 3004.2.3 ヒート形式
条項 2604.3 を参照
- 3004.2.4 ダブルアップ形式
条項 2604.4 を参照
- 3004.2.5 準決勝形式
条項 2604.6 を参照
- 3004.2.6 準決勝ありのヒート形式
条項 2604.7 を参照
- 3004.2.7 XX 競技者が決勝に進出するヒート形式
条項 2604.3 を参照
- 3004.2.8 競技方式 3本 決勝
条項 2604.3.7 を参照 (2014.6 追加)

3004.3 決勝(上記のいずれかの形式が決勝にて使われなかった場合)

- 3004.3. 1 決勝:オープンセッション
決勝では、スタート順がランダムオープンセッションにできる。全ての選手は規定時間内(推奨:1 時間)に好きなだけコースセッションができる。オープンセッション中のすべてのランが採点され、それぞれの選手の最も高い得点のみが最終順位にカウントされる。タイの選手がいる場合は当該選手の、次に高い得点で決定する。オープンセッションの利用と時間は Jury によって決定され、TC ミーティングで発表される。

3004.5 競技 Jury

- スロープスタイルの Jury 構成は
- 技術代表
 - 競技委員長
 - ヘッドジャッジ

3005 場内放送システム

スロープスタイル競技では音楽を使用する。サウンドシステムは、パワーがありコースの長さに応じたものを使用する。選手が斜面のどの部分にいても音楽が明瞭に歪みなく聞こえなければならない。音響係長は責任を持って適切な音楽を提供する。

3006 ビデオジャッジ

3006.1 ビデオジャッジ

上位レベルの FIS 競技(OWG、WSC、WC、JOWG、JWSC)においては、ビデオジャッジがある。ジャッジスタンドに 2 つ以上の大画面を設置し、TV 映像からの情報供給(それは一貫性を持って全体のコースをカバーしている)、および十分な技術的な画像(選手の、ランの途中、レール、エア、ランディング、同様な画像などを含む全てのラン)が必要である。

3007 スロープスタイルのジャッジング

3007.1 ジャッジの人数

ジャッジ 3~6 名が、ジャッジ基準に基づいて選手のパフォーマンスを独立して評価する。6 名制のジャッジの場合、最も高い得点と最も低い得点を除外し、カウントする。3~5 名のジャッジの場合は全てがカウントされる。コースの長さや展望の関係で 2 つのジャッジスタンドとなる場合、ジャッジ 6 名(各セクション 3 名ずつ)に加えてヘッドジャッジ 1 名とする。条項 3006 を参照。各ジャッジの得点の合計得点が各選手の最終得点となる。

3007.2 総合印象

ジャッジは、スタートからフィニッシュまで総合で得点をつけ、個々の演技に関して正確な性質を評価する。トリックの順番や難易度とコースの使い方を評価するうえで、全体的な構成は非常に重要である。ジャッジは、転倒やミス、停止を考慮し、各転倒/停止/ジャッジポイントから最大 20%減点することができる。(条項 3007.4 参照)
ジャッジは十分なトリックの知識がなければならない。トリックを理解せずに結果を判定することは非常に困難である。

総合印象ジャッジとして考慮する必要がある。
(これらの順番は無関係である)

大きさ

スロープスタイルにおいて、高さが単なる“大きさ”ではなく、キッカーの“スイートスポット”で決めるランディングトリックである。キッカーにおける高すぎたり、低すぎるものは危険であり、ジャッジが考慮しなければならない。キッカーにおける良い高さとは、キッカーでの“ポッピング”やフラットではなく空中で良い軌道を描くことである。キッカーでわざとバターリングを行うことは例外となる。大きな技はトリックのリスクを増大させる。キッカーでわざとバターリングを行うことは例外となる。スロープスタイルコースで、高さはレールや他のアイテムに関して“エネルギー”として考慮されることもある。より高い技はトリックのリスクを増大させる。

難易度

難易度の効果は回転数以上のものがある

ジャッジ考察

- スイッチでのテイクオフまたはランディング
 - フロントサイドまたはバックサイドでの回転
 - ヒールまたはトゥでのテイクオフ
 - 異なるグラブ
 - ブラインドランディング
 - 大小のキッカー
 - 難しい組合せやトリックの連続技
 - 異なる回転軸(縦/横軸、垂直軸)
 - どのようにレールに乗ったり下りたりするか、易しい、または難しい方法か、どう回転するか、簡単なボックスかよじれたレールか。
- グラブでトリックの難易度を変えることができる。Boningあるいは Tweaking は異なる回転中に、ボード上でどこをどの腕でグラブするかによって難易度が上がる。

実行

スタートからフィニッシュまで全トリックの間、コントロールを維持しなければならない。ライディングは要項な安定性および流動性をもって行う。選手がトリックをする場合、個々のトリックを完璧に自在に操れることを見せなければならぬ。回転フリップと異なるハイブリッドでは、回転はコントロールされた1つの技で行い、始まりから終わりまで同じ回転リズムでユニークな演技を行う。“トリックは簡単に見えるように”グラブはボード上で行う(ブーツでヤビンディングなどではなく)。グラブは全ての技において非常に重要で、ミスや弱いグラブはジャッジの採点に影響する。

多様性

選手がランをあらかじめ形成するとき、多様性をもたせることが鍵になる。よいランに異なるトリックを混ぜる。異なる方法でスピニング。バックサイド/フロントサイド、左/右、縦軸/横軸、テイクオフとランディングは、スイッチとノーマルの混合でなければならない。異なるスピニングで異なるグラブで板をつかむ。

進行

ジャッジの基準の中で進行することで、スポーツの楽しみを推進する。誰も成し遂げていないトリックにトライしよう。

組合せ/フロー

組み合わせは、スロープスタイルにおけるすべての異なるアイテムを組み合わせ、良いハードトリックから成り立つ多様性と近い共通部分を持つ。
トリックの構成は、そのコースで利用できるように適当な方法で適していなければならない。

考察

ジャッジは、ハードトリックがどのようなものか“知る”ために、選手やコーチの意見を聞いてコミュニケーションをとる必要がある。この項目は、シーズン中に(各大会ではなく)公式のコーチミーティングでコーチと相談する。難易度は個々のもので、難易度を議論する際に選手やジャッジ、コーチがお互いに意見が合わないことがある。しかし、ジャッジはなにが簡単で何が難しいか明確に判断しなくてはならない。
グラブでトリックの難易度を変えることができる。BoningあるいはTweakingは異なる回転中に、ボード上でどこをどの腕でグラブするかによって難易度が上がる。

3007.4

減点基準

1～5	小さなミス	: 着地時の不安定な体制(手をつく)
6～15	中くらいのミス	: 軽いタッチダウン、しっかり手を着く、雪面との接触
16～20	大きなミス	: しっかりとしたタッチダウン、転倒、完全転倒

トリックで完全に正確に着地して与えられた得点から、ジャッジによって減点される。例えば、コントロールできていないランで 45 ポイント得たとして、大転倒で 20 ポイント取られるとすると、選手は 25 ポイントが与えられる。

3007.5

全般基準

ヘッドジャッジが話し合いを始めた場合を除いて、選手のスコアに関するジャッジ間の話し合いは最小限にする。

-選手、チームの代表者または観客が競技中、ジャッジスタンドに近づいたり、ジャッジに話しかけたりすることは許されない。

-ジャッジングから派生する抗議または問題はすべて、ヘッドジャッジ及び競技ジュリーが処理する。

3007.6

区間別ジャッジ(セクションバイセクション)

配置構成 / ジャッジシステム

採点方法:

最低7名から最大10名のスコアリングジャッジ:

ワールドカップ(WC)、世界選手権大会(WSC)及び冬季オリンピック(OWG)では、区間別ジャッジ形式で行う場合、最低でも9名のスコアリングジャッジが必要とされる。

ジャッジは二つに分けられる:トリックジャッジ/オーバーオールジャッジ
トリックジャッジの得点は:総得点の60%である。

オーバーオールジャッジの得点は：総得点の40%である。

それぞれにおいてオーバーオールジャッジは、1-100点を入力、トリックジャッジは、0-100点を入力し、そしてデータリザルトシステムで再計算をおこなう。

トリックジャッジ：2-3名構成のトリックジャッジはスロープスタイルコースの異なる区間で採点を行う。ジャッジは2-3名で構成され、それぞれにおいてお互いにコース上の2つまたは3つの区間を採点します。トリックジャッジは各区間における順位付けの為に得点を使い、各区間を個別に採点します。

各区間における得点は、スロープスタイルのすべての区間において等しい評価として分けることができる。または、各アイテム/区間において、異なる評価とする事もできる。一つの区間における異なるアイテムも異なる評価とする事ができる。

オーバーオールジャッジ：3-4名構成のオーバーオールジャッジが審判基準に基づいてランを採点する。

オーバーオールジャッジからの総得点とは全オーバーオールジャッジからの得点の平均を算出したものである。

3007.7

区間別ジャッジにおける減点

1-20 小さなミス： 着地時の不安定な体制、軽く手をつく、不安定を解消するため手でバランスをとる

21-60 中くらいのミス： リバート、軽いタッチダウン、しっかりと手をつく、雪面との接触

61-80 大きなミス： しっかりとしたタッチダウン、転倒、完全転倒

3008

スロープスタイルの採点システム

3008.1

ポイントシステム

各々のジャッジは、100ポイント制(例えば、2、6、87、93など)を使う。各選手に最大100ポイントを与えることができる。得点は、各ランの平均値となり、第2の小数と100の中のXX,XXがその特定の走力のための完全なスコアとして示されたあと、頭を切られて小数点以下1桁の採点システムで採点され、それがそのランの得点として表示される。

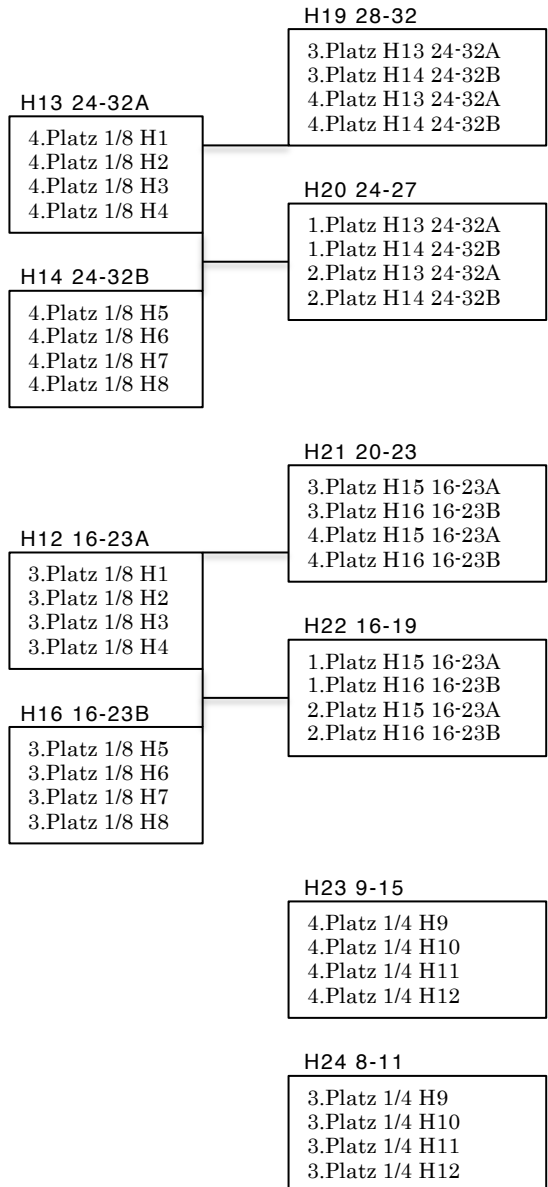
Brackets to 2705.2.6

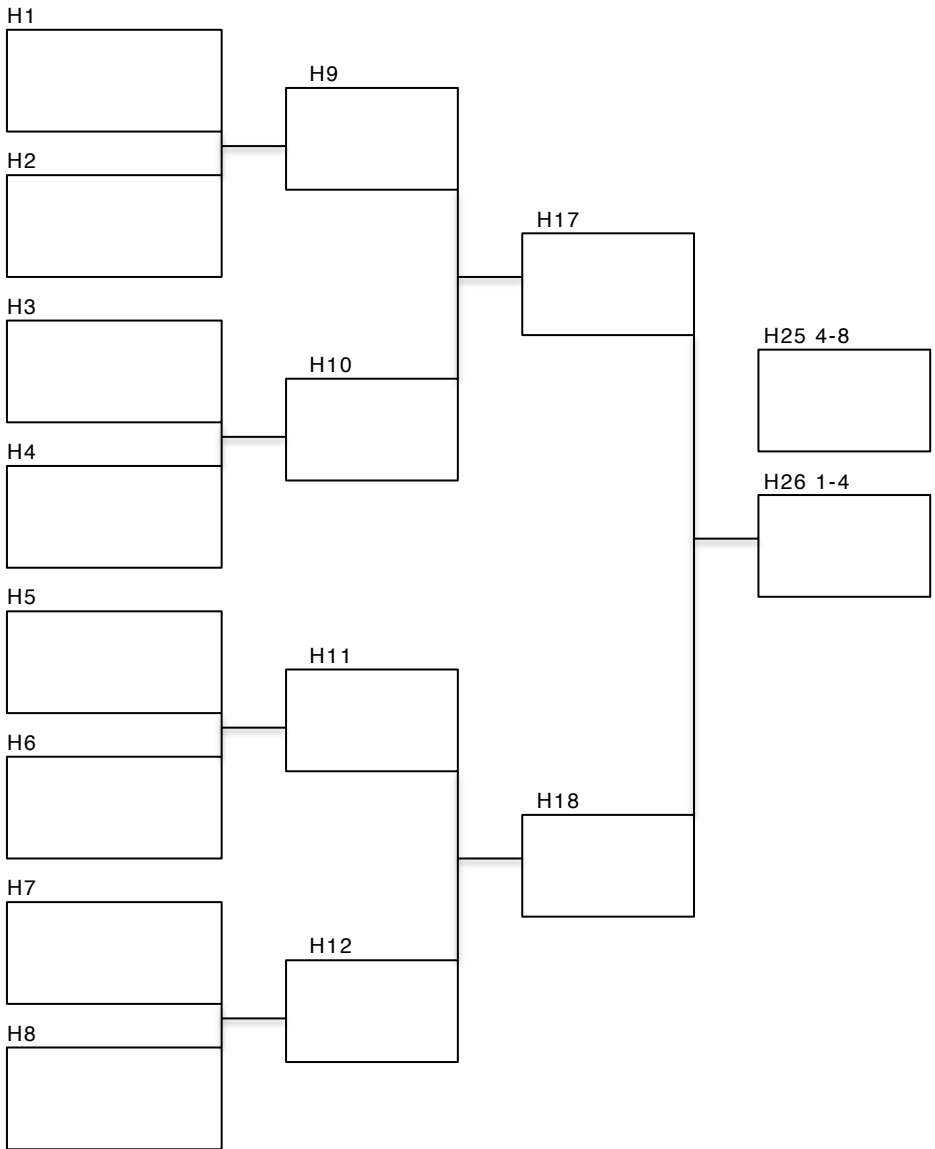
1/8 Finale

1/4 Finale

1/2 Finale

Finale





1/16 Finale

1/8 Finale

1/4 Finale

1/2 Finale

H25 49-64A

4. Platz 1/16 H1
4. Platz 1/16 H2
4. Platz 1/16 H3
4. Platz 1/16 H4

H26 49-64B

4. Platz 1/16 H5
4. Platz 1/16 H6
4. Platz 1/16 H7
4. Platz 1/16 H8

H27 49-64C

4. Platz 1/16 H9
4. Platz 1/16 H10
4. Platz 1/16 H11
4. Platz 1/16 H12

H28 49-64D

4. Platz 1/16 H13
4. Platz 1/16 H14
4. Platz 1/16 H15
4. Platz 1/16 H16

29 33-48A

3. Platz 1/16 H1
3. Platz 1/16 H2
3. Platz 1/16 H3
3. Platz 1/16 H4

30 33-48B

3. Platz 1/16 H5
3. Platz 1/16 H6
3. Platz 1/16 H7
3. Platz 1/16 H8

31 33-48C

3. Platz 1/16 H9
3. Platz 1/16 H10
3. Platz 1/16 H11
3. Platz 1/16 H12

32 33-48D

3. Platz 1/16 H13
3. Platz 1/16 H14
3. Platz 1/16 H15
3. Platz 1/16 H16

H37 24-32A

4. Platz 1/8 H33
4. Platz 1/8 H34
4. Platz 1/8 H35
4. Platz 1/8 H36

H38 24-32B

4. Platz 1/8 H33
4. Platz 1/8 H34
4. Platz 1/8 H35
4. Platz 1/8 H36

H39 17-24A

3. Platz 1/8 H33
3. Platz 1/8 H34
3. Platz 1/8 H35
3. Platz 1/8 H36

H40n17-24B

3. Platz 1/8 H33
3. Platz 1/8 H34
3. Platz 1/8 H35
3. Platz 1/8 H36

